

社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

〔桐生のあゆみ〕

No 31

桐生織物同業組合

桐生の織物業界は、明治初期には早くも各種の新規織物を開発し、他産地にさきがけて好況を呈するようになった。その為、産地内には目先の私利に汲々として粗製濫造に走り、産地の信用を失墜させるような業者も出て来た。こうした弊害を防ぐため、明治12年、桐生市と近在の町村の機業家171人をもって、桐生会社と称する団体を組織し、自主的に粗悪品の防止を図った。

明治15年には買継商も加入し桐生物産会社と改称、更に明治26年には桐生商工業組合を設立、ここに桐生物産会社を合併、生糸商・唐糸商・撚糸商・練張業・紋工蔑職・機拵職・染料商・呉服商に至るあらゆる織物関連職種を網羅する組織とした。

これが明治31年には桐生物産同業組合、38年には桐生織物同業組合と名称変更して昭和12年まで続いた。

同業組合は12の部門に分れていた。1部御召織物製造業、2部平着尺織物製造業、3部帯地織物製造業、4部生織物製造業、5部洋反織物製造業、6部輸出織物製造業、7部内地織物買継商、8部輸出織物買継商、9部整理業、10部染色業、11部

原料商、12部織物加工販売業。

この同業組合が産地の発展に寄与した功績は誠に大きなものがあった。また同業組合長は初代福田常吉以来、歴代すぐれた組合長を輩出している。桐生会社時代より、その事務所は、今の青年の家（旧女子高跡地）の所にあったが後に現在の織物会館旧館の所に移した。なお、この織物会館旧館は昭和9年、名組合長と云われた彦部駒雄組長時代に設立されたもので、桐生の近代化遺産の一つとして貴重な建物になっている。

同業組合解散後、産地内には多数の繊維関連組合ができ、幾多の変遷を重ねて来た。現在桐生市繊維振興協会加盟の組合は20を数える。織物製造業者の組合は7年前に桐生織物協同組合として一本化ができたが、同業組合時代のような繊維関連全業種の本一本化も参考にすべき時が来ているかも知れない。



織物会館旧館

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎4月

行事委員会(1日)
理事会(8日)
ゴルフ部会(12日)文化祭協賛ゴルフ大会 於城山CC
歩く会(17日)「信州あんずの里を訪ねて」
月次会(18日)中国「上海」講師 塚越理事長 他
音楽鑑賞部会(20日)室内楽の夕べ
将棋部会(23日)文化祭協賛将棋大会
歩く会世話人会(25日)
21委員会(26日)

写真部会(26日)

俳句会(28日)

囲碁部会(29日)文化祭協賛囲碁大会

◎5月

麻雀部会(9日)文化祭協賛麻雀大会

理事会(10日)

歩く会世話人会(13日)

文化祭(13日～15日)

ガーデンパーティ(15日)

俳句会(28日)

多彩に社員文化祭

今年で20回めを迎えた当桐生倶楽部の社員文化祭が4月12日のゴルフ大会を皮切りに“成人”にふさわしく多彩にくりひろげられました。



囲碁、麻雀に俳句会など催物の日程は別表のようですが、メインはやはり美術展。

二階広間に展示された作品は、写真50点、絵画10点、陶芸20点に加えて俳句が14点で、いずれも当倶楽部社員のカルチャー・センスの良質ぶりを実証する力作ばかり。参観の市民も思わず足をとめており、来年が期待された美術展でした。

また、最終日15日に行われたテノール歌手小室圭一さん(笠懸町在住)の唱うイタリア民謡の響きが、あいにくの雨空を吹き飛ばすように全館いっばいに響いて文化祭の掉尾を飾って圧巻でした。

文化祭の協賛行事と催物

• ゴルフ大会	4月12日	8時～	城山CC
• 将棋大会	4月23日	17時～	6号室
• 俳句大会	4月28日	19時～	2号室
• 麻雀大会	5月9日	18時～	ケイエム
• 囲碁大会	4月29日	10時～	6号室
• 絵画展	5月13～15日	10～17時	広間
• 写真展	同	同	同
• 陶器展	同	同	同
• 俳句色紙展	同	同	同
• ビデオ鑑賞会	5月15日	13～16時	ロビー
• ガーデンパーティ	5月15日	16時～	階上及びテラス他

各大会入賞のみなさん

(敬称略)

• ゴルフ

優勝	田中 克巳	準優勝	五十嵐健雄
三位	森田 良徳	四位	片柳 康宏
五位	長谷川 正		

• 麻雀

優勝	亀田 和夫	準優勝	蓮沼 源一
三位	蓮 直孝	四位	吉野 一郎
五位	遠藤 俊一		

春の叙勲・大臣表彰

毎年、当倶楽部社員の中から叙勲・褒賞・大臣表彰等の受章者が出ております。今年も下記の方が栄誉を受けられました。まことにめでたいことで、社員一同心からお祝いを申し上げます。

勲五等瑞宝章(調停委員功勞) 吉野一郎氏
 文部大臣表彰(学校保健功勞) 高橋貞雄氏

また、県総合表彰の受章者は下記の方々です。

商工功勞 岸田英作氏・斎藤守弘氏
 土木功勞 金子 宏氏

• 将棋

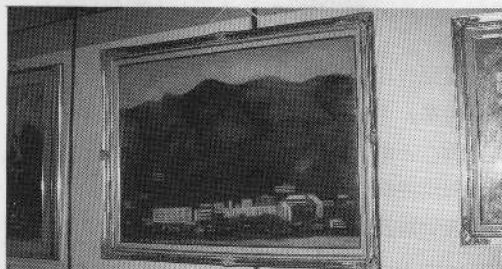
優勝 木村 俊一 二位 三田 章
 三位 出口孝二郎

• 囲碁

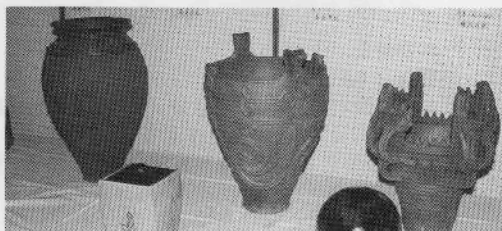
優勝 岡田 光弘 優勝(同率) 野田友治郎
 三位 遠藤 克久 四位 福永 儀一
 五位 金谷 利男



うたう小室さん



金谷さんの大作



陶芸作品の一部

月次会報告 【4月】

上海を見て、聞いて、歩いてみて



最近の中国の経済発展は驚くべきものがある。4月の月次会は、3月8日から11日まで「きりしん上海経済ミッション」として中国の産業活動を見学してきた木島清理事と山口正夫理事の2人、更に昨秋群馬経済同友会中国研修視察団の団長として北京・深圳（経済特区）を視察した塚越理事長から経済を中心とした中国の現状を話していただいた。

（上海）「商品交易会（展示会）」を見た。17省から千をこえる事業者が参加。殆どの世界各国のイミテーションが豊富に低価格で並んでいた。しかし高度の技術が必要な製品はまだ無理のように思える。

まちの印象は昭和20年代前半の東京と現在の新宿とをミックスしたようである。近代建築のビル、その前を豚のせたりヤカーが通る。デパートへ行くのをとめられた。日本人は必ずスリに狙われるからという理由。

（深圳シンセン）中国で最も急激に変貌している。もとは人口2万人の田舎町であったが、1979年に経済特区に指定されたことによって、現在は人口260万人。工業企業5757社。工業生産高371億元（92年）、6678億円。製品の輸出割合60%以上で、

欧米・日本・香港などが主な輸出先だそうである。

91年7月には証券取引所がオープン。（上海に次いで二番目）、一般市民の間にも株式ブームが起っている。

上海・深圳の2地区は中国経済発展のシンボルのようである。

〔歩く会〕 4月例会 信州あんずの里を訪ねて

4月例会は、17日（日）6時桐生駅集合、JRで信越線屋代駅まで。ここからバス15分で更埴市の“あんずの里”に着く。15万本といわれるあんずの花は満開。約2時間半の自由時間をもって森部落を歩き花を楽しんだ。

午後は上田市の上田城のさくら見物。これまた丁度満開。1日であんずとさくらの美しさを満喫できた春爛漫の旅であった。



あんずの里



上田城と桜

第1回 倶楽部21委員会 新委員会発足

「あと僅かで21世紀を迎えようとして、世界が激しく変化をしている。このような時代にあって、21委員会というのは桐生倶楽部創始の精神に立って、刻々に変化する政治・経済・文化・教育・環境等あらゆる事象について、自由な立場から研究や討議を重ね、各自の意見を確立し、時代のニー

ズや変化をいち早く捉え行動することにより、わがまち桐生市が輝かしい21世紀を迎えるよう努力したいと思う」。こんな趣旨で桐生倶楽部文化活動委員会の中に新部会「21委員会」が誕生。100人をこえる部員で4月26日に第1回の委員会が開かれた。

役員は互選により下記のように決定。

委員長 赤石清安、副委員長 黒沢誠・塚越紀隆
幹事 黒田豊・藤原崇紀・大西康之・松島宏明・森寿作

担当理事 山口正夫

◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆

(敬称略)

われていたが、まことにムードは満点、聴く方も演奏者にとっても楽しい音楽会だった。また、休憩時間に中庭でワインが飲めるなどは、桐生倶楽部ならではのものである。



桐生倶楽部 三月旬会

竹伐れば啓蟄の水溢れくる	本 田
悉く屋根を残して霞みけり	清 水
春の泥轍のままを写しけり	大 槻
巨大なる廢船浮かべ海霞む	小 池
春霞まよえば高し安芸小富士	倉 林
はるばると牛飼ふ村の夕霞	尾 沢
残り雪山を刻みて宿の朝	広 瀬

桐生倶楽部 四月旬会

春寒し父の骨壺抱き帰る	久 保 田
誘ふごと誘はるるごと蝶纏れ	本 田
カラクリの時刻(とき)待つ母子春うらら	尾 沢
コーヒーの渦消え残る花疲れ	倉 林
麗かや投げ銭多し大道芸	小 池
いくばくの余命を知るや蝶の舞	金 谷
急行の止まりし先を黄蝶かな	大 槻
蝶の舞い昨日は一つ今日二つ	清 水

第 3 回 桐生倶楽部室内楽の夕べ

4月20日(水)6時半より、会館2階のホールで、桐生倶楽部音楽鑑賞部主催の「室内楽の夕べ」が開かれた。入場者は社員・家族・友人等約100人。

今回の出演はラーク弦楽四重奏団にオーボエ奏者が加わって5人。ラーク四重奏団のメンバーはヴァイオリンが阿形和子、加代康子、ヴィオラは小崎えり子、チェロ富山節子。いずれも群馬・栃木に在住し、それぞれ独自の演奏活動を続けている女性だけの編成。オーボエは神永秀明さんの特別出演。

前々から「倶楽部に室内楽は良く似合う」と云

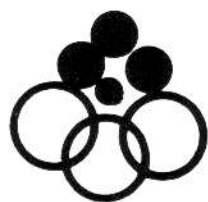
社団法人 桐生倶楽部会報 第81号

1994年(平成6年) 6月発行

発行人 塚 越 平 人

編集責任者 小 池 久 雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

〔桐生のあゆみ〕

No 32

頌徳碑

明治・大正期、桐生織物業界に大きな足跡を残した人の徳をほめたたえる碑、頌徳碑が市内に四碑現存している。今回はその碑を紹介し、その偉業を偲びたいと思う。

1. 森山芳平頌功碑

森山芳平(1854年—1915年)は、15才の時から父芳右衛門と共に機業に従事、明治時代を通して、桐生織物業の近代化に大きな貢献をした開明的な機業家。紋織技術の改善、福井・山形などの後進地に対する羽二重織の伝授、各府県からの伝習生に対する教育、国内国外の各種の博覧会・共進会の数十回の人賞と、審査員としての仕事など。単



故彦部駒雄氏銅像

に個人的な利益・名誉からでなく、常に国家的見地に立って日本全体の機業の水準を引き上げるべく努めた人である。

今泉にある森山家の裏庭の頌功碑は、明治10年より14年間にわたり、各府県から集まっ

た伝習生が、森山父子から染色及び機織の指導を受けたことを感謝して、明治22年に建立されたもの。碑面に芳右衛門・芳平親子の業績が刻まれている。

2. 佐羽喜六頌徳碑

佐羽喜六の業績については、倶楽部会報第75号の日本織物株の項を参考にさせていただきたい。その頌徳碑は産文前の織姫神社境内に立っている。喜六の死の翌年明治34年8月、日本織物株の社員達が喜六の死を悼み、費用を出し合って建立したものである。

3. 井岡大造頌徳碑

井岡大造については、倶楽部会報第80号の桐生織物学校の項で記述した。織物学校第2代目の校長である。頌徳碑は大正3年先生の没後、薫陶を受けた子弟や関係者によって、桐生ヶ丘公園(動物園ライオン檻の横)に建てられた。

4. 彦部駒雄頌徳碑

彦部駒雄は大正15年9月、50才の時桐生織物同業組合組長に就任、産地振興のため大きな貢献をして名組長と言われた人である。特に長い間の集散地問屋の取引の悪弊を正し、常に海外に目を向け輸出振興を図った。桐生織物史の編纂、織物会館の建設も彦部組長による。昭和10年3月没。昭和13年4月織物会館敷地内に、地球儀に手を合わせた彦部駒雄の雄姿が、3.6mの銅像として建てられ、台座の裏面に頌徳の銘が刻まれた。残念ながら銅像は昭和18年戦争のため供立させられ、今は頌徳碑だけが残っている。(左の写真)

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎6月

歩く会(5日)「新緑の三国峠田街道とランプの湯法師温泉」

21委員会(6日)

理事会(13日)

21委員会(17日)

月次会(21日)「桐生市の都市計画について」

講師 桐生市都市計画課課長 星野宗市氏

桐生倶楽部はぐるま句会(28日)

歩く会世話人会(28日)

◎7月

21委員会(5日)

理事会(11日)

会報委員会(12日)

歩く会世話人会(22日)

21委員会(22日)

月次会(23日)「花は自然のお医者さん」

講師 片桐義子氏

桐生倶楽部はぐるま会(27日)

歩く会(31日)「梅雨明けの会津磐梯山登山」

月次会報告 【6月】**桐生市の都市計画**桐生市都市計画課課長
星野 宗市氏

当月の月次会は、3月の「桐生市の人口問題」について、表題のテーマをとりあげました。魅力ある都市づくりは繁栄する街の必須条件です。おかげで大変関心が高く、約50人の出席者は星野講師の話に熱心に耳を傾けていました。

以下、当日の講演の要旨。

○桐生市の都市計画

桐生市の都市計画区域は、行政区画面積(137.47km²)全域が対象であり、昭和48年12月20日実施の線引きで市街化区域と市街化調整区域に区分されました。

桐生市は全体の74.2%が山林であり、市街化調整区域も78%ですので、平坦な土地はほぼ市街化区域となっております。

用途地域別にみますと、準工業地域が41.4%と他市に比較して極端に多いのが桐生市の特長と申せましょう。というも織物の町として古くから家内工業的産業が発達した結果、住居と工場の混在が避けられなかったことに依ります。このため住工混在による住環境の改善や産業基盤の整備に不都合を来たしてきており、将来的には純化を図ってゆく必要があります。

現在、都市計画法、建築基準法の改正に伴って見直しの作業を進めておりまして、平成7年度には変更事務手続きを行う予定です。

○都市計画道路

桐生市の都市計画道路は、昭和12年に都市計画

決定され昭和31年に大きく変更されました。その後、桐生大橋線、松原橋線などが追加されて現在49路線84,964mとなっております。

戦災を免れた街として歴史を感じさせる町並みのほか、中心商店街などにみられるような近代的に整備された地方都市です。他市は戦災復興事業や区画整理事業により都市基盤整備が進められたが、桐生市は用地買収方式による道路拡幅事業で山ノ手線や中道り線工事がいち早く進められました。

中心市街地は、昭和38年頃よりスタートした商店街近代化事業と道路拡幅によって中央商店街、本町6、末広町、本町4、本町3と順次整備されて参りました。

桐生市の中心縦軸は、なんといっても本町通りであり東側に中通り線、西側に新川橋線と3本軸が完成。横軸は、末広町通り、永楽町線、幸橋線さらにコロンバス通り等、近年、旧市街地の道路網整備は着々と進行しつつあります。

このように市街地中心部については、道路整備に力を注いできたが、市内交通の円滑化だけでは期待される産業、経済の発展は望み難い。

近年、車両の高速化、大型化、さらに自動車による輸送量の増大等を背景に、他都市との流通を考えると、どうしても高速道路や近隣都市へ向けた幹線道路ネットワークが今後ますます必要不可欠なものとなってきます。

その代表的なものが、北関東自動車道へのアクセスとして現在整備中であります桐生大橋線であります。

また、現在計画を進めております仮称中通り大橋線計画であります。国道50号線から4車線道路の表玄関として、桐生市街地への入り口を明確にするとともに、飽和状態にある錦桜橋、昭和橋の交通渋滞も解消し、さらに将来は、八王子丘陵を越えて藪塚インターに結びたい——というのが本計画の構想です。

なお、桐生市の都市計画道路は見直しの時期に入っており現在調査中です。秋頃には皆さんにお示しできると思います。

桐生市の街の活性化は、旧市街地を区画整理の促進によって土地の高度利用と有効活用をはかることで都市機能の向上につとめる。また、その基幹である道路の整備が最重点の課題と申せましょう。

◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆



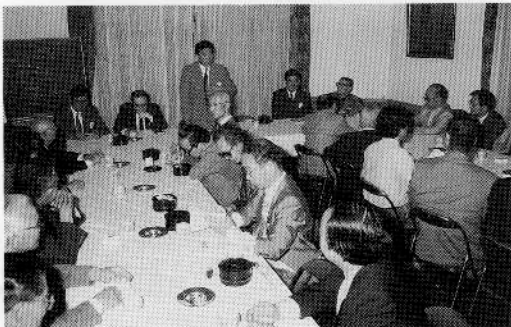
再び創始の精神を、 21委員会が発足

桐生倶楽部内に「21委員会」が発足しました。「桐生倶楽部創始の精神に立ち返り、再び世界へはばたく桐生とりもどそう」をテーマに、かねてから有志間で準備中だったもの。4月26日の発起人会を皮切りに6月6日、7月5日とすでに3回の会同をもち、早くも具体的な行動に踏み出しました。ただ今のところ会員は100人で、委員長は赤石清安理事。

桐生倶楽部は大正5年の発足だが、その前身は明治33年にできた桐生懇話会。毎月、月次会を開いて情報を交換し、町政、教育文化、産業経済分野などに幅広い振興策をたて、商工業内の発刊から桐生駅の改築、報道機関の誘致、電話架設、電力会社の設立、商工業者消費組合の設立などつぎつぎに懸案を解決、近代都市・桐生を創出する原動力の役目を果たしてきました。

21委員会は、この桐生懇話会の精神にのっとり再び桐生を活気あるまちにしていこう、と設立したもので、成りゆきが注目されています。

赤石委員長は設立にあたって、つぎのように話



をしております。

「特定のジャンルにこだわらず自由な発想のもとで、委員会としてやるべきことを決め、桐生の発展につながる研究、提言、そして行動をおこしていきたい。当面、ファッション・タウンを柱にすえた幅広い意味での観光立地への提言を行って参りたい。」

桐生倶楽部はぐるま旬会(五月)

菖蒲湯と書きし銭湯裏小路
三脚の高さにかがみ花菖蒲
夏立つや骨董市の紺緋
棟上げるご弊立夏の陽に白し
段々の菖蒲畑に傘の列
夏立つや小川の水を堀に分け
緑陰や神社の裏の弓試合
筒の寿司巻く手つき母に似て

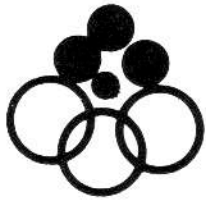
久保田 本 田 小 池 大 槻 森 清 水 倉 林 下 山

桐生倶楽部はぐるま旬会(六月)

一鉢に余るあじさい球重き
夏帽子風にとらるる峠越へ
碁敵の一思案して額の花
ところてん突き出す婆の太き節
清水掬む背中に廻す夏帽子
柴陽花の青に始まる今朝の路地
さみだれの川音はさみ高話し
花束を陛下に捧ぐ夏帽子
見る限り菅笠並ぶ解禁日

本 田 小 池 大 槻 尾 沢 久 保 田 森 倉 林 清 水 下 山

社団法人 桐生倶楽部会報 第82号
1994年(平成6年) 8月発行
発行人 塚 越 平 人
編集責任者 小 池 久 雄
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

〔桐生のあゆみ〕

No. 33 島霞谷と隆 (かこ) (りゅう)

日本の女性写真師第一号とされるのは島隆である。隆は文政6年、桐生の上久方村岡田家に生れた。長じて東久方3丁目にあった松声堂塾に学び、その優れた才気を塾主田村梶子に認められ、江戸一橋家の右筆(書記)に推挙された。そこで島霞谷と出会い結婚する。

隆は霞谷に写真術を学び、下谷に開業した写真館を経営した。隆は桐生倶楽部の元理事であり、シマ画廊主人の島勝二氏の祖母である。隆は霞谷の死後桐生へ戻る。その際持ち帰ったさまざまな資料が、梅田1丁目島家の土蔵に長年眠っていた。島勝二氏の依頼で郷土史家山鹿英助氏(桐生倶楽部社員)が資料を整理し、1枚の小さい写真を見つけた。これが元治元年(1864年)に隆が霞谷を撮影したポートレート(鶏卵紙)と判明、続いて愛用の写真機などが発見され、女性写真師第一号を裏づけるものとなったのである。

島霞谷は文政10年(1827年)、栃木町の豪商の家に生れた。幼少から画に親しみ、20才の時江戸小石川の椿山(ちんざん)の画塾に学んだ。画家としてスタートした霞谷は通訳・翻訳などの仕事で一橋家に入りしっていた。これが隆との縁になる。後、幕府の藩所調所に入る。

「芸術新潮」9月号に、「幕末一の好奇心男島霞谷ここにあり!」という見出しで霞谷の業績を紹介している。南画・通訳・翻訳から、洋画と写真術をマスター、さらに独自の鑄造活字まで作り上げてしまった。その多面的な活動は驚嘆すべきものがある。

本年7月には有鄰館とシマ画廊で「島霞谷の仕事展」が開かれ、最終日には明治美術学会の主催で「日本の近代美術と島霞谷」のテーマでシンポジウムが開かれた。東京大学名誉教授の芳賀徹氏をはじめパネリストの学者、学会からも60人も出席、日本の文明開化期の先駆者としての島霞谷の仕事に賛辞を寄せていた。

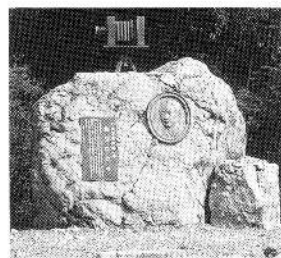
島霞谷の貴重な遺品は14年前、山鹿英助氏によって発見された。以後長年にわたり真摯な調査研究が続いている。



島霞谷
(隆の撮影)



島隆の肖像
霞谷の作品(油彩)



鳳仙寺入口附近の
島隆記念碑

＝ 倶楽部 だより ＝

- ◎ 8月
 - 21委員会(1日)「ファッションタウンと観光地化」・第三次総合計画に於ける位置づけ
 - 講師 遠坂 久氏
 - 理事会(10H)
 - 桐生倶楽部はぐるま句会(26日)
- ◎ 9月
 - 21委員会(5日)

- 月次会(11日) 歩く会担当「初秋の信州諏訪湖畔美術館めぐり」
- 理事会(12日)
- 会報委員会(14日)
- 歩く会世話人会(14日)
- 21委員会(19日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会(28日)

月次会報告

【9月】

『初秋の信州諏訪湖畔 美術館めぐり』 (歩く会担当)

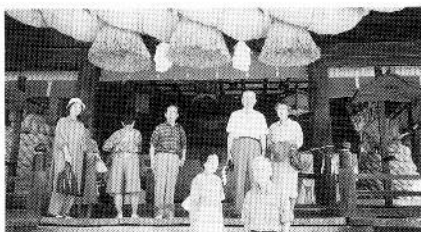
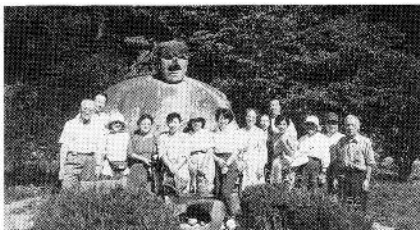
いつまで続くのか、暑い夏が。
九月もなかばと云うのに、今年の秋は未だ遠い。
台風21号の関東接近が気になる9月11日(日)、傘を
持ち天気を気にしながら、未だ明けぬ5時過ぎか
ら、桐生倶楽部横に駐車している大型バスに社員、
家族が集まる。

定刻5時30分バスは51名の定員満席で出発。
「どうかねえ、今日のお天気は?」「雨が降って
も美術館めぐりで、山歩きでないから」
と気にしながらも車中は明るい声でにぎやかに信
越高速を走る。峠のトンネルを抜けると真青な初
秋の空に佐久平がひろがり、バスの中から拍手が
上がる。稲穂を実り、青い空に白い雲、美しい山
なみにどこか秋を感じる。とは云っても強い日差
しの中、良かったね晴れてと云いながらの諏訪湖
畔一周の楽しい旅でした。

予定より約30分早く、諏訪大社秋宮に詣でる。
『オンパシラ』の前で記念撮影。名物『塩羊羹』
『おやき』と楽しい旅のはじまり。

春宮に詣でる前に清らかな流れと緑濃い小路を
5分程歩くと、ユーツと巨大でユーモラスな万治
の石仏。みんな大きさとそのお姿に驚く。

万
治
の
湯



諏
訪
大
社

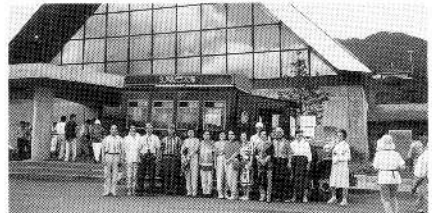
湖岸の道に出て、ハーモ美術館へ。湖に白い円形
の2つ合せた建物が美しくマッチする。

アンリールソー。カミューボンボワ。アンドレ
ポーシャン。こじんまりした中になにかホッとす
る様な絵が展示されている。

中でも私は下見の時感動した、ルソーの横長の
額に納まった、フランス革命伝の人々が、踊る絵
に又会えて、大満足。又諏訪を訪ねたら会いたい
絵だ。湖を左に見ながら岡谷に向う。天竜川に湖
の水が流れる水門を左にやがてルネ、ラリック美
術館に着く。フランスのガラス工芸家 (1860~19
45) ルネラリックの美しいガラスの芸術に時間の
経つのを忘れる。

予定の時間に遅れジックリ堪能する。

ル
ネ
ラ
リ
ッ
ク
美
術
館



昼を過ぎた頃、片倉製絲が絹、全盛時代作った建
物が、今片倉館と称して、千人風呂、美術館、と
なっていて一般に開放されている。しかし往時を偲ぶ
建物は諏訪湖とマッチして、何んとも云えない感
慨を旅の人達にあたえてくれる。

駐車して約3時間のフリータイム。食事して北
洋美術館、そして間欠泉の噴出を木陰で待ち、湖
岸の散策と集合の2時30分が、アッと云う間に来
る。



片
倉
千
人
風
呂

帰り道は蓼科高原経由。霧が峰からは遠く八ツ
岳の右に富士山、南アルプスが遠望され、蓼科山
のその優美な全容を望み眼下の白樺湖と快晴の高
原をバスは帰路に向いました。

歩く会は、10月は紅葉の尾瀬ヶ原

11月はお隣りの石尊山から湯殿山(山前)

12月は東京、庭園美術館と日本民芸館

楽しい日曜日の日を企画しています。

又元気にご参加下さい。

理事 木島

月次会報告 【7月】

花は自然のお医者さん

講師 花療法研究家

片桐義子氏

7月例会は、花療法研究家として新聞・雑誌・テレビ等で御活躍されている片桐義子さんをお招きし「花は自然のお医者さん」というテーマで、花と健康についてお話しをうかがった。

花を飾るだけで心や体が癒される。ただ美しいもの、心をなごませるものとして考えていた花。その花には私達の色々な病気を改善するパワー(気)がある。病気見舞に花を贈る。花は決して目で見て楽しませ、心を慰めるだけでなく、花の気で病む人を元気づけるのである。



片桐義子さん

花は切花より鉢花の方が気が多い。農薬を使わないで育てた花の方が気が強い。同じ花でも心をこめて生けた花ほど気を出す。また、花を持たない家は家庭内にいざこざが多いと云われている。

【歩く会】 7月例会

民謡で親しまれる

会津磐梯山登山

会津の名峰磐梯山は、“宝の山よ”の民謡で知られたなじみの深い山である。猪苗代湖の真北に美しい裾野をひいてそびえるコニーデ型の火山で、その荒々しい噴火口と磐梯高原に点在する湖沼群の水の色等変化に富んだ景観を形づくり、多くの人々の探勝で賑っている。

7月31日(日)、参加者17名は午前5時15分マイクロバスにて桐生出発。天候は上々とは云えず前途不安である。国道50号線より各高速道を走り継ぎ、磐梯山の西方中腹にある登山口の猫魔八方台の駐車場に9時10分到着。すでに大型バスやマイカーで駐車場は大混雑であった。天候は相変わらず

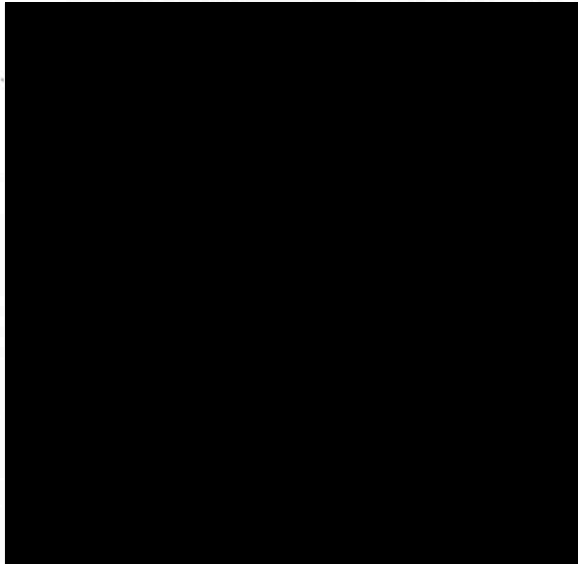
はっきりせず山頂はガスがかかって望めない。素早く身仕度を整え、9時20分登山開始。駐車場右手のブナの純林の中よく整備された気持ち良い道をゆるやかに登って行った。徐々に高度を上げて30分位歩いたと思うと、前方より硫黄の強い匂いが鼻をついた。山中の簡素な一軒家「中ノ湯」である。右手高台に「中ノ湯」を仰ぎ見ながら道は一旦小さな沢に下り、今度はダケカンパなどが混じる広葉樹林の中のやや急坂の登りになった。左手に小さな池を俯瞰したり、時々赤茶けた火口壁のふちを通過したりして進んで行く。やがて道は下りになり今度は稜線の西側の深い樹林の中のあまり高低のない巻道を辿るようになった。前方が明るくなり、ササの混じったナナカマドやミヤマハンノキの灌木帯が出現すると、一投足で小高い台地に飛び出した。大ぜいの登山者で賑っている。「弘法清水」という場所で清冽な清水が湧き出ている訳であるが今夏は雨不足の故か水量が極度に少ない。茶屋が二軒あり、土産や飲物などを売っている。10分間休憩后、最後の登り開始である。目の前の尾根を急登すること30分、11時40分全員無事山頂(標高1819m)に到着。磐梯明神の石祠の鎮座するいるいたる岩石の散乱する山頂からは、ようやく北面のガスも切れて、遠望はきかぬものの眼下に展開する噴火口の荒涼たる様子や磐梯高原に点在する湖沼群を一望出来たことは幸いであった。一同記念写真を取り、昼食タイムとする。缶ビールで乾杯する者、談笑に興ずる者、まさに山頂の憩いの至福の一時であった。下山開始12時15分。往路を戻り八方台駐車場着14時30分。帰りは磐梯高原の檜原湖畔に立ち寄った后もと来た道を一路桐生へ。途中大渋滞に巻きこまれ桐生着21時45分であった。

(肥塚記)



磐梯山頂

◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆

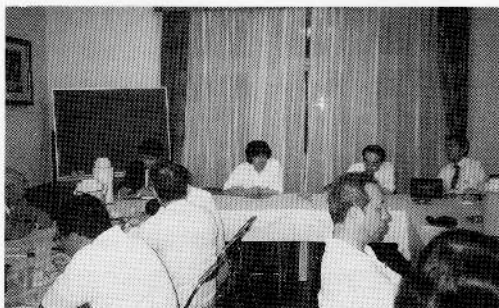


21委員会 (8月例会)

「ファッションタウンと観光地化」

— 第三次総合計画における位置づけ —

講師 遠坂 久氏



今回の講師遠坂久氏は、現在は、桐生市教育委員会(仮称)桐生市市民文化会館建設室々長として活躍しているが、もと、桐生市第三次総合計画担当係長であった。従って当日は、遠坂氏より先ず第三次総合計画のできた経緯、現況と課題などについて話していただき、後半、新しい市民文化会館の全容について説明をうけた。

第三次総合計画では、平成12年(計画最終年度)の人口15万人としている。人口15万人とすれば、下水道・福祉・教育設備等をそれに適合させなければならない。それは無理なので人口15万人としながら、それに見合うものになっていない。そうした矛盾はあるが、あるべき理想の姿を書いた。

未来像は「ハイテクとファッションのまち」であり、行政と市民の協働が必要。それには、行政と市民が建前でなく、本音で論議ができるようであればならない。

(出席者 25名)

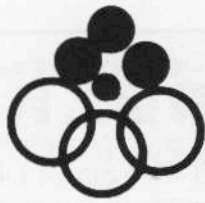
桐生倶楽部はぐるま句会(七月)

梅雨明けや海の青さも明けにけり	造成に睡蓮の池せばめられ	古池の睡蓮ゆらり又ゆらり	茅葺の観音堂や鐘涼し	大漁旗船に日焼の男侍ち	日焼せる生徒のどつと降りし駅	晩鐘を聞いて睡蓮花たたむ
倉林	清水	森	小池	本田	大槻	久保田

桐生倶楽部はぐるま句会(八月)

はしやく孫背をおさえつつ盆参り	新盆の棚ととのいて香かおる	還らざる島の灯近し天の川	シャトルにも渡れぬ夢の天の川	峠路や峰から峰の天の川	星一つ西に流るる天の川	気丈なる喪主小柄なり百日紅	後影父に似し人孟蘭盆会	誰か乗る胡瓜の馬や送り盆	道の辺のなすびの馬の軋びをり	天の川佐渡はおけきの夜となり
下山水	清水	本田	北川	尾沢	遠藤	倉林	大槻	森	小池	久保田

社団法人 桐生倶楽部会報 第83号
 1994年(平成6年) 10月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 小池久雄
 印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

〔桐生のあゆみ〕

No. 34

橋本直香・黒川真頼

江戸時代末期の桐生は大変文芸も盛んであった。和歌・俳諧・狂歌・絵画等。特に文化文政頃に於ける桐生の漢詩界は、前代未聞・古今独歩の偉観であった。(桐生市史より)。これは詩人であり、絹買商として上州三富豪の随一といわれた佐羽淡斎の功績である。学者としては漢学の長沢新助・長沢紀郷・石原泉村・吉田錦所、国学では星野貞暉・長沢元緒・長沢春江・彦部五兵衛などがある。今号では、これらの学者の中から幕末から明治期にかけて活躍した著名な2人の学者を紹介しよう。

橋本直香

文化4年(1807年)境野村に生れる。生家の飛脚問屋を継いだ。文学を好み星野貞暉の主宰した桐生社中で傑出した才能を見せた。天保13年、36才の時、家を妹ききに譲り単身上京、文学で身を立てようとした。はじめ黒川春村に学び、次に橋守部の門に入って国学・和歌を学んだ。晩年は居を赤坂氷川河畔に構え、後進の指導に当たった。



黒川真頼の肖像

直香の生涯の事業は、橋守部の後継者として万葉集を研究することであった。万葉私抄二十巻をはじめ万葉集の貴重な研究書を世に出した。明治22年歿、享年83才、東京駒込大林寺に葬られた。境野の人達は昭和11年直香の顕彰事業を起し、歌碑及び遺書刊行記念碑を建設、今も境野小学校の裏手に残っている。

黒川真頼

本姓は金子氏、通称は嘉吉。文政12年(1829年)桐生新町4丁目で代々機織を業とする金子家に生れた。幼少から学問を好み、13才の時江戸の著名な国学者黒川春村に入門する。天分の才に加え努力精進を重ねて、多数の門人の中でも出色の存在となった。春村には嗣子がなかったので、真頼は師の懇望により後継者となり黒川氏を称するようになった。39才で大学少助教、以後文部省・農商務省・元老院などで重く用いられ、東京大学文学部文学部講師・学士会員・正倉院御物整理担当・御歌所寄人・文学博士・東京美術学校・音楽学校教授等、実に多彩な矚目すべき仕事をしている。膨大な著書があり中でも「工芸志料」は著名。「けふのよき日は大君の——」という天長節の式歌も真頼の作。

明治39年病歿。78才、谷中天王寺に葬られた。桐生倶楽部初代理事長金子竹太郎氏は、黒川真頼の甥に当たる。



橋本直香の記念碑と歌碑

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎10月

理事会(11日)
月次会(15日) 新観光論「ファッションタウン
桐生からの提案」講師 藤原 肇氏
歩く会(16日)「錦織の秋の尾瀬ヶ原を歩く」
桐生倶楽部はぐるま句会(28日)
歩く会世話人会(31日)

◎11月

行事委員会(7日)
21委員会(7日)

理事会(9日)
歩く会世話人会(10日)
歩く会(13日)「どうだんつつじの紅葉が見頃石
尊山から湯殿山へ」
月次会(14日)「情報化社会と空洞化現象」
小暮康男氏

会報委員会(15日)
写真部会(24日)
桐生倶楽部はぐるま句会(25日)

月次会報告 【10月】

新 観 光 論

～ファッションタウン桐生からの提案～

講師 (株)マーケティング企画

代表取締役 藤 原 肇



10月の月次会は、21委員会の担当で「新観光論」をテーマに、藤原肇氏を講師に迎え、15日午後6時から開会された。藤原氏は通産省繊維工業審議会委員、日本ファッション協会、ファッションタウン化

計画推進委員会副委員長などをされ、桐生にも度々来られて「桐生のまちづくり」のため何彼とご指導をいただいている方である。

講演の要旨

ファッションタウンというのは、はじめ繊維産地の活性化策としてスタートした。しかし繊維だけでなく全産業、また市民の生活文化全般を含めて、桐生のまちをどうするかがファッションタウン構想である。桐生には歴史・文化・自然・地場産業と観光資源がそろっており、ファッション産業観光の宝庫である。ファッションタウン化のプランもできている。ただその推進の組織とスピードが必要である。

観光のための具体案としての提言

(1)ファクトリー（工場）を利用

工場を市民や他市から来た人に見せる「オープンファクトリー」。既存の工場や倉庫を生かす「ファクトリーのミュージアム（博物館）化」。小さ

な工場でもショーウィンド・照明をつける「ファクトリーウィンドー」等。

(2)産業観光フェアの開催

年に何回かやる。桐生に前日から来て泊ってもらい、桐生でつくったものを見る、買う、食べる、飲むの楽しさを知ってもらう。

(3)国際的なイベントの誘致

例えば西暦2千年に予定されているワールドファッションフェアなど。

以上のものをやる為には国際級のホテルが必要になる。

桐生の現状は、桐生で何を作っているのか、何処へ行けば何が買えるかを市民も知らない。これでは駄目、桐生にファッションに興味を持ち理解を持つ人達が集るようにしなければならない。人が集れば交流が生れる、情報が発信されるようになる。これが観光で、地場産業と商業も結びついて商圏も広がる、市民も桐生がファッション都市であることに誇りを持つことが大切。

講演のあと21委員会の森山亨氏（桐生地域地場産業振興センター専務理事）がコーディネーターとなり、フロアからの質問を受けた。質問に答えるかたちで藤原氏は「推進母体は行政と民間のファイティファイティがよい。計画はできているのだからあとは実行にうつすだけ。外部の人間をうまく使うことも大切」。「観光のまちにするには夜のファッションタウンも大切である」「繊維のまちでいま桐生ほどポテンシャルがあり、元気のあるまちはない。国レベルでも桐生への評価は高まっている」などと話した。最後に森山氏が「人は見られる通りになると云われるように、桐生は虚名を実名にして行くことである。いま、やるかやらないかだ」と熱っぽく締めくくった。

このあと会場を整理して、講師を囲んでの懇親パーティー、今までの桐俱例会になかった演出であった。この日は桐俱社員以外の一般市民の参加も呼びかけ、多数の参加者があり大変盛り上がった例会であった。



講 演 会



講演会終了後のパーティー

月次会報告

[11月]

情報化社会と空洞化現象

講師 株両毛システムズ

常務取締役 小暮康男氏



日本の情報化の遅れを常々警告し、経済・文化・教育についてもユニークな視点から卓見を発表し続ける小暮康男氏を講師に迎え、11月の月次会を開催した。以下は講演の要旨である。

情報化社会

今は情報が物質やエネルギーと同等あるいはそれ以上の重要な資源となり、その価値を中心とし社会・経済が発展して行く時代である。

織田信長が桶狭間の合戦で、最高の殊勲者としたのは情報を適確に信長にもたらした山田某であった。信長は情報の価値を充分知った武将であった。小村寿太郎は日清戦争の始まる前から日露戦争を想定し、その為に日英同盟を結んだ。日露戦争後は、これから日本は対米関係をどうするかが最も大事であるとした。これは小村寿太郎が情報を大切に、情報の集取・分析にすぐれていたからである。

このように大切な情報の価値の認識が日本は大変遅れてしまった。世界史に学ぶ通り18世紀の英国にはじまり世界の国々の10%は産業革命をした。日本もその一つ、それらの国々が先進国となり産業革命をしなかった国との間に歴然と差がついてしまった。日本もいま情報革命をしなければ米国などに大変な遅れをとることになる。

(台湾でさえケーブルテレビは500万世帯の80%をこえているという。)

空洞化現象

日本企業の海外への生産拠点の移転。いま比較優位を有している産業まで将来を考えて海外移転をしている。そのために生ずる空洞化現象はこわい。米国は空洞化でも先進国である。そのため失業率の上昇と貧富の二極化を招いてしまったことを学ぶべきである。

秋の褒章・大臣表彰

倶楽部社員の中で秋の褒章の受章者、また大臣表彰を受けられた方は下記の通りです。まことにおめでとうございます。

黄綬褒章(業務精励) 佐藤 富三氏
通商産業大臣表彰 小林 松氏
(組合関係功労者)

その他の受章者

国税庁長官表彰 糸井京三郎氏
(税務行政に対する功績)
群馬県功労者表彰(商工功労) 金子 匡男氏

『歩く会』 10月例会

錦繡の秋の
尾瀬ヶ原を歩く

紅葉の季節の尾瀬ヶ原は実に素晴らしい景である。10月の歩く会は16日5時桐生倶楽部に集合して出発。参加者16人。自家用車に分乗して鎌田まで行く。鎌田からはタクシーで尾瀬の玄関口鳩待峠へ。ここから8時半に歩き出す。心配していた天候は上々。山ノ鼻小屋を経由して源五郎田代分岐点まで歩き中食。しばらく自由散策を楽しんだ。帰路は往路と同じ道で桐俱6時半帰着。

(当番 木島・金井)



鳩待峠

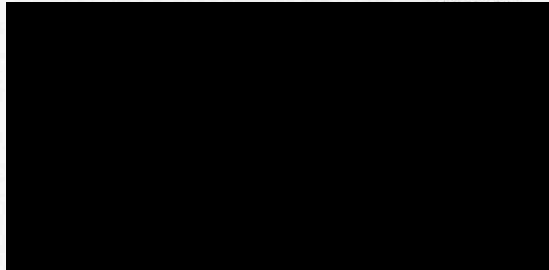


尾瀬ヶ原

事務局からのお知らせ

倶楽部では、来年早々、諸種のお知らせについて、通信の迅速、事務の簡素化を計るため、FAXを利用することとなりました。ご了承下さい。
尚FAXをご利用でない社員には、従来通り郵便にてご連絡申し上げます。

— 社入社員紹介 —



【歩く会】 11月例会 どうだんつつじの紅葉が見頃 石尊山から湯殿山へ

11月の歩く会例会は近場で紅葉を楽しもうと、小俣の石尊山・湯殿山へ登った。8時に桐生倶楽部へ集合してタクシーで石尊山の登り口まで。ここから1時間余で石尊山頂へ着く。石尊山頂から湯殿山までがやはり1時間余。スケールは小さいが途中のどんだんつつじをはじめとする紅葉が見事。桐生からタクシーの時間を入れても1時間半で、こうした俗塵を洗ってくれる仙境があるのは嬉しい。帰途、高松鉱泉でさっぱりして帰る。

(担当 小堀・肥塚、参加者8名)



石尊山の岩場



霧暗れて連山湖を抱きけり
ゆらぎつつ胡弓近づく風の盆
盛りとはいえどつつまし花野かな
湖よぎる櫓音曳きるて月見船
晩鐘や七堂伽藍の霧うごく
月の夜や音なき道の限りなく
母ありし父在りし縁月祭る
山ひだを隠せし霧の薄れゆき
田の畔の荒れたる峽のすすきかな
名月や大潮川を遡りくる

桐生倶楽部はぐるま句会 (九月)

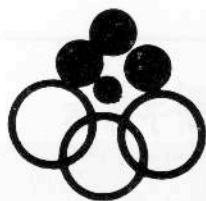
久保田 大槻 下山 本田 小池 清水 遠藤 尾森 倉林

溶岩(ラバ)流れ廃墟の村や草紅葉
岩を這ふ草も紅葉の立石寺
秘湯への道標斜め草紅葉
右へ京左姥捨草紅葉
日の合いし鹿寄り来たる草紅葉
渡り鳥群れに遅れて飛ぶ一羽
やわらかき雲ばかりなり秋の空
想い出と言へぬ過去あり草紅葉
水面さえあかしみとおる山紅葉

桐生倶楽部はぐるま句会 (十月)

本田 小池 久保田 遠藤 大槻 倉林 尾森 下山

社団法人 桐生倶楽部会報 第84号
1994年(平成6年) 12月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 小池久雄
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

新春を迎えて

理事長 塚越平人



社員の皆様、明けましておめでとうございます。
景気は底をついたと言われておりながら、なかなか景気回復の実感が感ぜられない昨年でしたが、ここにきていくらか明るさが見えて来たような感

じがして参りました。

自動車の販売量も増し、住宅の新築、改築それに関連して、家電関係等も若干上向いて来ているようです。只、雇用関係は未だしの感があり、これからも注意をし見て行かねばならないところだと考えております。

円高による工場海外移転に伴う空洞化等も決して安心できない状況と思われれます。我々として規制緩和を政府に働きかけるとともに国全体のリストラを計って行かねばならず、この時を除いては手遅れになると思います。

このような事態を鑑みるに、社員諸兄は機会をとらえて来社され、更に意見を大いにたたかわせて戴きたいと思ひます。我が倶楽部を愛する社員諸君は創立当時の先輩の精神に思いをはせ、それを我が物として己が研鑽に資するようお願い致します。

〔追記〕……淡路島を起点とする直下地震が発生しました。詳細はまだ伝わって来ませんが、何でも震度7を越す関東大震災並の激震とのことです。命及び家を失った人達多数の模様で、これは大変なことと思ひます。幸いに関東地方は難を免れていますが、北海道、東北地方に続いて関西です。何時関東に来るかわかりません。充分警戒せねばならぬと思ひますが、取り敢えず被災地の速やかな復興と人身の安全が確保される様、祈念してやみません。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎12月

クリスマス祭 (3日) 参加者99人
囲碁大会 (4日) 参加者6人
21委員会 (5日)
理事会 (9日)
歩く会 (11日) 「古さと超現代の東京文化探訪」
桐俱はぐるま句会 (12日)

◎1月

新年互礼会 (4日)
歩く会 (8日) 「吾妻山から川内自然観察の森へ」
理事会 (17日)
臨時理事会 (27日)
定時社員総会 (27日)
桐俱はぐるま句会 (28日)

定時社員総会

平成7年度定時社員総会が1月27日午後6時から二階大広間で開かれ新年度予算案などを原案通り可決しました。

総会は木島清理事が司会、全社員 332名の過半数の出席（委任状 167名を含む）で総会成立を確認したあと、阪神大震災の被災者のめい福を祈って黙禱、ただちに議事に入りました。

平成6年の事業概況を小池久雄副理事長が報告、同決算報告を関口全之理事が行って吉野一郎監事の監査結果があつて、原案通り可決しました。

また、1,746万円新予算案の審議をすすめ、関口理事が予算の説明を、小池副理事長が事業概況を説明してこれも異議なく原案可決しました。

任期満了にともなう新役員を選任では5名の選考委員の協議の結果18名の理事、監事2名の再選（別項）が承認されました。

正副理事長については塚越平人理事長、小池久雄、飯山清治副理事長と前年通り。

新役員

- ◇理事長 塚越平人
- ◇副理事長 小池久雄、飯山清治
- ◇理事 藤江敏雄、金谷善介、清水信次
野田友治郎、五十嵐健雄、佐藤富三
岸田英作、矢野昭、木島清、関口全之
岸芳正、木村隆夫、森寿作、山口正夫
赤石清安
- ◇監事 吉野一郎、北川洋

平成6年事業概況

平成6年1月1日から12月31日までの間行われた各種行事のあらまはつぎの通りでした。

- ◇社員総数 332名(法人27社、個人305名)
- ◇行事・集会81回 新年互礼会1回、文化祭1回
(絵画展、俳句色紙展、陶器展、写真展、ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会、ビデオ放映) クリスマス会1回、総会1回、理事会1回、監査会1回
月次会7回、委員会17回(行事委員会2回、文化活動委員会1回、21委員会6回、同世話人会4回
広報委員会4回)
- 部会39回(俳句会1回、歩く会8回、同世話人会10会、ゴルフ部1回、麻雀部1回、将棋部1回、囲碁部3回、写真部4回)
- 会報6回発行

平成7年度新予算案

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費 (※注)	12,006,000 ^円	給料及手当	6,100,000 ^円
		特退共済金	72,000
		福利厚生費	220,000
		租税公課	1,600,000
		火災保険料	350,000
		通信費	950,000
小計	12,006,000	修繕費	1,500,000
月次会々費	120,000	光熱費	1,200,000
会館使用料	2,300,000	事業費	3,000,000
設備使用料	410,000	会議費	300,000
電話使用料	10,000	消耗品費	150,000
収入利息	15,000	雑費	600,000
人会金	300,000	支払利息	0
雑収入	150,000	備品費	300,000
前期繰越金	2,156,894	次期繰越金	1,125,894
合計	17,467,894	合計	17,467,894
※注	法人 4,000×27×12 個人 3,000×295×12 3,000×5×6		

平成6年度収支計算書

科目	予算額	決算額	差額
I 収入の部			
会費	12,492,000	12,225,000	△ 267,000
月次会々費	80,000	119,500	39,500
会館使用料	2,300,000	2,176,100	△ 123,900
設備使用料	400,000	403,747	3,747
電話使用料	20,000	8,190	△ 11,810
収入利息	20,000	10,867	△ 9,133
雑収入	500,000	139,520	△ 360,480
人会金	400,000	220,000	△ 180,000
寄付金	0	7,986,850	7,986,850
当月収入計	16,212,000	23,289,774	7,077,774
前期繰越収支差額	2,697,975	2,697,975	0
収入合計	18,909,975	25,987,749	7,077,774
II 支出の部			
給料及手当	6,000,000	6,024,000	24,000
特退共済金	72,000	72,000	0
租税公課	1,500,000	1,538,300	38,300
火災保険料	300,000	316,670	16,670
通信費	800,000	923,274	123,274
修繕費	2,000,000	1,313,362	△ 686,638
光熱費	1,200,000	1,169,598	△ 30,402
事業費	3,000,000	2,899,395	△ 100,605
会議費	350,000	278,676	△ 71,324
消耗品費	200,000	105,548	△ 94,452
雑費	600,000	596,782	△ 3,218
福利厚生費	0	18,000	18,000
備品費	0	288,400	288,400
建物	0	7,986,850	7,986,850
借入金返済	300,000	300,000	0
当月支出合計	16,322,000	23,830,855	7,508,855
当月収支差額	△ 110,000	△ 541,081	△ 431,081
次期繰越金	2,587,975	2,156,894	△ 431,081

新年互礼会



新年互礼会が1月4日零時半から二階大広間で開かれました。司会は森寿作理事。

塚越平人理事長は冒頭、年頭のあいさつの中で「今年は提言する倶楽部」を目指す、と力強く運営方針を述べました。昨年4月に発足した「21委員会」の誕生を近年の文化活動のヒットと位置づけ、同委員会を中心にして今後は環境等の社会問題にも積極的に働きかけをしていこうというもので意欲的な姿勢は共感をもって迎えられました。

このあと来賓がこもごもに年頭所感を述べましたが景気の回復が遅いことで、対応への決意を促す厳しい内容が特長でした。

四氏に金盃

新年互礼会の席上、当社員のうち昨年、国家表彰を受けられた四人の方に金盃を贈り、祝意をお伝えしました。(敬称略)

吉野一郎、高橋貞雄、佐藤富三、小林松。

クリスマス・パーティー



12月3日(日)、恒例のクリスマス・パーティーが開かれました。岡部、高松両社員のコンビ司会で、塚越理事長のあいさつで始まりました。

おなじみになったクリスマス・ソングの斉唱、聖書朗読、サンタさんによる子供たちへのプレゼント、福引大会等々、賑やかに楽しく行われました。

今回のミニコンサートは東村の童謡館の「メロディーベル」のかわいい子供達による演奏でした。26余名の子供達が各々にベルを持ち、真剣な目差しで指揮者を見つめている姿は、ベルの清らかな音色以上に心を打つものがありました。参加された方々は心あたためて家路につかれたことでしょう。

行事委員の皆さま、ご苦労さまでした。

〔歩く会〕 12月例会

古さと超現代の東京文化探訪

例年12月の歩く会は、バス利用の美術・文化財を訪ねる楽しい旅である。本年も大型バスが55名の社員・家族で満席。11日6時半桐生倶楽部出発。東北自動車道・首都高速を走って8時45分等々力溪谷到着。ここは世田谷区内であるがこんな幽邃な溪谷が残っているのにはびっくり。等々力不動尊・不動の滝・溪谷の紅葉など見るべきものが多い。

次は直ぐ近くの五島美術館へ。東急の創立者五島慶太が半世紀にわたって蒐集した美術工芸品を公開する美術館。国宝の「源氏物語絵巻」などもある。広い広園も珍しい石仏・石灯笼が配置され数多い紅葉も見事であった。ここから駒場の民芸館へ。

日本民芸館は民芸運動の先駆者柳宗悦によって設立されたもので、沖縄から北海道までの各地の民芸品が集められ、更に李朝の優品も数多い。当日は企画展「アイヌの民芸品」が開催中であった。先月(11月)は、全国から現代の名工の作る民芸品を集めた年1回の民芸館展が開かれていた。これには毎年桐生から星野増太郎さんの「桐生和紙」、伊田郁子さんの「手織紬」が入選している。特に今年は星野さんが日本民芸協会賞を獲得した。桐生市民としても嬉しいニュースであった。

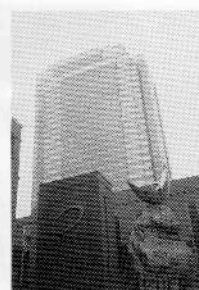
最後に、いま若い人達の話のまと、恵比寿ガーデンプレスを訪ねた。近未来都市の在り方を模索する複合的なスペース、人間の生活のすべての場を備えているという。昔日の恵比寿駅周辺を知る人達にとっては、全く夢のような場所に変わってしまった。レストラン・バー、ショッピング(三越など)、文化施設等々。大ピヤホールは客席数千五百をこえる。ここで3時間の自由時間を費して帰途につく。(担当 木島・村田)



等々力溪谷

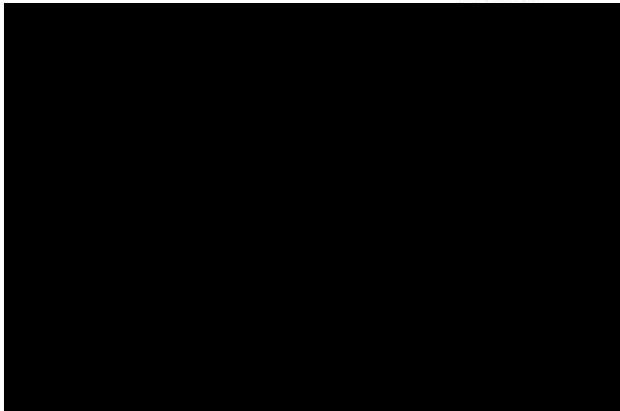


日本民芸館



恵比寿ガーデン
プレイスタワー

◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆



桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

堰越ゆる水に乘れざる木の葉かな
 木の葉散る杜の神々眠らせて
 冬の日や喜捨に静かな僧の礼
 昼の膳蜜柑添へられ妻の留守
 言ひ過ぎの言葉を悔む木の葉雨
 冬日和女三人立話
 取り合ひて鈴に願ふや恵比須講

久保田 本 田 倉 林 尾 沢 小 池 遠 藤 大 槻

桐生倶楽部はぐるま句会

十二月

着ぶくれの背筋伸ばして神の前
 女子寮に織子は一人着ぶくれて
 短日や下校の子等に街路灯
 着ぶくれて庭師の手さき見ていたり
 着ぶくれて未だ客つかぬ街易者
 箴の音近くにありて日短か
 昔日の姿とどめぬ枯芒

本 田 小 池 尾 決 大 槻 久 保 田 遠 藤 下 山

〔 歩 く 会 〕 1 月 例 会

吾妻山から川内自然観察の森へ

1995年の初例会は8日(日)10時吾妻公園駐車場へ集合、ここから吾妻山に登り、山頂から村松峠・野山稲荷・小倉林道を経て自然観察の森まで歩いた。好天に恵まれ参加者は30名という盛況。帰途は小倉会館まで歩いてから市営バスで桐生駅近くまで来て午後2時過ぎ解散。



吾 妻 山 頂



自 然 観 察 の 森

※十二月の句会は、桑海主宰の吉村ひさ志先生を迎え、桐生医師会俳句部との合同部会といたしました。

社団法人 桐生倶楽部会報 第85号

1995年(平成7年) 2月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 小池久雄

印刷 刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

〔桐生のあゆみ〕

No. 35

桐生懇話会から桐生倶楽部へ

桐生懇話会の設立

明治33年(1900年)に桐生懇話会が設立された。これは当時としては全く珍しいクラブ組織で、桐生町および近在有志の団体であった。

規約の第一条は「本会は桐生懇話会と称し、会員相互の交通親和を旨とし兼て実業上健全なる発達を期するを以て目的とす」とある。会員40名、月1回の例会場は本町3丁目にあった四十銀行桐生支店(後、四十銀行は桐生が本店となり本町5丁目に移転、今の第一勧銀となった)裏の行宅(迎賓館・元桐生の富豪佐羽家の茶室)であった。

懇話会の業績

懇話会の中心となった人は森宗作氏であった。森氏は「郷土の発展はやがて自己の発展である」という信条を持っていた人であったから、懇話会は単なる親睦団体にとどまらず、桐生の発展のために積極的に活動した。

1. 桐生商工業案内の編纂出版
2. 桐生停車場の改築を日本鉄道株式会社に陳情
3. 桐生郵便局内電話設置に付、通信大臣宛に請願書を提出
4. 渡良瀬水力電気株式会社設立の必要を提唱
5. 名士の講演会(渋沢栄一氏など)

社団法人桐生倶楽部への移行

大正4年1月開会の桐生懇話会に於て、「現在の懇話会々員は土地の有力者を網羅しているとは

いえ、その一部に限られていることは時代に添わざるものであるから、更に町民に呼びかけ会員を増加し、社交倶楽部的な団体に進めることが適切である。については本会を解散して新たに社交的倶楽部を創設し、従来の会員は全員加入し、更に新会員を募集する」と決議。準備期間を経て、大正8年12月社団法人桐生倶楽部を設立、大正9年2月、懇話会を解散し一切を桐生倶楽部に引継ぐことが決定されたのである。

社団法人桐生倶楽部の誕生

大正6年9月、社団法人桐生倶楽部設立を内務大臣と文部大臣に申請、翌7年8月認可された。同年9月桐生織物同業組合で第1回社員総会開催、社員総数126人の中から理事15名が選ばれ更に理事長金子竹太郎氏、副理事長前原悠一郎氏が互選され、完全に社団法人桐生倶楽部が誕生した。次に会館建設に取組み大正8年末に落成を見たのである。倶楽部創立功労者として今も2階に掲額されている森宗作(宗久)、金子竹太郎、前原悠一郎の各氏をはじめ、郷土振興につくされた幾多の大先輩の貴重な遺産である社団法人桐生倶楽部。これを守り続けることは桐生市民の責務であらう。



＝ 倶楽部 だ よ り ＝

◎ 2 月

歩く会 (12日) 「赤城南面、水瀑の不動滝へ」
理事会 (15日)
歩く会世話人会 (24日)
桐生倶楽部はぐるま旬会 (27日)
文化活動委員会 (28日)

◎ 3 月

理事会 (10日)
歩く会 (12日) 「マンサクの咲く鳴神山」
会報委員会 (13日)
月次会 (20日)
「阪神大震災のライフライン復興」講師 塚越理事長他
歩く会世話人会 (22日)
桐生倶楽部はぐるま旬会 (28日)

月次会報告 【3月】

阪神大震災

現地で復旧工事をした体験を聞く

講師 桐生ガス工事課長 岡田 正
桐生水道局工務課長 島田 利男
” 技術吏員 中島 好久

死者 5 千 4 百人余、負傷者 3 万 4 千 6 百人余、家屋の全半壊約 16 万棟という、戦後最大の惨事となった阪神大地震。その甚大な被害に対する救援活動で特筆されるのは、数多くの市民・団体・企業・自治体等が自発的にボランティア活動をしたことである。

3月の桐生倶楽部月次会は、救援活動の中でも特に被災者が渴望していたライフライン（生命線）と云われる都市ガスと上水道の復旧に活躍した3人の方を講師にお願いして、貴重な体験をお聞きした。

都市ガスについて

地震によりガスの供給がとまったのは85万戸になる。大阪ガスの要請をうけ、桐生ガスはガス復旧支援のため、岡田正課長を責任者として7人の編成（第一班）で2月1日から20日まで工事に従事した。21日からは（第二班7名）が、3月1日まで交替して作業。

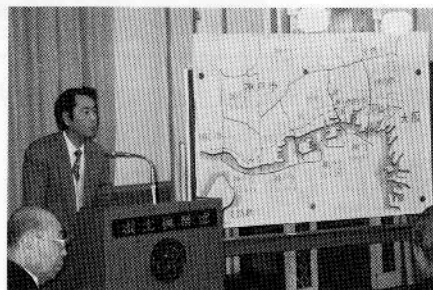
工事は導管の損傷がないかをまずチェックし、あと補修、ガス漏れの有無を点検。水道管の破裂でガス管に水が入ってしまい、初めは水抜きが大仕事、あと一軒一軒の栓のチェックなどが必要で電気や電話の復旧にくらべると大変時間がかかった。それでも現在90%は復旧、今月一杯で全部復旧することになる。

現地で気のついたこと。

何が不足しているという情報が流れると、同じ物だけがドーンと沢山送られて来て、被災者がもてあますほどになってしまう。それでいて一方には足りないものが沢山ある。

日本人のボランティアは被災者に対して何でもしてやる。親切に違いないが——。外人のボラン

ティアは、例えば玄関の掃除ぐらいは自分でやりなさいと云って、出来ることはやらせて手伝わない。そうした違いが見られた。



桐生ガス
岡田課長

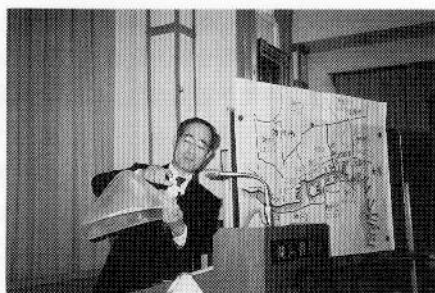
水道について

水道は兵庫県内で96万戸断水。しかし1ヶ月で大体復旧ができ、現在では99.9%復旧した。桐生市ではニュースを聞いて直に、ポリ袋ポリタンクを積んで給水車1台をいつでも出動できるように準備した。現地へ早く行って手伝いたかったが現地の受入態勢がなかった。国・県の要請を待って、水道協会県支部として9市から133名（相生15名）が2月17日から3月5日まで働くことができた。

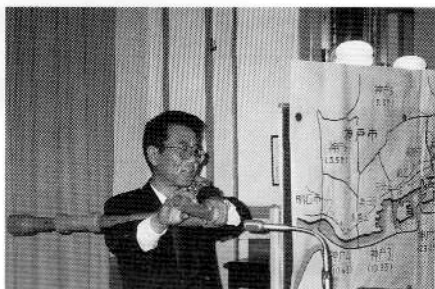
市民から大変感謝されたことは一生忘れ得ない感激であった。現場を見て夫々の市で施設・仕様・技術の差違があるが、平均して桐生の技術は優秀と思った。しかし、今回の体験で桐生市の非常時の水の確保については学ぶことが多かった。

※以上が3氏の話の概要であるが、そのあと塚越ガス会社々長、峯岸東京電力桐生営業所長から補足説明があった。

桐生水道局
島田課長



桐生水道局
中島技術吏員



〔歩く会〕 2月例会

氷瀑の赤城不動滝へ

「歩く会」の2月例会は、氷瀑の赤城不動滝ハイクである。案内の通知に「登山靴にスパッツを用意…」と書いてあったので、厳しい山歩きを予想したのか、参加者は9名と少い。記念撮影して8時10分2台の車に分乗して桐生倶楽部出発。三夜沢の赤城神社脇から荒砥川に沿って廻り忠治温泉へ。従来はここから尾根を少し登り、山腹を巻いて粕川畔に出、滝沢不動へ行くのが本コースであった。(今でもこの道はある)。今日は新しい近道コースを辿ることとし、滝沢温泉を通り粕川左岸の尾根を登って駐車地へ。ここで登山の身仕度をして出発。道は予想に反して全く雪がなく歩き易い。「前の不動」を見て一担下ってゆく。粕川が遥か下に望める。木囲いに焼物の猿の手からしたり落ちる「御神水」を過ぎて僅か登る。対岸に旧道が見え、幾つかの小さな氷瀑が朝の陽に煌いている。川が近くなり、杉木立の中、立並ぶ新しい不動石仏に迎えられて滝沢不動の門をくぐる。歩き出して20分、旧道の半分以下である。参詣を兼ねて氷瀑見物に訪れる人も多く今日も賑わっていた。燈明がともされ堂を守る人らしい姿も見える。



赤城不動滝

なく歩きよい道となつて、雪でもなければ家族連れで気軽に氷瀑を楽しめる。忠治の隠れたと伝えられる洞窟は右手を少し登った岩陰にある。間もなく滝音が聞こえ、絶壁から一筋の豊富な水が落ち、盛り

上った氷の間に消える。厳冬ならば氷の玉の重なりがもっと大きくなるのだが、今年も暖冬のためか迫力には欠ける。それでも虹は立ち、こんな近くで珍しい氷の風景が見られるのだから楽しい。右手にも氷瀑が幕のように崖を埋めていた。折角持参したアイゼンを滝壺の氷上で試すやら、虹の滝を写真で狙うやら、思い思いの一時を愉しむ。大分ゆっくり遊んでいたが、お昼は里のそば屋で一杯という、余裕の山歩きであった。(藤井 記)



赤城不動滝にて

〔歩く会〕 3月例会

マンサクの咲く鳴神山

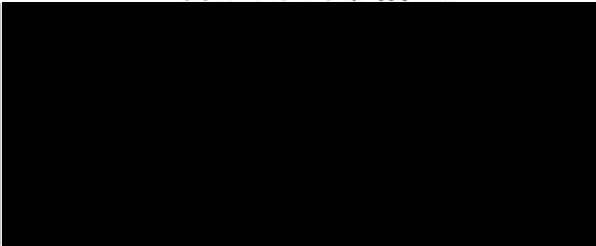
3月の例会は12日(日)8時、桐生倶楽部へ集合。タクシーに分乗して川内の奥、広土橋まで、ここから早春の鳴神山を歩く。マンサクが春の訪れを告げてくれる。山頂からの下りは高沢登山口を経て、浅部まで梅の盛りの梅田道を歩く。ここからバスで帰った。(当番 小堀・金井)

雪の残る登山道



鳴神山頂

＝ 新 入 社 員 紹 介 ＝



◇写真部会よりのお知らせ◇

5月27日(土)、28日(日)に撮影旅行を計画しています。上高地・乗鞍高原温泉(一泊)・木曾の奈良井宿。明細は後日連絡。

雪らしと吾目覚むれば妻も覚む	帰路いそぐはずむ女生徒日脚のぶ	雪うさぎせがみし吾子も母となり	盤面の碁石の影や日脚伸ぶ	柝の音にて送り出されし外は雪	まゆ玉や女系三代相撲茶屋	初仕事糊のきいたる白衣着て
本	下	尾	倉	大	小	久
田	山	沢	林	槻	池	保

桐生倶楽部はぐるま句会 一月

あのあたり初音待たるる梢かな	春寒や池の水面の白さかな	鳥居越し紅梅の咲く路地稲荷	餌付けせし鶉の野性の劣えず	春寒や塵一つなき庭にたち	背なまるめ記帳の列や春寒し	春寒や病状告げる赤電話	杖に倚る臥竜の古梅紅豊か	紅梅や崩れしままの童女の碑
下	塚	山	大	清	久	尾	本	小
山	越	田	槻	水	保	沢	田	池

桐生倶楽部はぐるま句会 二月

文化活動委員会全体会議

2月28日(火)6時から文化活動委員会が開催され、各部会に対して予算の配分がされ、部会の代表から新年度の事業予定の発表があった。

また恒例の桐生倶楽部文化祭は5月12日(金)、13日(土)、14日(日)の3日間、ガーデンパーティーは14日と決定した。

文化活動委員会の中の部会は下記の通り12部会があるので、社員の方はできるだけ多くの部会に入って活躍していただくことを各部長が希望している。社員ならどの部会にでも入ることができる。カッコ内は部長名。

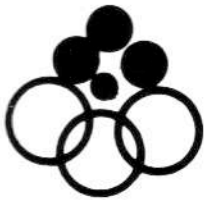
- 美術部会 (保倉)、懇話会 (藤井龍人)、俳句部会 (久保田裕一)、麻雀部会 (八木橋)、囲碁部会 (野田)、ゴルフ部会 (片柳)、将棋部会 (平野平四郎)、歩く会 (木島)、ビデオ部会 (金井利雄)、写真部会 (森口)、音楽鑑賞部会 (小堀)、21委員会 (赤石)

「歩く会」年度計画

- 5月13日(土) 八汐ツツジ咲く井戸湿原ハイク
- 6月4日(日) レンゲツツジ咲く赤城荒山登山
- 7月29日(日) ◎コマクサの咲く草津元白根山
- 9月9日(土) ◎桐生倶楽部例会を担当、猪苗代から会津若松市内散歩、大内宿
- 10月8日(日) ◎紅葉の岩峰、佐久ミズガキ山
- 11月12日(日) 桐生川上流、熊鷹山登山
- 12月9日(土) ◎師走の東京文化探訪

※9月は桐生倶楽部例会なので社員全員に案内ができますが、その他は「歩く会」にご参加希望の方のみしか案内が送られません。ご希望の社員は倶楽部事務局の木村までお申出下さい。◎印は貸切バス利用です。この場合は定員があります。原則として社員とその家族優先で申込先着順、定員になり次第メ切ります。

社団法人 桐生倶楽部会報 第86号
 1995年(平成7年) 4月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 小池久雄
 印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ①

森 宗作の精神性

旧土佐藩の重臣であり明治政府の要職をつとめた洋学者の細川潤次郎が桐生に米遊したのは明治12年のことである。この前年、政府は太政官布告で郡区町村法を定め、桐生新町にも山田郡役所ができた。記録によれば、当時の人口は38,692人。官吏の書記5人のうち桐生出身者は3人を数え、いずれも土地を代表する有識者であった。そこに名を連ねる3代目森宗五郎は、後に細川と親交を深めていく人物だが、その奇縁をたずさえて宗五郎の後添えとなったのが「耕」である。ときは明治15.6年、森家は織物商の分限であった。

お愛の名を耕と改めた彼女は、元土佐藩主山内容堂の寵愛をうけた側女であった。容堂の死後山内家を去ったお愛が桐生へ嫁ぐと聞き、「織屋とはいえ養蚕農家を相手にすることだろう。本名のコウに耕の字を充ててみては」とすすめたのが好誼の旧臣細川であったという。

耕の人格と才知は、森家の内側に彩りを添えることになる。宗五郎にはすでにコトという一人娘がいたが、このコトの養子として足利から迎え入れられた4代目森宗作も、耕にことのほかの信頼を寄せた一人である。自らは学問の道をあきらめて織物事業家に転身したものの、子供たちの教育には熱心であった。この4代目の深い見識と自立

を見定めて、晩年は東京の家作に退いた耕だったが、宗作は子供たちの教育を考え、耕のもとへ寄宿させている。これは新しい時代の到来に敏な耕と宗作とが、互いの立場と意志を尊重し合ったうえでの連携であったといえるだろう。

近代の洗礼を受け、宗作はやがて、3代目が当然の生業としていた織物に疑問の目をむけた。資本と事業の成長過程に次第に行き詰まるものを覚えていたようで、4代目を相続すると銀行家の道を歩みはじめ、急速に資本を蓄積する一方、厚い公共心も惜しみなく発揮してゆく。明治31年の経済恐慌によって織物業者が次々とつぶれていくなかで、これを救わんとして奔走した。歴史学者羽仁五郎が、そんな宗作について次のように語っている。「父は桐生の織物産業のために銀行を創設した。父にとって桐生の銀行は桐生の織物産業のための銀行でなければならなかった」と。

この思想哲学は、桐生の近代における森宗作の業績の一つひとつに貫かれている。桐生倶楽部の母体となった桐生懇話会誕生のきっかけになったのも「郷土の発展はやがて自己の発展である」という宗作の言葉と、それを下地にした指導力の結晶であった。それは80年の風雪にたえた会館の土台にも、脈々と受け継がれている精神である。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎ 4 月

理事会 (7日)
歩く会 (9日) 「花の城下町散策」
21委員会 (11日)
写真部会 (20日)
歩く会世話人会 (21日)
将棋部会 (22日) 文化祭協賛将棋大会
月次会 (24日) 「樹木診断」講師 熊倉弘氏
行事委員会 (25日)
桐生倶楽部はぐるま句会 (27日)
囲碁部会 (29日) 文化祭協賛囲碁大会

◎ 5 月

麻雀部会 (8日) 文化祭協賛麻雀大会
理事会 (9日)
ゴルフ部会 (11日) 文化祭協賛ゴルフ大会
文化祭 (12,13,14日)
ガーデンパーティー (14日)
歩く会 (14日) 「新緑の前日光高原散策」
会報委員会 (15日)
写真部会 (26日)
桐生倶楽部はぐるま句会 (29日)

第21回社員文化祭

桐生倶楽部の年中行事の一つ、社員文化祭が4月29日の囲碁大会からはじまり、下記のような協賛行事と催物が行われた。

12日から3日間、桐倶会館広間に絵画・写真・陶器・俳句色紙など社員の作品が飾られ、多数の来場者があった。特に今年は増山作次郎社員（商工会議所会頭）の特別出品「書と擬人狸十六態」が出品され人気をよんだ。

最終日のガーデンパーティーは、雨にも降られず美しい新緑の中で賑やかにくりひろげられ、席上、各催物や写真展の入賞者に賞品授与や、音楽鑑賞部会の提供によるフルートとピアノの二重奏（フルートは諏訪幸男さん、電子ピアノは石川雅代さん）もあり、大変楽しい集いであった。

パーティーを計画・準備していただいた行事委員のご苦勞に謝意を表したい。

文化祭協賛行事及催物一覧

将棋大会	4月22日	PM 5:00~	於 6号室
俳句会	4月27日	PM 7:00~	於 2号室
囲碁大会	4月29日	AM10:00~	於 6号室
麻雀大会	5月 8日	PM 6:00~	於ケイエム
ゴルフ大会	5月11日	AM 9:00~	於城山CC
歩く会	5月14日(日)	AM 7:00	倶楽部集合 <small>入浴アソビ場 新緑鑑賞ハイク</small>
絵画展	5月12日~5月14日	AM10:00~PM5:00	於 広間
写真展	5月12日~5月14日	AM10:00~PM5:00	於 広間
陶器展	5月12日~5月14日	AM10:00~PM5:00	於 広間
俳句色紙展	5月12日~5月14日	AM10:00~PM5:00	於 広間
ガーデンパーティー	5月14日	PM 4:00~	於 庭園

文化祭協賛各部大会入賞者

将棋大会 (5/29)

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 優 勝 | 加藤 典男 | 準優勝 | 平野平四郎 |
| 参加賞 | 小山 利雄 | 参加賞 | 三田 章 |
| 〃 | 平野 元吉 | 〃 | 野田友治郎 |

囲碁大会 (5/29)

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 優 勝 | 岡田 光弘 | 準優勝 | 吉成 敏郎 |
| 1 位 | 寺田 雅弘 | 2 位 | 遠藤 勝久 |
| 3 位 | 野田友治郎 | | |

麻雀大会 (5/8)

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 優 勝 | 石井 省三 | 準優勝 | 土田 修弘 |
| 3 位 | 笹川 勝正 | 4 位 | 川口 幸一 |
| 5 位 | 亀田 和夫 | | |

ゴルフ大会 (5/11)

- | | | | |
|------------|-------|--------|-------|
| 優 勝 | 吉田 博次 | 準優勝 | 倉林 俊雄 |
| 3 位 | 五十嵐健雄 | 4 位 | 八木橋祥价 |
| 5 位 | 関口 全之 | BB賞 | 片柳 倫子 |
| 当日賞 | 海老沼利八 | B.G賞 | 吉田 博次 |
| N.P賞No.4 H | 養田 隆 | No.16H | 福田 博重 |
| No.11H | 福島昭吉 | | |

写真展入賞者(人気投票)

- | | | | | | |
|------|-----------|------------|-----|-------|------|
| 1位 | 「コチョコウラン」 | 蛭間利雄 | 2位 | 「秋 霧」 | 武井正充 |
| 3位 | 「暮春納獅子舞」 | 藤井龍人 | 4位 | 「化粧」 | 尾沢弘一 |
| 5位 | 「春の影」 | 茂木 浩 | 6位 | 「夕映え」 | 新井友次 |
| 出品者数 | 15名 | 出品点数(審査対象) | 35点 | | |
| 特別出品 | 7点 | | | | |



沢山の入場者



社員の作品の数々



ガーデンパーティー



アトラクション

春の褒章

平成7年春の褒章受章者が、4月28日総理府から発表された。桐俱社員としては大間々町の県トラック協会々長星野精助さんが、その功績をたたえられ藍綬褒章を授与された。なお星野さんは昭和58年には黄綬褒章を受章している。

県総合表彰

平成7年度群馬県総合表彰受賞者が5月3日発表となり、桐俱社員では永田泰之助さんが衛生環境功労で受賞された。

【歩く会】

4月例会

花の城下町 古河を歩く

4月9日、群馬県議会議員選挙の日。午前9時、投票を済ませて、桐生倶楽部横を20名満員のマイクロバスは、一路国道50号を古河に向かいました。

車窓からの景色は春らしいのどかな風景。思ったより順調に菜の花の黄色一色に埋まる渡良瀬遊水池の堤防を左折、三国橋を渡り古河に入る。整備された駐車場に10時半到着しました。

コブシの花咲く街路樹の道を古河歴史博物館に向かいます。石畳の坂を登って行くと、道をはさんで右に鷹見泉石記念館、左手見上げるように建った古河歴史博物館は前に石組と噴水を配し、大きい石組みは古河城の曲輪を偲ばせるデザイン。心憎い程の景観を考えて作られた博物館は、大きいロビーに先ずストリートオルガンを配し、女子職員の手回しでファンタジックなメロディーを奏でる。古河城出城に建てられ、原始古代から古河の歴史を満載し、とりわけ家老で蘭学者の鷹見泉石の資料をはじめ古河ゆかりの画家奥原晴湖や河鍋曉斎の作品を展示する。

展示内容、レイアウト景観にビックリ堪能して前の鷹見泉石記念館に石畳とコブシの花の並木坂を進む。泉石記念館は、泉石晩年の住まい。清楚な中にも気高い庭、そして家屋に京都の詩仙堂にある雰囲気を思い出しながら春の雅味を十分に味わいながら歩きました。

露路の美しい街、なにか懐かしさを感じる道…古河の街はその土台の上に市民と行政が未来に向

って破壊でなく、古くていいものを一層磨きをかけている…と感じる所が歩いていての実感です。石畳と植込みの道を篆刻美術館に向かう。

篆刻美術館は日本で唯一篆刻専門の美術館です。隣りに新しく今年3月「古河街角美術館」が出来ました。大正9年に建てられた三階蔵の内装は大正ロマンを感じさせる空間です。古河ゆかりの美術品の展示、又市民ギャラリーとしてオープン、これから篆刻美術館と隣合せて、古河文化の向上に貢献するでしょう。時間を忘れ見て歩いた一行も水郷古河なら「なまずの天ぶらとうなぎ」と決めて昼食。2時近く桃の花が咲く広大な古河総合公園に向かいました。桃の里古河で今、桃の花まつりの最中で大勢の人で賑いを見せて居りました。

帰り道渡良瀬貯水池に立ち寄り、無事4時半桐生倶楽部に帰り、花・花・花に埋まった古河散歩を終わりました。(木島)



コブシの咲く並木道を歩く



鷹見泉石邸をバックにして博物館前

【歩く会】

5月例会

新緑の前日光高原散策

5月14日に実施。まずまずの天候に恵まれ、アカヤシオの盛りを楽しんだ。参加者7人。



横根山頂

|||| 新入社員紹介 ||||



月次会報告

4月

樹木医 熊倉 弘さんの話を聞く

4月の月次会は、全国でも数少ない樹木医（樹木の診断や保存のための治療をする）の一人で、館



林の熊倉造園土木株代表取締役の熊倉弘さんに講演をしていただいた。熊倉さんは県から依頼され、話題になった美和神社のケヤキなどの診断もされた方である。以下は話の概要。

診断はその時期だけではなく、一年を通じて見ないと正確なことはいえない。環境・条件が良ければ樹木に寿命はない。台風で枝が折れたり、不注意で病気にしてしまったりすることはあるが、その生命力は驚くほどである。

治療には随分と手間暇もかかり、大きな費用も必要だが、やりがいのある仕事だと思っている。

開発の名のもとに切られたり、落葉や毛虫をきらわれたり、環境悪化で傷んだり、都市の緑は啓蒙運動をしないと少くなるばかりである。緑は公害をやわらげ、炭酸ガスを吸収し酸素を作る天然のガス交換器でもあり、われわれの恩人である。緑を大事にしたいものである。

話のあとで、熊倉さんが実際に手がけた最近の事例として、邑楽町のエドヒガン桜と、伊香保町の大杉の治療をスライドで見せてくれた。

まず腐ったところを削り、殺菌剤を塗布、乾燥させてから、空洞にウレタンを注入する。表面処理をし、偽装剤を塗るのが地上部の手当て。更に地下は根の処理や、土の入れ替えなど、大掛りの治療法に驚く。

(当番理事 木村・矢野)

桐生倶楽部はぐるま句会 (三月)

卒業の筒を手に手に紅袴
 土筆摘み駈け来し子等の日の匂ひ
 挨拶も思い出ばかり彼岸寺
 宝持つ如くに土筆二つ三つ
 千年の生命の芽吹き神の杜
 町内の寄りて花植え水温む
 珍客の袖のもてなし土筆めし
 老農夫鍬背に出でし水温む
 芽吹きたるけやき倒れて杜虚ろ

大槻 尾沢 久保田 下山 小池 山田 本田 清水 森

桐生倶楽部はぐるま句会 (四月)

一句得てやすらく夜や遠蛙
 遠蛙酒の器は江戸切り
 春燈や障子の影に独り言
 田を渡る風の運びし遠蛙
 春灯や華燭の便り廻し見る
 菜の花や利根は夕陽を背に流れ
 息こらし包む両手に青蛙
 選挙カー菜の花畑通り抜け
 菜の花や赤城の裾をかくしけり

本田 小池 森 大槻 久保田 倉林 下山 山田 清水

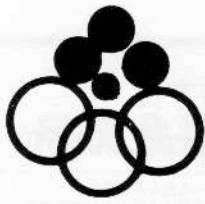
社団法人 桐生倶楽部会報 第87号

1995年(平成5年) 6月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 小池久雄

印刷 ツポノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ②

野間清治と会館

講談社を創設した郷土の野間清治は、そのずば抜けた才覚で日本の近代を大きく変えた実業家のひとりである。

彼の才能は、その企業戦略に明らかである。例えば、それぞれの市場の特性に適合するよう、年齢や性別の細分化でマーケティングを展開するセグメンテーションは、企業戦略として、いまではごく当たり前の考え方だが、これを雑誌に取り込んでみようとして着想した編集者は、野間清治以前にはだれひとりいなかったのだ。

明治43年、東大法科書記のころ、弁論はなやかなのに目をつけ、学生弁論を収録した『雄弁』を創刊、これが雑誌王への糸口となったように、すでに早い時期から、彼の頭のなかには、セグメンテーションの戦略構想は息づいていた。

やがて『講談倶楽部』『少年倶楽部』『面白倶楽部』『現代』『婦人倶楽部』『少女倶楽部』『幼年倶楽部』と立て続けに創刊、これが当たり、講談者は社運隆盛の流れに乗った。だが、野間の非凡さは、むしろここからである。

それまでのセグメンテーションの感触を土台にして、今度は、もっともとらえがたい大衆にターゲットを絞った新雑誌を計画、これにすべての財産とエネルギーを注ぎ込む大バクチにでた。それが月刊誌『キング』だ。

大正14年の創刊号は爆発的売れ行きだった。しかし、その売れ行きを支えたのは、彼が展開した画期的な広告宣伝の効果だった。市電を借り切って広告電車を走らせたり、新聞に1ページ広告を出すなど、創刊雑誌PRの現代に通じる手法をこのときすでに、ほぼ確立したのである。

それは、日本における大衆・大量文化到来の幕開きを告げる象徴的出来事であった。キングを含めた9雑誌の発行部数は月700万部、これは日本の雑誌発行部数の約8割を占めたという。

野間が、こうした冒険的戦略に勢力を傾けていたころ、ふるさとでは桐生倶楽部の会館建設計画が進められていた。だが、当初の設計案ではあまりにも費用がかかりすぎるため、設計のやり直しに迫られていたところ、そんな折、野間が快く紹介してくれたのが清水巖だった。清水はアメリカの建築設計コンクールで1位入賞の実績をもつ有能な設計者であった。

北欧風2階建のしゃれた本館と付属施設は大正8年、現在地に完成した。萩原朔太郎は、この北欧風建物にすっかり魅せられ「桐生の鹿鳴館」と呼んで親しんだ。愛用のギターを抱え、しばしば訪れてはマンドリンググループの合奏に加わり、安らぎの宵を過ごしていたという。詩人の感性をしびれさせた格調高さは、いまもそのままである。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎6月

理事会(6日)
写真部会(9日)
21委員会(9日)
21委員会(20日)
歩く会世話人会(23日)
月次会(27日)「気学を経営に活かす」
講師 西欽也氏
桐生倶楽部はぐるま句会(28日)

◎7月

理事会(6日)
会報委員会(10日)
21委員会(10日)
月次会(21日)
「桐生祇園祭の鉦と屋台について」講師 奈良彰一氏
桐生倶楽部はぐるま句会(25日)
歩く会(30日)
「梅雨明けの草津本白根山パスツアー」

月次会報告

【6月】

気学を経営に活かす

講師 西 欽也 氏

6月の月次会は西欽也先生をお招きし、「気学を経営に活かす」をテーマに「九星による人の性格と運」や「九星別吉方位」等の資料を見ながらご講演を戴きました。

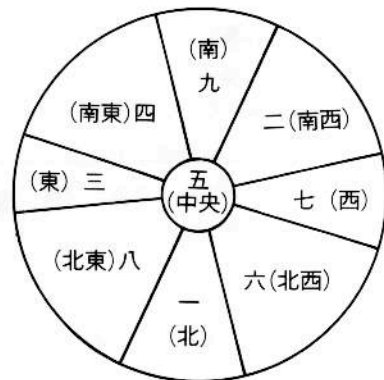
まず平成7年はどうゆう年なのかと言いますと、五黄土星猪年で、この星の人にとってはいろいろ問題が表面に出てきますが、この問題を積極的に解決することによりこれからが開けて来るとても良い年になります。終戦から50年目の今年の8月17日が世の中の変わり目になる日です。世の中全ての流れは50年の周期で大きく変わってきています。ですから今年は戦後の50年の総括の年であり、今起きている天変地異やオーム真理教等の社会の諸問題は今までの流れから起きております。これからの50年は「大」から「中小」の時代で、大きなことより中小のことを、大企業より中小企業の時代です。大きな事より小さなことを見直す時代であると申せましょう。大きな夢より小さな夢を確実に実現していくことが大事。中小がネットワークを形成しながら自立をしていくことがこれからの時代を乗り切る為に大切なことです。周期説のなかには大きな50年周期の他に小さな4年周期があり、平成3年からの不況も今年で終わり新たな段階に入ります。ですから今年は平成の改革の年であるといえます。

次に先生の資料にもとずいて「九星による人の性格と運」のお話と「九星別吉方位」のお話を戴き大変有意義な月次会を終了致しました。

九星別 吉方位 平成7年あなたにとってよい方位

(表の見方) ……あなたの九星と各月の交わった所をみます。
例えば一白水星の人の2月を見ると西がよい方位です。

	一白	二黒	三碧	四緑	五黄	六白	七赤	八白	九紫
2月 3月	西	南			南			南	
3月 4月					南北 西西	南 西	北 西	北 西	東
4月 5月	東				南 西	西	南 西	西	北 東
5月 6月									
6月 7月		北 西			南 北 西	北 東	北 北 東 西	南	南 西
7月 8月	東	西	南	南	西	北 西	北		東
8月 9月	北 東	北 西	北 南	北 東 南	南 北 南 西 西	南 西	南 北 西 西	北 西	南 東 西
9月 10月	西	南	北	北	北 南 東 西	南 北 西 東		西	
10月 11月	北 西	南			南 北 西 東	北	北 東		
11月 12月	西	南			南			南	
12月 1月	西				南 北 西 西	南 西	北 西	北 西	東
1月 2月	東				西	西	北 西	西	北 東

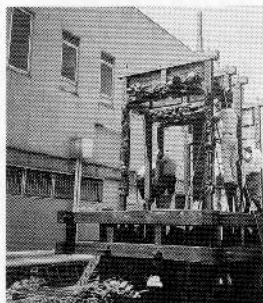


月次会報告

【7月】

桐生 祇園祭の
鉦と屋台について

講師 奈良彰一氏

組立てのはじまった鉦
於 富士銀行駐車場

7月の月次会は、桐生まつりも間近いことなので、祇園祭に直接かかわり、特に鉦と屋台の研究をされている社員の奈良彰一さんのお話を聞くこととした。

奈良さんは、祇園祭そのものの歴史から説明、桐生祇園が八坂祭典とよばれるようになった経緯や、桐生の屋台・鉦の文化的価値などにも言及、最後に今年決行することになった本町4丁目の鉦の巡行について話をされた。

4丁目の鉦(ほこ)は、天辺のスサノオノミコトの人形までの高さ十米、作りも彫刻をふんだんに使った豪華なもの、これを出すだけでも12年ぶり、今年はさらにNTT、東電、警察の協力を得て巡行(ひき廻し)をする。巡行は実に100年ぶりだという。

マンネリと言われている桐生まつりが、この4丁目鉦の巡行だけで、大きく変りそうである。奈

良さんはじめ、関係の皆さんの決断と勇気に拍手をおくりたいものである。

(当番理事 藤江・森、参加者40名)

21委員会

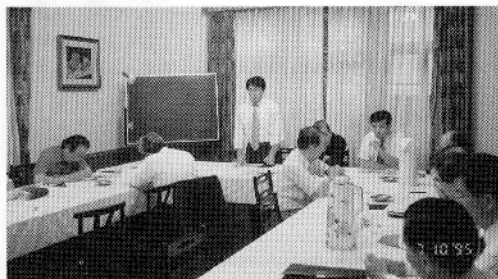
桐生まつりはこれでいいのか。

7月10日、21委員会が開かれた。出席者19名。先ず、先般の幹事会の報告があり、昨年はテーマとして「観光協会」をとりあげたが、本年度は、時事問題を取りあげる。メンバーの中からその時のテーマについて30分程度話してもらい、そのあと出席者で討議するような形にしたい。その他に、プロジェクトチームを作り、テーマ別に、例えば月次会のような場を利用して、21委員会のメンバーだけでなく、一般の倶楽部社員に話し合いの場をもってもらおう。

以上のような幹事会で決定した運営方法の説明があり、本日のテーマ「桐生まつりはこれでいいのか」について話し合った。

先ず、21委員会のメンバーであり、まつり検討委員会の副委員長松島宏明君から30分間経過説明があった。委員会では殆どの委員から「抜本的な見直しを」という意見があり、今年初めに改革案を答申したが、残念ながら一部違うところもあるものの、全体の内容や流れは変わっていないとのこと。

これに対し、出席者から「基本的に祭の意義が分っていない」「市民が自分達の祭と思えなければ」など厳しい意見が出た。またこどもみこしの責任者藤原さん、前の責任者岡部市議、市の第3次総合計画の委員だった大川さん、前の産経委員長だった蛭間市議などからも夫々の経験をふまえて発言があり、次回も今年のまつりの済んだあとだが、反省をふくめて「まつり」をテーマに21委員会を開くことに決定して散会した。



◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆

(敬称略)

戦後五十年

そのころの桐生倶楽部

戦時中は桐生倶楽部にとっても受難の時代であった。桐生倶楽部会館のシャンデリアからドアのノブ、ストーブに使う火箸まで、すべての金属類は供出させられた。

昭和18年軍は被服廠関係の一部の機関を桐生におく為、倶楽部会館を接收しようとした。時の理事長斎藤長平氏はこれを拒否、やむを得ず軍は桐生図書館を使用することとなった。

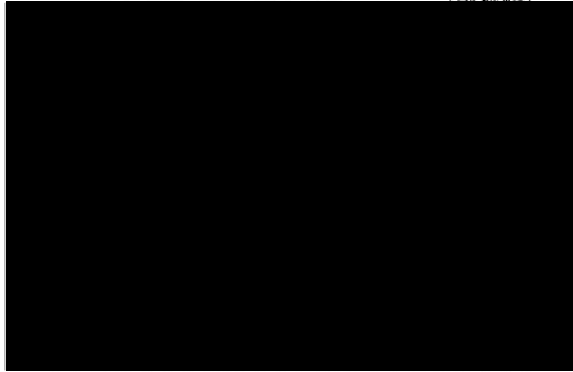
敗戦の年、昭和22年2月の理事会では、「時局愈に緊迫し重要工業方面並びに官庁等の当市に疎開する者頗々たる情況にて、当倶楽部会館に借用申込殺到の状況故、この際倶楽部事業の運行に支障なき限り情勢に即応する事を協議したる結果、群馬県商工経済会桐生支部に階下の一部を貸与し、其他の室は桐生市と経済会並びに当倶楽部の集會に充当する方針」を決定。桐葉軒も中島飛行機吾妻工場に貸与されることになった。

当然倶楽部の行事も殆どできなくなり、月次會を開いても集る社員が少く流會になることが多かった。戦後になってもしばらくは同様の状況で、昭和21年1月の定時社員総會は社員総数 137名中、出席者9名、委任状46通というありさまであった。

また敗戦直後に大きな問題がおきた。中華民国居留民団が、戦勝国として強引に會館使用の申入れをしてきたことである。斎藤長平理事長は断固拒否の態度を貫いた。戦前の軍、戦後の戦勝国の申入れをはねつけ桐生倶楽部を守った斎藤理事長の功績は特筆されるものである。

翌昭和21年5月、倶楽部會館1号室を事務所としていた桐生商工会議所が織物會館に移転、そのあとを改装、椅子・テーブルも新調、11月には榎橋渡、小汀利得氏が来館するなど、ようやく倶楽部らしい活動がはじまったのである。

(桐生倶楽部五十年史より要約)



桐生倶楽部はぐるま句會(五月)

山里は谷へ傾き麦の秋
新緑や童女の髪濃くなりて
樹木医に預けしいのちみどりさし
終日の雨に節句の炉を焚きぬ
琴平の歌舞伎を見んと麦の秋
老住居忘れおかれし武者人形
木洩れ日の届かぬ木まで緑かな
新緑の道杖ひきて足そそぞろ
茄子の色して咲き初めし茄子の花
麦の秋神の恵が波を打ち

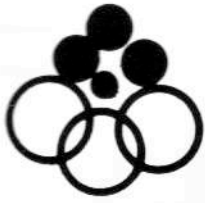
久保田 尾 沢 本 田 山 池 小 池 下 山 大 槻 清 水 倉 林 塚 越

桐生倶楽部はぐるま句會(六月)

とび飛びの植田となりし過疎の村
老いたりひとには云わず草むしる
紫陽花の色を重ねて札所道
竿振るも手心加ふ実梅打ち
新幹線植田鏡の景廻し
年号を記し梅漬け終りけり
すきとおるビンに青梅の色さえて
草取りの休む暇なき庭日照

本 田 大 槻 小 池 久 保 田 倉 林 尾 沢 下 山 清 水

社団法人 桐生倶楽部会報 第88号
1995年(平成7年) 8月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 小池久雄
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人

桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ③

前原悠一郎の仕事

桐生の近代の特徴の一つとして研究者たちがよくあげるのは、地方都市には稀な高学歴層によって、その礎が築かれたことだ。桐生懇話会、あるいは無名会などに名を連ねた人々がその中心をなすが、代表的な人物として、桐生倶楽部創立当時の社員、前原悠一郎がいる。

前原は明治6年10月31日、桐生新町二丁目に生まれた。明治維新政府において征韓論が破裂、時は西南の乱の風雲をはらんでいたところである。数え年7歳でいまの桐生市北小学校に入学。当時は桐生学校と称し新町唯一の小学校であったが、学業はこのころから極めて優秀だったようで、高等小学校をへて前橋中学で3年を過ごし、いったん中退したものの、東京へ出て再び私立郁文館に入学し、東京工業学校へ進んだ。

そのころの工業学校は、日本でただひとつの高等工業専門学校である。彼が学んだ染織工科の教授には、桐生ゆかりの大竹多気や高刀直寛らが出た。明治30年に卒業するが、日清戦争後の国情のなかで、卒業生は近代工業に引く手あまたの時代である。同級生らはいずれも駿足を伸ばさんと勇躍したが、前原はひとり、郷里への道を選ぶ。家業を継ぐという目的もさることながら、郷土産業の発展のために、青雲の志を燃やしていた。

さて当時の桐生にあっては、森宗作、書上文左

衛門、大沢福太郎といった実業家が轡を並べ君臨していたが、前原は金子竹太郎や岩下竜太郎らとともに、次代を担う世代として早々と頭角を表してゆくのである。彼らはまず、染織の改良を目的として雑誌『桐生の工業』を発刊、桐生織物学校の教諭となり、後進の指導にも力を注いだ。

そして織物学校を退いたのち、いよいよ実業家としての本領を発揮し始め、森山芳平らとともに桐生燃糸合資会社を設立、工場を安楽土村に建設したのは、前原33歳のときである。この会社が、大正7年に日本絹燃株式会社となるが、彼は戦時中の企業整備によって廃業するまで同社の社長をつとめることになる。この間の産業人としての活躍はめざましく、燃糸業の依存構造を改め、海外への販路拡大を積極的に進めたほか、両毛織物株式会社や桐生機械株式会社の設立や経営にも参画し地元産業発展の基礎を固めたのである。

また地方自治にあっても活躍し、桐生町議会議員、山田郡議会議員、桐生市議会では初代議長に推挙されるなど、人望も厚かった。産業面ばかりでなく、教育施設の整備にも傾注し、桐生の町立中学校の県立移管、水道敷設、厚生病院などの設立に奔走、また文化面においても両毛織物新聞をはじめ、地方の新聞雑誌の刊行に協力するなど、業績は多岐にわたり、その足跡はまことに大きい。

＝ 倶楽部 だより ＝

◎ 8月

理事会 (21日)

桐生倶楽部はぐるま句会 (24日) 於芭蕉

◎ 9月

21委員会 (4日)

月次会 (9日) 歩く会担当

「初秋の会津民芸の旅」

理事会 (11日)

会報委員会 (18日)

桐生倶楽部はぐるま句会 (26日)

【歩く会】

7月例会

草津本白根山

「こまくさ」のお花畠へ

7月の例会は、炎暑の下界を離れて、爽涼の草津本白根へ。満席の参加者26名を乗せたマイクロバスは、正5時に倶楽部を出発、渋川、岩井洞（休憩）、草津町を経て、白根火山ロープウェイ山頂駅前に8時に到着した。駅はまだ開いていなかったため、すぐ身仕度を整えて登りはじめる。ほどなく小さい白い花をつけたゴゼンタチバナに出会う。シラビソの樹林を縫い、高度が上るにつれて、薄紫の花をつけたミヤマシヤジン草、黄色い点の集りのような花をつけたコキンレイカ、シャクナゲ、花の時期は過ぎていたがイワカガミ、ハイマツなどの高山植物が次々と目を楽しませてくれる。登りつめたところで急に眼前が展げ、涸池が眼下に広がったところで、お目当てのコマクサの群落と対面。他の植物は寄せつけない、石ころだらけの荒地に、しっかりと根を張り、可憐なピンクの花が風にそよぐ姿は、まさに高山植物の女王にふさわしいものであった。涸池を左に見て半周する間、コマクサの大群落は続いた。晴天だというのに暑苦しさは全く感じない。9時20分、2150mのピークに着き、早い昼食。やや霞んではいたが、南には噴煙を上げている浅間山、その手前には雄大な六里ヶ原、目の良い人は遠く富士山も見えたという。西には残雪を頂く北アルプス連峰、北には電波塔のある横手山、志賀高原の笠ヶ岳などが望まれた。そこから山頂駅までの帰りは自由行動で、本白根山最高峰（2165m）へ行く人、涸池の縁に聳えるピーク（2145m 案内板にはここが本白根山となっていた）に登る人など、それぞれが時間にせかされることもなく、ゆっくりと探訪、堪能し、11時30分には山頂駅に全員が集まった。ここの標高は1900mで、気温は21.5℃であった。帰りは途中草津町の「かんぼの宿」に寄り、一同温泉（源泉95℃、PH1.70（強酸性）、酸性ナトリウム塩化物・硫酸温泉）に入り、疲れを癒し、湯上りの一杯とおしゃべりを楽しんだ。ここを2時45分に発ち、途中中之条の浅間酒造、岩井洞で小休憩の後、渋川一前橋間の渋滞のため、予定よりやや遅れたが、7時5分無事に倶楽部に帰着。楽しい一日でした。世話係の方々に感謝いたします。

(倉林俊雄記)



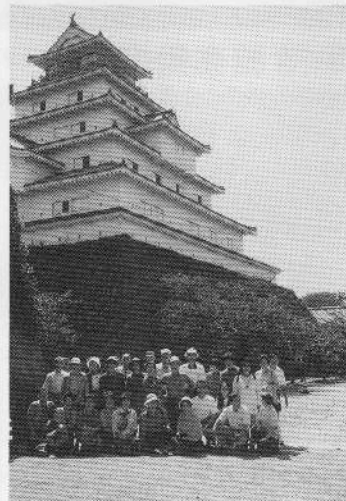
山頂駅前にて勢揃い



本白根山を背景に

初秋の会津民芸の旅

『天鏡閣』（元有栖川宮別邸）



鶴ヶ城

天守閣は昭和四十年再建
中に郷土博物館がある

(社)桐生倶楽部 九月 月次会

歩く会担当

初秋の会津民芸の旅

恒例によって、九月の月次例会は、歩く会が担当致しました。

今年は高速道路を乗り継いで、近くなった、会津地方、民芸の旅バスハイクで、盛沢山なスケジュールでしたが、順調にスケジュールを消化して楽しい一日でした。

いつも満員のバスハイクですが、土曜日と行事が重なった為、32名と参加者には、優雅なユウユ一旅行でした。

定刻、午前6時、桐生倶楽部前をバスは、出発して一路、佐野ICより東北道を郡山方向に向いました。途中、那須高原PAにて休憩して、郡山ジャンクションを左折、猪苗代湖、磐梯山を望む秋晴れの会津に予定時刻前に到着しました。

先ず猪苗代湖を眼下に望む、元有栖川宮別邸、明治の香りを今に伝える『天鏡閣』の見学です。国指定重要文化財の白亜の木造洋風建築の中、気品溢れるルネッサンス風洋風建築とマッチした調度品家具の置かれた、部屋を順路に従い見学しました。

その後バスは一路会津若松市に入ります。白虎隊の墓の下を通りバスガイドの説明の中鶴ヶ城公園駐車場に駐車しました。

ここにバスを駐車して午前10時30分より午後1時30分まで、フリータイムです。鶴ヶ城、武家屋敷、そして会津復古会と云う名前で会津をアピールしている、懐かしい様な、たゞずまいの店々は会津葵、竹藤、鈴木屋利兵衛、満田屋と並び、独特な会津の薫りを旅行者に与えてくれます。

昼食は「うなぎのえびや」「手打そばの桐屋」が人気があったようです。又鶴ヶ城公園内の福島県立博物館も建物及び展示内容共拔群でした。

それぞれにグループ別に会津を楽しんだ後、酒造り博物館を見学、「き、酒ご自由」と云う、テーブルの前で、会津の美酒を楽しむ本郷焼の窯元を訪ねました。帰り道は、会津西街道です。

途中、大内宿に立ち寄る頃は、秋日和の一日も陽が西に傾き、街道沿いのススキの穂が風にそよぐ中、鬼怒川、日光高速を経て午後8時、予定よ

り一時間早く無事桐生倶楽部に到着致しました。

(担当 木島)



会津葵(和菓子)



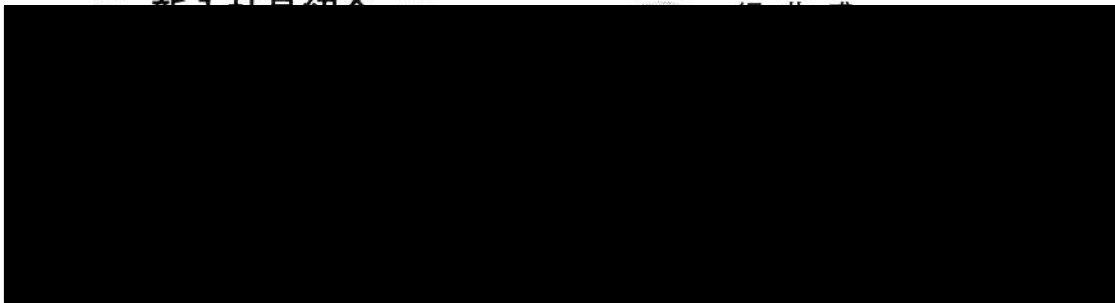
満田屋(田楽)



竹藤(竹細工・民芸品)



大内宿(昔のままの宿場の風情が残る)



21委員会

桐生まつりをふり返って

桐生倶楽部21委員会の例会は9月4日に開催。7月例会「桐生まつりは、これでいいのか」に続き桐生まつりの反省会となった。「まつり検討委員会が答申した改革案が、本年は採用されず残念」「4丁目の鉦の巡行により、祇園屋台・鉦に対する市民の認識が変わった。今後、惣六丁だけでなく、全市あげて保全・活用に取り組み、行政も支援すべき」などの意見が続出した。

本年の桐生まつりの話題を集めた
当番町本町四丁目の鉦
巡行は百四年ぶりの実現という



桐生倶楽部納涼句会



(於 芭蕉)

桐生倶楽部はぐるま句会

(七月)

遠囃子端居の闇を流れくる
過不足は言はず余生の端居かな
言ひかけしことを忘れし端居かな
大瀑布緑の壁をまっ二つ
その部屋に滝しぶき散る応挙かな
端居して碁仇を待つ時間(とき)長し
危なかし舞台せり出し滝見茶屋
雨あがり滝は岩より噴き上げし

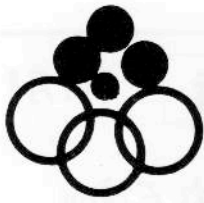
久保田 本田 小池 下山 大槻 清水 尾沢 山田

桐生倶楽部納涼句会

(八月)

機音の消えししじまや夜の秋
踊り見に行く仕度して診療し
幼な名で呼ばれとびいる盆踊
盆踊素足の下駄の軽やかさ
葉の上に蓮の大花立ち上る
隣室の話途切れて夜の秋
忽ちに踊り子となる少女かな
門跡の数珠觸れし朝白き蓮
湯あがりの身に踊り笛聞きし
踊り子のふく手も忘れ玉の汗

小池 久保田 本田 倉林 遠藤 森 尾沢 大槻 山田 清水



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ④

斎藤長平の求心力

岡公園の憩いの空間にやわらかな視線を投げかける織姫平和像。この台座にかつて、ライオン像が四肢を伸ばし、威光を放っていた姿を実際に見て記憶しているのは、おおよそ昭和ひとケタあたりの人たちまでになるだろうか。

戦時中の供出によって市民の前から消えていったが、国威発揚の時局をそのまま形にしたようなこの獅子奮迅像、桐生市史によると、像のモデルは「ワートルローの戦勝記念碑」であると説明されている。ワートルローは、イギリスとプロイセンの連合軍がナポレオン軍を撃破したベルギーの古戦場だ。しかし建立者の森邦武は、その昔、斎藤長平に語ったことがある。「あれは、ドイツ占領下のフランス要塞都市ベルフォールにあったライオン像をもとに（桐生織物学校の図案教師だった）長沢時基がデザインを担当した」と。斎藤家に残る、史書にはない記録である。

桐生の近代を支えた先人たちの、社会事業に対する情熱のほとばしりには、いまさらながら目を見張るものがある。発案がだれであろうと、桐生の発展のために必要とあらば、ときには自らが中心となり、ときには脇役に回って、事業実現のための強大な推進力を生み出してきた。その団結力の源に桐生懇話会があることは、すでにふれてき

たところだが、おのおのが役どころを心得ていたという点で、やはり傑出した人々の集まりであったことがうかがえるのである。なかでも桐生倶楽部3代目理事長斎藤長平は、和を尊び、人望も厚く、なにかにつけて、貴重な求心力となってきた人物であった。

明治24年、本町3丁目で染物業を営む2代目長平のもとに生まれ、京都高等工芸学校を卒業。数々の会社経営も手がけたが、そうした経済的活動もさることながら、文化都市への発展にひとときわ情熱を燃やしたことで知られている。

前橋、高崎、伊勢崎と、県内で次々公立図書館がオープンした大正の初期、どうしたことか桐生でなかなか実現しないのをはがゆく思っていた長平は、当時小曾根町にあった斎藤家一番の美田を市へ寄付し、図書館建設にはずみをつけた。「市立」と冠しても、建物の建設資金から蔵書の類まで、そのほとんどが長平の寄付をきっかけとした市民の協力であったというから、この気概が放つ輝きは、人頼みがあたりまえのような現代にあっては、いっそうのまぶしさがある。

人の和を重んじる斎藤の人柄は、倶楽部運営の隅々まで発揮され、理事長としては最長の24年を務めた。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎10月

月次会（6日）「痴呆の初期症状について」
講師 宮永利夫先生
理事会（9日）
歩く会世話人会（23日）
21委員会（25日）
桐生倶楽部はぐるま句会（26日）

◎11月

21委員会（6日）
行事委員会（10日）

歩く会（12日）「桐生川の源流、熊鷹山へ」

囲碁部（12日）秋季囲碁大会

理事会（13日）

会報委員会（14日）

歩く会世話人会（14日）

月次会（21日）講師 陸上自衛隊第12師団長

阿部英輔陸将

写真部会（24日）

桐生倶楽部はぐるま句会（30日）

月次会報告

【10月】

月次会報告

【11月】

「痴呆の初期症状について」

講師 群馬大学精神神経科講師

宮 永 和 夫 先生



宮 永 和 夫 先生

高齢化社会を迎え、老人性痴呆症の増加が大きな社会問題になっている。10月の月次会はこの痴呆の問題について、その研究で著名な宮永先生を岸理事のお世話で倶楽部にお迎えして、講話をいただくことができた。

痴呆症は大きく分けて「脳血管性痴呆」とアルツハイマー型痴呆の二つになる。脳血管性痴呆とは、脳の血管にコレステロールなどの血中成分が沈着して動脈硬化が進行し、血管が切れたり、あるいは血管に血栓が形成されたりして脳卒中を引き起こし、その後遺症として現われる痴呆である。

一方、アルツハイマー型痴呆というのは、脳の神経細胞が広い範囲にわたって消失することで引き起こされる痴呆で、時に記憶をつかさどる「海馬」と呼ばれる部分の神経細胞の損失が激しいのが特徴である。その原因は分っていない。

かつての日本人には脳血管性痴呆が主流で、アルツハイマー型痴呆は殆ど見られなかったが、ここ20年ぐらいの間にアルツハイマー型痴呆が急増して、老人性痴呆の3分の1をしめるまでになった。いずれにしても現在、痴呆を完全に治す薬剤はなく、症状の進行を抑えることも難しい状況である。

ところが最近世界の医療関係者が注目している「DHA」正確な名称はドコサヘキサエン酸。魚の油に豊富に含まれている脂肪酸が各種現代病、老人性痴呆にも改善効果のあることが分った。特にアルツハイマー型痴呆に特効のあることが臨床試験で証明されている。

(当番理事 岸・岸田)

「自衛隊あれこれ」

陸上自衛隊第12師団長

阿 部 英 輔 陸 将



阿 部 英 輔 陸 将

11月は、相馬ヶ原駐屯の陸上自衛隊第十二師団長の阿部英輔陸将を招き、「自衛隊あれこれ」と題して講演をいただいた。普段なかなか知る機会のない自衛隊の素顔について、制服組の立場から、愉快的講話だった。

・軍隊ではない

自衛隊はあくまで国防のための組織である。指揮系統はシビリアン・コントロール(文民統制)が確立されており、組織としての主義・主張のために発動することは決してない。制服を身につけ、階級章や記章によって国から与えられた権限や功績を明確にし、それに応じた社会的責任を果たすべく、任務を全うしている。

陸上自衛隊は、全隊を統合指揮できる立場の人間を持たず、国内を五方面隊に分散してある。これは旧軍組織を反省して「クーデター防止」の観点から配慮されたもの。しかし、一人で指揮できないというシステムの弱点が、阪神・淡路大震災の派遣の際に露呈してしまった。我々は原則として、要請がなければ発動しないことになっているため、防衛庁長官と内閣総理大臣の発令がない状態では動きがとれなかった。

・近隣諸国とも共同訓練を

何かと云々される日米共同訓練だが、私個人としては重要なことだと考えている。振り返ればカンボジアPKOの時には共同訓練が非常に役立ったし、我が国の防衛の性質上、特に海上・航空の二自衛隊はその形態を見ても(海上自衛隊は本来中心となる空母および原潜を所有していない点、航空自衛隊はほとんどの兵器をアメリカ製に依存している点など)、アメリカとの共同訓練を避けての国際協力は成立しないのが実情。

桐生倶楽部社員の嬉しいニュース

藍原さんの文部大臣表彰

藍原等さんは、11月の全国体育指導委員連合会設立二十周年記念大会で文部大臣表彰を受けた。藍原さんは市教委から委嘱を受けた体育指導員として三十年も活動。地域スポーツ振興の功績が認められたものである。

星野さんの労働大臣表彰

平成7年度職業能力開発関係表彰で、星野管工社長星野弥一さんが労働大臣表彰を受けた。星野さんは、技能検定の建築配管部門で首席検定員を務めている。31年という長い間、技能検定員として活躍している功労が認められたものである。

県文学賞に江原さん

平成7年度群馬県文学賞が10月10日発表になり、随筆部門で江原さんの作品「ひとりしずか」が受賞した。

県文学賞の受賞は桐生では久しぶりのこと、しかも桐生倶楽部社員の中から受賞者が出たのは、何とも嬉しいニュースであった。

江原さんは群馬銀行の元桐生支店長で、現在は群馬テレサービス（在前橋市）の常務取締役。作品「ひとりしずか」は昨年11月に自費出版した160ページの単行本。江原さんは桐生倶楽部歩く会にも時折は参加しているが、道々に咲く花をめで、小鳥のさえずりに耳を傾けながらの山歩きや、川釣りが大好きとか。「ひとりしずか」は植物や小鳥・釣の話など33編の話から成るが、その中の1編「ひとりしずか」の前半の部分を江原さんのお許しを得て、以下に紹介する。

「ヒトリシズカに最初に出合ったのは渡良瀬川の支流、小黒川へ山女魚釣りに出掛けたときである。木々の芽吹きがすばらしく、コナラの銀、アカシデの赤い芽、いち早く羽子板の羽のように葉をひろげるエゴノキの鮮緑、そして溪の岩肌に咲くアカシアのピンクが、清流の川面に揺れ動きながら映しだされる小黒の溪は、詩情そのものの美しさであった。すっかり錆のとれた美しい山女魚をいくつか魚籠に納め、竿を納めて林道に上ろうとしたときであった。

赤みどりの葉をいくぶん開いて、そのさきが白い穂状の花に出合った。それは私にとって初対面であったが、すぐにヒトリシズカだと分った。なんと形容してよいのか、清楚なそして可愛い地味な穂状の花であった。その後、草津の姫仙の滝の近くで株立ちしたたくさんのヒトリシズカに出合ったことがあった。滝の右岸の斜面一面に生えていて、まるで人工的に植え付けたものと見えるほ

どバランスよく点在していた。

ヒトリシズカとだれが名づけたのであろうか、当初、その姿からも静かな美しい姫を連想しての命名と勝手に解釈し決め込んでいた。その名の由来は「牧野植物図鑑」や植物学者前川文夫氏によると、同じセンリョウ科のフタリシズカは古くはキツネグサといったのだが、能楽の「二人静」から江戸時代の初期にはフタリシズカの名が確立された。その後フタリシズカにたいして一つしか花穂がないので、ヒトリシズカと命名されたのだろう、としている。」

2ページから続く

「自衛隊あれこれ」

アメリカは「日米が仲良く共同訓練を行っていること自体が、近隣諸国への抑止力になる」とさえ言っている。個人的には、アメリカだけでなく中国やロシアなどの近隣諸国とも共同訓練を行うことで、相互理解を図ることこそ「抑止」につながるのではと考える。

• もっと理解を

創立して四十一年が経った今、自衛隊は災害派遣をはじめ、今でも全国に二千発ちかく埋没している不発弾（太平洋戦争当時、米軍が投下したもの）の処理など、多方面で活動している。

先日も知事とお会いして、県内で災害が発生した際には、ヘリポート用の土地や水利の提供など、全面的なバックアップをお願いしてきた。やむを得ず夜間にヘリコプターが飛行する場合などもあるが、我々はみなさまの役に立つために日々訓練に励んでいるので、闇雲に「うるさい！」と言われるのはつらい。特に巨人が負けた日は苦情が多い（笑）。

さまざまな問題を抱えているのはご承知の通りではあるが、内部の人間としては、もっと自衛隊の活動にご理解を深めていただければと思う。

（当番理事 木村・矢野）

|||| 新入社員紹介 ||||

(敬称略)



【歩く会】

11月例会

紅葉の熊鷹山

11月12日の日曜日。奥梅田の熊鷹山（1,168メートル）を征服？すべく午前8時、桐生倶楽部を出発。2台に分乗した面々は森口、後藤、茂木さんといったベテラン組で計8名。

桐生川源流地帯の紅葉探勝が目的でしたが、開削中の石鴨林道をひと目、よそさまより早く見ておこうという野次馬根性も。

絶好の日和に恵まれて行程は至極順調でした。12時5分には予定どおり熊鷹山頂に到着しましたが、アレレ…？ 頂上は大勢の先客組に占拠されていて腰をおろす余地もない有様。食事ができないので氷室山分岐まで足をのぼして、ようやくのことで愛妻おにぎりにありつくことができました。

雑木が大半なので全山錦繡一色とは参りませんでしたが、針葉樹の黄葉に混ってカエデ、ツタなどの赤が美しく、過ぎゆく秋の後ろ姿の妙に思わず感嘆の声をあげた一日でした。

午後3時に無事帰着。

桐生倶楽部はぐるま句会（九月）

ちろろ鳴く診察室の灯を消せば
新涼の流れに洗ふ藍衣
登り窯火入れの近し草の花
かくし湯に休らう夜や虫時雨
細き葉の幅をはみ出す露の玉
対岸の秋灯の街息づきて
片隅の鉢に新たな虫の声
父の忌や墓一面を草の花
玄関を開くや虫の音降りそそぐ
ひと駅を過ぎて秋の灯ともりけり

久保田 小池 遠藤 本田 倉林 尾沢 森 清水 山田 大槻

桐生倶楽部はぐるま句会（十月）

秋の暮観音像の暮れ残り
始発車に座席の夜寒残りけり
黄落や山路は空に展き初め
縁日の何も買はずの夜寒かな
菊を賞で華燭の宴の祝辞かな
夜の寒さ高台削る音のして
秋の暮今宵障子の新らしき
秋の暮詩人となりて街歩く
大法要大紅葉の一寺かな
せせらぎの音きわまりし秋の暮
背丈伸ぶ菊括られし小径かな

小池 大槻 倉林 久保田 本田 山下 山田 遠藤 清水 尾沢

21委員会（11月）

21委員会11月の委員会は、6日(月)午後6時より開きました。出席は11名、議題は「桐生八木節まつり」についての提言のまとめでした。市民の自発的な「まつり」への支援を呼びかけることで方向性は決まり、12月の委員会に於いて最終決定の予定です。

(赤石)

秋期囲碁大会(囲碁部会)

11月12日(日曜日)恒例の囲碁大会が倶楽部6号室で行われました。

好季節の好天気恵まれて参加数は少なめでしたが、一騎当千、好勝負が多く、賑やかな一日でした。海苔巻き寿司を頬ばって喉しめしのビールに舌つづみをうち楽しい一日を過しました。

午後には「歩く会」と重なって出席できなかった金井利雄さんも歩く会の帰りに顔をだしてくれました。

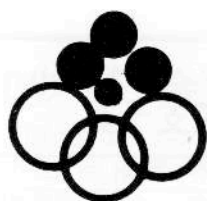
参加会員並びに上位成績者は次の通りです。

- 岡田光弘 金谷利男 木村博一 倉林俊雄
島 勝治 野田友治郎 福永儀一 吉成敏郎
第一位 福永儀一（4勝1敗1持碁）
第二位 金谷利男（3勝1敗1持碁）
第三位 岡田光弘（4勝3敗）

◎囲碁愛好者も年々増加し倶楽部でも土曜日午後、6号室を開放しています。会員で囲碁をなさる方は非ご入会下さい。

(連絡は事務局 木村まで)

社団法人 桐生倶楽部会報 第90号
1995年(平成7年) 12月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 小池久雄
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑤

書上文左衛門の願い

桐生高等染織学校の創立運動が本格的に始まったのは、明治41年ごろである。その先頭に立って中心的役割を果たしたのは、森宗作、書上文左衛門、大沢福太郎ら地元有力者たちだが、陰では大物がこの運動を支援した。

実業家の渋沢栄一である。渋沢は、桐生織物が東京でお召鑑賞会を開いた際に、その名誉会長を努めるなど浅からぬ縁があり、米桐の折、三者はそろって渋沢と懇談し、染織学校の建設について桂太郎総理への口添えを依頼した。翌年、三者のもとに届いた返書は「首相には、地方に高等工業学校の必要性を詳細に説明した。予算会議の結果に待つべき」という旨の内容であった。そして44年12月、創立費の予算は内定をみたのである。

だが、この相談事を進めていくうえで桐生の関係者が困ったのは、有力者を招いたり、集まって相談する場所がないという問題であった。「教育問題を議するのに、芸妓を呼ぶような席で相談するわけにはいかない」。社交場がほしいという思いはここから盛り上がり、それがやがて桐生倶楽部の会館建設に弾みをつけていくわけだ。

書上家は、天正2年に荒戸村へ移住した図書勝善を祖とする系譜である。3代目の三郎左衛門勝

郷のときから代々織物買継商を営み、発展させてきた。染織学校の創立に尽力した文左衛門祐介は11代目にあたる。その父の背中を見て育った12代文左衛門史郎は大正3年3月、東京高等商業学校を卒業してすぐに父を失い、若くして家督を継ぐことになった。第1次大戦後の世界恐慌、さらには関東大震災によって莫大な損害を被ったが、これをしのいで再興をなした苦勞人である。

大正10年に市議会議員、昭和6年に県議会議員に当選して自治にも貢献、桐生倶楽部には創設からかわり、2代理事長も努めた。

また文左衛門は、桐生におけるゴルフの草分けでもある。仲間呼び掛けて桐生ゴルフクラブをつくり、自宅にはインドア練習場を造る熱の入れ方で、この練習場はのちに坂口安吾も愛用したという。戦後、同家に伝わる文書を産業金融研究の資料として東大に寄託するなど、文化への理解もことのほか深かったようである。

昭和47年7月14日に死去したが、桐生倶楽部50年に残した彼のなむけの言葉は「時代の変化に応じて、適正な倶楽部活動の行われんことを念願する」というものだった。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎12月

クリスマス (8日)
歩く会 (10日)「師走の東京文化探訪」
理事会 (11日)
21委員会 (12日)
歩く会世話人会 (13日)
桐生倶楽部はぐるま句会 (25日)

平成8年

◎1月

新年互礼会 (4日)
歩く会 (14日)「新春の歩き始め吾妻山」
理事会 (16日)
歩く会世話人会 (18日)
会報委員会 (19日)
監査会 (22日)
臨時理事会 (26日)
定時社員総会 (26日)
桐生倶楽部はぐるま句会 (29日)

新予算は1,900万円 80周年記念事業費も計上



平成8年度の定時社員総会が1月26日午後6時から二階広間で開催されました。この日はあいにくと時折り風花が舞う真冬日でしたが、委任状をふくめて過半数の出席があり会議成立、提案された議案をいづれも異議なし原案通り可決、新しい年度がスタートしました。

山口正夫理事の司会で進められ、飯山副理事長が開会あいさつ、塚越理事長が年頭あいさつを行いました。理事長はその中で「長く苦しかった景気も年初から明るい兆しが見えてきたことはご同慶の至り」と足踏み状態から一歩踏み出した景気回復への期待に触れながら各業界ごとの現況を紹介、復調の消費についても高級品指向が特長的だとして、「今年はお互いに良い年になるでしょう」と結びました。

また、来たる平成10年が倶楽部創立80周年にあたることから記念誌の発刊を予定しているが、これに収載する資料提供を広く呼びかける考えを明らかにして協力を訴えました。

議事は塚越理事長が議長に選任されて進められ別項のように①平成7年度事業報告②決算および監査報告③平成8年度事業計画と総額1,900万円の予算案の三議案を可決して閉会しました。

昨年度に行われた 各種行事のあらまし 平成7.7.1~12.31

社員総数 330名 (名誉社員1名、正社員329名)
内訳 (法人26社、個人304名)

入社 8名
退社 10名
行事・集会 82回

新年互礼会1回、文化祭1回(絵画展、俳句色紙展、陶器展、写真展、ゴルフ大会、麻雀大会、将棋大会、囲碁大会)クリスマス祭1回、総会1回、理事会13回、監査会1回、月次会7回、委員会16回(行事委員会2回、文化活動委員会1回、21委員会5回、同世話人会3回、会報委員会5回)、部会41回(俳句会12回、歩く会8回、同世話人会11回、ゴルフ部1回、麻雀部1回、将棋部1回、囲碁部3回、写真部4回)

その他 会報6回発行

平成8年収支予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1.会費 (※注)	12,192,000 ^円	1.給料及手当	6,200,000 ^円
		2.特退共済金	72,000
		3.福利厚生費	25,000
		4.租税公課	1,750,000
		5.火災保険料	350,000
		6.通信費	800,000
小計	12,192,000	7.修繕費	1,500,000
2.月次会々費	120,000	8.光熱費	1,200,000
3.会館使用料	2,350,000	9.事業費	3,000,000
4.設備使用料	410,000	10.会議費	300,000
5.電話使用料	10,000	11.消耗品費	150,000
6.収入利息	15,000	12.雑費	700,000
7.入会金	300,000	13.支払利息	0
8.雑収入	200,000	14.備品費	300,000
前期繰越金	3,565,857	15.創立80周年記念 事業準備金	1,500,000
		次期繰越金	1,315,857
合計	19,162,857	合計	19,162,857
		法人 4,000 × 26 × 12	
		個人 3,000 × 304 × 12	
		3,000 × 0 × 6	

平成7年度収支計算書

科目	予算額	決算額	差額
I 収入の部			
会費	12,006,000	12,183,000	177,000
月次会々費	120,000	108,000	△ 12,000
会館使用料	2,300,000	2,321,750	21,750
設備使用料	410,000	404,467	△ 5,533
電話使用料	10,000	6,848	△ 3,152
収入利息	15,000	10,153	△ 4,847
入会金	300,000	220,000	△ 80,000
雑収入	150,000	474,828	324,828
当期収入計	15,311,000	15,729,046	418,046
前期繰越金	2,156,894	2,156,894	0
収入合計	17,467,894	17,885,940	418,046
II 支出の部			
給料及手当	6,100,000	6,194,100	94,100
特退共済金	72,000	72,000	0
福利厚生費	220,000	20,084	△ 199,916
租税公課	1,600,000	1,666,700	66,700
火災保険料	350,000	320,450	△ 29,550
通信費	950,000	743,069	△ 206,931
修繕費	1,500,000	456,903	△ 1,043,097
光熱費	1,200,000	1,129,571	△ 70,429
事業費	3,000,000	2,548,655	△ 451,345
会議費	300,000	258,134	△ 41,866
消耗品費	150,000	123,152	△ 26,848
雑費	600,000	668,671	68,671
備品費	300,000	118,594	△ 181,406
当期支出合計	16,342,000	14,320,083	△ 2,021,917
当期収支差額	△ 1,031,000	1,408,963	2,439,963
次期繰越金	1,125,894	3,565,857	2,439,963

〔歩く会〕 12月例会

12月例会は、泉岳寺と東都名園めぐり。12月10日(日)6時半、大型バス1台を満席にして桐生倶楽部を出発。

先ず義士の討入の日にも近いというので、浅野内匠頭と赤穂四十七士の墓のある泉岳寺に参詣。

次に日黒の自然教育園の一角にある東京都庭園美術館へ行く。ここは旧朝香宮邸で建物はアール・デコの粋をつくした素晴らしいもの。折よく、「エドゥアール・サンド彫刻展」が開催されていた。サンドはアール・デコの時代にフランスで活躍した動物彫刻家である。

庭園美術館へ10時に着いて、午後2時まで解散して自由行動。附近には白金自然教育園、久米美術館、雅叙園美術館、日黒不動などがあり、各人好みの所で時間を過ごす。

最後は皇居東御苑で三の丸尚蔵館、松の廊下跡、本丸跡など珍しい所を見学して19時帰着。

(担当 木島・村田)



泉岳寺



庭園美術館にて



皇居東御苑

4日、社員互礼会開催

1月4日零時半から恒例の桐生倶楽部社員互礼会が二階広間を会場にして開催されました。今年の司会役は蛭間利雄氏。

新入社員の紹介のあと、塚越理事長が年頭あいさつ。つづいて昨年、大臣表彰、国家表彰を受けた社員に記念の金盃を贈って倶楽部としての祝意をお伝えしました。今回の対象者は藍原等、星野精助、星野弥一氏のお三方。

社員有志のあいさつでは、日野茂桐生市長、笹川堯衆院議員、増山作次郎桐生商工会議所会頭、それと近藤英一郎全国商工会連合会長が、それぞれの立場から新年への期待感を披露しましたが、論旨は総じて景気回復ようやく本番…という力強いものでした。

日野真夫県経営者協会会長の発声で、互いに今年の活躍を誓って乾杯、祝宴に入りました。



クリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭は、12月8日(金)6時から開催された。参加者80名、例年のように幼児や小学生など家族が多く、まことに家庭的な雰囲気であった。

聖書朗読や讃美歌の合唱も桐生倶楽部ならではのもの、社員の日野桐生市長さんも仲間入り。アトラクションは須田三枝子さんのソプラノ、塚越弘美さんのピアノでミニコンサート。クリスマスにちなんだ数々の名曲はまことに楽しい。

会食のあとは、例によって小さいお客様に大人気の福引、8時閉会。



讃美歌の合唱

〔歩く会〕 1月例会

新春の歩き初めは1月14日(日)、吾妻山に登った。山頂から見る桐生のまち、雪の赤城山などの展望を楽しんだ。参加19名。

(担当 後藤・森口)



吾妻山頂

桐生倶楽部21委員会 市民にアピール

文化活動委員会の中の部会、21委員会は、若手を中心に約 100人のメンバーで、部長赤石清安、副部長塚越紀隆という構成。担当理事は山口正夫である。

地域の課題をテーマに毎月例会を開き、率直な意見を出し合っている。昨年は「桐生八木節まつり」をとり上げ話し合いを続けてきた。その結果まとめたのが、下記の「桐生まつりに対する提言」である。

桐生まつりに対する提言

桐生の誇り

「鉾と屋台の出るまつり」を!

当委員会では、本年のテーマに「桐生まつり」を掲げ委員会活動を行ってきたが、第32回桐生八木節まつりをふまえて、来年以降の「桐生のまつり」について、民活の地桐生の市民としての立場から提言をするものである。

昨年のまつり最大の出来事は、104年ぶりの本町4丁目の鉾の巡行であった。関東に類を見ない規模の鉾の迫りに多くの市民が感動し、桐生の持つ底力を認識したことであろう。更に3丁目所有のもう一基の鉾、各町会所有の屋台を復活しこれらを単に本町のものと考えずに桐生市民全体の宝物ととらえ、多くの市民団体や市民一人ひとりが自ら手で、財政的・人的支援を行い、次代に継承すべきであると考えます。

桐生八木節まつりについては、今まで数次にわたり検討委員会が組織され、熱心に議論がされたが、その議論が活かされない状態が続いている。この時、この閉塞状態を打破する可能性を示したのが、まさに鉾の巡行であった。このすばらしい感動と衝撃こそが桐生のまつりの将来を示したと我々は感じた。この感動を契機として、行政も産業界も惣六町も、そして市民も一致協力して、桐生らしいまつりを実施する確かな手応えを得た。このことから私たちは鉾と屋台の共に出るまつりを提唱し、まつりに関するすべての諸団体並びに市民に今こそ財政的・人的支援をする受け皿を創る時であることを提言する。

桐生倶楽部21委員会
委員長 赤石 清安
委員会 一 同

新入社員紹介

(敬称略)

「歩く会」1996年度計画(前半)

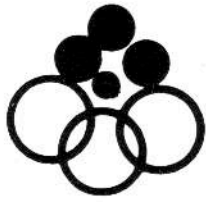
6月23日	5月19日	4月14日	3月10日	例会日
(H)第4	(田)第3	(田)第2	(田)第2	曜日
の水郷と佐原の街めぐり	あやめ咲く	新緑の中小	マンサクの花	行先
梅雨の中美しく咲く	丸山高原を満喫します	桐生倶楽部文化祭協賛	春一番の枯木立の中、	コース概要
バス50人乗	乗用車	JR	乗用車	乗物
村田 藤井	肥塚 金井	森口 木島	肥塚 後藤	担当

桐生倶楽部はぐるま旬会(十一月)

七五三母の筥迫髪飾り
着飾りて背中をねだる七五三
寄鍋やラ抜き言葉の論つきず
戦跡に風化の墓標草紅葉
空つ風来る道見せて大赤城
風のぶつかり合ひし街の角
大根干す真正面の晴赤城
草紅葉心取られて遠く来し
雨ふりて色取々の草紅葉
雨に背を丸めて降りにつけり

下 久保田 山 小池 田 倉本 林 森 尾 田 沢 清 水 大 槻

社団法人 桐生倶楽部会報 第91号
1996年(平成8年) 2月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 小池久雄
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑥

堀祐平と新川球場

「新川公園」という名もだれも知られるようにはなってきたが、まだまだ新川球場のなじみには及ばないのか、いまでも「新川球場跡」といった方がずっと通りがいいようである。

それほど桐生市民とこの球場は、分かちがたい歴史を共に歩んできたのだ。桐生中学が初の甲子園出場を果たした昭和2年、市民の野球熱は大いに高まった。大正6年に市民有志の力で開校にこぎつけた町立中学校は、すでにこのとき県立へ移管してはいたが、「わがまちの学校」の思い入れはひときわ強く、その桐中が全国の舞台を踏むとあって、まちは熱狂の渦である。この年から初めてラジオの実況中継が始まり、試合の様子が電波に乗った。市民はラジオにかじりついた。

そして、その興奮の高まりが市民の野球場建設運動に火をつけたのだ。この運動のまとめ役として、大きな功績を残したのが、同年に設立された桐生市体育協会の初代会長堀祐平である。長野県生まれの堀は、29歳のときから桐生で織物製造に従事し、リボン織を創織し企業家として名をなしていた。建設資金を工面するため、当時の東毛立憲同志会を寄付集めの中心にすえ、また産業界にも全面的な協力を依頼した。織物関係者は産地の

威信をかけて全国各地を飛び回ったという。

昭和3年11月、北関東屈指の設備を誇る新川球場が、待望の姿を市民の前に現した。この野球場をよりどころとして、やがて桐中稲川野球は不滅の伝統を築き上げていく。戦後すぐ、荒廃した市民の心に希望の火をともしたのは、新川球場を舞台にしたクラブチーム「オール桐生」の大活躍であった。オールドファンには、数え切れぬほどの思い出が染み込んでいるのである。

野球場完成の後も私財を投じて競技場施設の充実を図った堀は、昭和9年、これら一切を市へ寄付し、さらなるスポーツ振興に情熱を注いだ。こうした堀の功績をたたえ、昭和28年5月、新川橋のたもとに堀祐平顕彰碑が建立された。除幕式当日、記念事業として市民マラソンが行われた。これが「堀マラソン」の発祥である。いまでは参加者が三千人を超す一大イベントに成長し、「スポーツの父堀祐平」の名を語り継ぐにふさわしい隆盛をみせているといえるだろう。

堀は桐生倶楽部設立当時からの社員である。昭和9年から18年まで理事を務め、昭和30年1月5日、78歳で次の世界へ旅立った。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎ 2 月

理事会 (8日)
 歩く会 (11日)「三浦半島、浅い春の渚歩き」
 文化活動委員会 (19日)
 桐生倶楽部はぐるま句会 (26日)
 歩く会世話人会 (26日)
 営繕委員会 (27日)
 懇話会 (29日)「坂口安吾桐生引越し記念日」

◎ 3 月

囲碁部 (2日)「春季囲碁大会」
 歩く会 (10日)「春一番に咲く花マンサクの

仙人ヶ岳、犬返しの尾根へ」
 理事会 (12日)
 桐生倶楽部はぐるま句会 (25日)
 月次会 (26日)「インターネットを楽しもう」

退社社員

(敬称略)

飯田 隆 雄 小 野 勝 行
 成 瀬 正 男 西 場 和 男

文化活動委員会 全体会議

文化活動委員会（委員長金谷善介、副委員長藤江敏雄）の全体会議が、2月19日午後6時から開かれ、新年度の各部会の行事予定と予算が協議された。なお、恒例の桐生倶楽部文化祭は5月10日(金)から12日(日)までと決定。ガーデンパーティーは12日の午後になった。

委員会構成

平成8年度

委員会名	担当理事	委員長	副委員長	委員
行 事	野 田 五十嵐 赤 石	森	山 口	尾沢、川口、岸(稔) 栗原、小堀、高橋(貞) 田島(英)、高永、中里 蛭間(利)、福島、森口 八木橋、坂本、 北川(洋)、米田、 阿部(光)、宮地(秀)、 池田、片柳、樋口、 宮地(由)、牛腸、蓮、 笠原、河内、園田(徳) 岡部(信)、坪井(良)、 小林(康)、 佐々木(裕)、 田村(忠)、出口、 水越、高松、須永
文化活動	岸 木 村	金谷(善)	藤江(敏)	
会 報	小 池	小 池	木 村	坪野(恵)・吉成
営 繕	木 島	清 水	佐 藤	宮地(秀)・保倉
総 務	小 池	飯 山	岸 田	

文化活動委員会内趣味の部会

部 会 名	部 会 長	副部会長	担 当 理 事
美 術 部 会	保 倉	須 賀	佐藤(富)・岸(芳)
懇 話 会	藤井(龍)	山 鹿	木島・赤石
俳 句 部 会	久保田(裕)	本 田	清水(信)・森(寿)
麻雀部会	蓮 沼	吉 野	藤江(敏)・岸田・岸(芳)
囲碁部会	野 田	吉 成	小池・野田
ゴルフ部会	片 柳	森 田	五十嵐(健)・関口
将棋部会	平野(平)	野 田	飯山(清)・野田
歩 く 会	木 島	藤井(龍)	小池・木島
ビデオ部会	金井(利)	五十嵐(健)	金谷(善)・五十嵐(健)
写 真 部 会	森 口	武 井	木村(隆)・塚越(平)
音楽鑑賞部会	小 堀	藤井(龍)	矢野・山口(正)・木島
21 委 員 会	赤 石	塚越(紀)	山口(正)



写真部会の近況

昨年4月末、乗鞍高原に撮影旅行に行きました。純白の乗鞍岳を背景に、水芭蕉の群落、白樺林の新緑、スモモの花、とあまりの美しさに我を忘れてシャッターを切りました。帰路、野麦峠と旧中仙道の奈良井宿に立ち寄り、名物の手打そばを味わい、信州の旅を満喫しました。

桐生倶楽部文化祭では写真展が盛大に行われましたが、桐生倶楽部以外でも社員の皆さんが大活躍をして居りますので、お知らせします。

- 第47回桐生市文化祭 (敬称略)
- 桐生市文化協会賞 深秋 武井正充
- 桐生写真連盟賞 秋色 蛭間利雄
- 第36回桐生地区勤労者美術展
- 群馬県桐生商工労働事務所長賞 新井友次
- 平成7年度桐生織物協同組合文化作品展
- 写真入選 枯 木 新井友次
- 写真佳作 ハクサンイチゲ 江原 毅
- 秋 色 齊藤守弘
- 早 春 武井正充
- 手工芸入選 壁 掛 け 須藤正夫

以上の皆さんです。今年も昨年以上の大活躍が期待されて居ります。今年から撮影会はお天気や色々な都合が有るので、小人数でも参加出来る人だけで随時行って居ります。1月は北軽井沢炎の祭典、2月は足利節分祭武者行列等です。

桐生倶楽部玄関ロビーの写真は季節ごとに変えて居ります。社員の方で四ツ切り写真お持ちの方は事務局までご連絡下さい。飾らせて戴きます。(写真部会長 森口二郎)



北 軽 井 沢 “ 炎 の 祭 典 ”
平成 8 年 1 月 15 日

【歩く会】

2月例会

三浦三崎の磯歩き

快晴の東京から白銀に輝く富士を、首都高から右に左に眺められる絶好の旅行日和である。バスは順調に横横道路の終点佐原インターで下り、予定時間より早めに毘沙門天入口から歩き出す。周囲は一面の三浦大根の畠が続き、穫入れの農夫の姿も見える。坂を下り、藪樺の奥に暗くひっそりとした毘沙門堂を見送る。一月なら七福神めぐりで賑わう所である。やがて磯の香りが濃くなって、岩と砂の海岸へ飛び出す。海草類に交ってゴミも打上げられ決して綺麗とは言えない。おだやかな海風は、南のやや強い日射しに心地よく、ハイキングには最適の日であろう。地図に遊歩道とあったので、コンクリートで固めた不粋な道を想像していたが、岩を歩き易く削った程度の、自然があまり損われていないのがよい。絶壁の下の毘沙門洞窟遺跡の古代に人の住んでいた岩蔭遺跡も覗く。岩の道は、小さな入江深く廻り込む。数軒の家があり、僅かな漁船が岸壁に繋がれている。湾の名は毘沙門湾、部落の名は八浦というらしい。毘沙門茶屋と看板の立つ休憩所もあるが、ゆっくりお茶を飲む時間の余裕はない。再び岩礁の海緑りの道に入る。歩きにくい道なので、すぐ列は長くなり、後方と距離が空く。立止まり、沖行く船を眺めたり、高く打上げる波を狙ってカメラを向けたりと、時間調整もする。変化に富んだ海岸の風景には、「盗人待」・「おっこし」など変わった名もついている。岩峰の観音山という小岬の裾を廻り宮川湾に出る。ここで磯歩きも終り。宮川の家の間を通り、坂を登れば広い道に廻送のバスが待っていてくれる。

お昼に丁度よい時間、三崎漁港の街に入り、食事の店を探すが、さすが名物のまぐろを食べさせる寿司屋は皆混んでいる。仕方なく何人かずつ別れて食事をする事になった。後でバスに戻って聞くと、それぞれまぐろに満足の様子であった。

この後、城ヶ島の白秋の詩碑を訪れ、観音崎燈台のきつい山登りの往復をし、走水神社に弟橘媛の故事を偲び、往路と同じ道を帰路も辿る。連休の一日目のためか、日曜日なのに車は渋滞して帰着は遅くなる。夕日を湧びて赤く染まる富士まで眺められ、好天に恵まれた楽しい一日であった。

藤井龍人

月次会報告

【3月】

「インターネットを楽しもう」

講師 桐生広域インターネット協議会
黒沢 誠、塩崎泰雄
森島愛一郎、坪井良廣

インターネットは、今やあらゆる場面で目に耳にしない日はないといわれる。3月の月次会は26日18時より、講師に桐生広域インターネット協議会の皆さんをお迎えし、大画面のプロジェクターを会場に設置し、説明をしていただいた。

「インターネットとは何ぞや」を実に判りやすく、ユーモアをまじえながら要領よく話をしていただき、初心者にも納得の行くものであった。

画面には、桐生市内のあちこちの紹介、(これが世界中の人に見てもらえる)、首相官邸、海外の現時点のまちの動き等々、次々にうつし出される。会場から「次は〇〇を一」という注文も多く、時の経つのも忘れるほどであった。参会者も70名近い盛況。(当番理事 藤江、赤石)

**三浦三崎の磯歩き**

走水神社

掛井五郎先生より版画の寄贈

掛井五郎先生（日本を代表する彫刻家の一人）が、昨夏4年間住んだ桐生を離れるに当り、版画（枯木にバケツの図柄）を桐生倶楽部に寄贈された。画は常時別館の壁面に飾られている。画の裏面には下記のように書かれている。

枯木にバケツ
（タルコフスキーに捧ぐ）

1995年夏 桐生にて

桐生クラブ会員皆様に感謝をこめて

※ タルコフスキー（映画監督）の映画のラストシーン、父親が子供に毎日枯れ木にバケツ一杯の水を注ぐように命じる。その行為を掛井先生は「いつかはその枯れ木が生き返るかも知れない。その奇蹟を信じて努力するのが人間の希望」と語ったことがある。桐生のすばらしい自然環境を守って欲しいという先生の願いであろう。

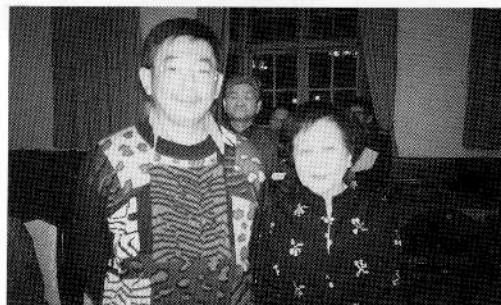
安吾引越し記念日

懇話会、21委員会共催

坂口安吾は桐生を終焉の地とした作家だが、桐生の書上文左衛門邸へ居を移したのは44年前のうるう日、その日を「安吾引越し記念日」として、2月29日夜、桐生倶楽部で集まりが持たれた。主催奈良彰一さん、桐生倶楽部懇話会、21委員会が共催した。

安吾は当時桐生倶楽部理事であった南川潤の縁で桐生へ引越し、倶楽部理事長の境野武夫とも深い交友があり、倶楽部とは何彼と関係が深い。

当日は安吾の長男綱男さん（写真家）も来桐、1才8ヶ月まで桐生に住んだ間、小児科医師として面倒をみた疋田静江先生と40年ぶりで対面、昔を語り合った。



坂口綱男さんと疋田先生

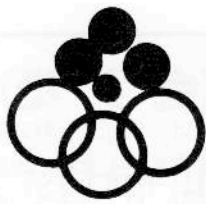
営繕委員会報告

美術部会の協力を得て、会館内の絵画の修理、額縁の交換をした。

大沢木工の協力をいただき各部屋の出入口、ドアの開閉不良箇所などが沢山あったのを修理中。

過疎論予 帰路の街角虎落笛	大空を鳥一羽たち山眠る	湯豆腐も小鍋に残す老夫婦	湯豆腐の肩をゆすりし白さかな	みちのくの本間屋敷や初蔵	猪囲に温もり残し冬の峡	山眠る五百羅漢は皆男	夕映えて寝釈迦の如き山眠る	大文字抱きて六峰眠りけり	桐生倶楽部はぐるま句会（十二月）
森	清水	下山	大槻	小池	倉林	久保田	尾沢	本田	
大寒や身を打つ風の母の墓	屋台小屋火鉢かかえて飾り売り	東の間の優雅味わう初句会	初春や鄙に残れる機の音	上州の雪なき寒さ達磨市	松飾り取れて洪滞戻りけり	初釜や花びら餅のほの紅く	老兵の生きる証と初句会	寒紅を引きて老妓の背をのぼし	桐生倶楽部はぐるま句会（一月）
下山	清水	大槻	倉林	山田	尾沢	小池	本田	久保田	
嬰子の泣声はげし春の朝	庭先の梅開かむと天を指し	山なみに富士抜きん出る春野かな	母に手をひかれし園児鬼の面	都鳥番となりて春の海	敷抜けてふと日溜りの梅に遇う	折れ曲がる道に梅の香濃く淡く	短冊に恋の詩あり梅の紅	海神興女もまじる島の春	桐生倶楽部はぐるま句会（二月）
清水	下山	大槻	山田	尾沢	倉林	小池	本田	久保田	

社団法人 桐生倶楽部会報 第92号
 1996年（平成8年）4月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 小池久雄
 印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑦

川村佐助の吾唯足知

建設が進む市民文化会館の威容を前にして、もはや産文会館のにおいては消えかけているが、昭和30年代初頭という貧しい時代を背景に官民が一丸となって完成にこぎつけた夢の公会堂は、これこそ市民文化の名にふさわしい施設だったことを私たちは忘れてはなるまいと思う。何かといえば行政に頼りがちな昨今の傾向からみると、それはある意味で奇跡のようなできごとだったが、明治大正期の社会事業に特筆すべき功績を残した桐生懇話会の存在のように、公共施設の充実に力を注ぐ人々のところは、戦後もこの地に脈々と引き継がれていたのだ。その中心的役割を果たしてきたのが糸商として名を馳せた川村佐助である。

初の公選市長前原一治の公会堂建設計画が財政難で暗礁に乗り上げていた昭和31年、川村は市の担当者を自宅に呼んでこう言った。「建設資金の寄付に協力したいと思うのだが、私が寄付することでやらざるを得なくなり、市長がかえって苦しい立場に追い込まれることはないだろうか」。川村の人柄がしのばれる逸話である。このとき寄付した金額は1000万円、産文の建設資金にはこのうちの半分が回され、残りは奨学資金と福祉に生かされることになったが、川村の寄付が弾みとなっ

て一大プロジェクトは発進、夢は見事に実を結んだのである。物事にはタイミングというものがあることを、彼は常に心得ていた。

明治31年、岐阜県郡上八幡生まれ。貧しい家庭ながら、信仰心厚い両親に育てられたことが、その後の彼の人生で貫かれてきた人への思いやりに生きている。高等小学校を一年で中退し、京都へ奉公へ出た。苦勞に苦勞を重ね、働き詰めて、ついに主人に認められ川村商店の跡を継ぐことになるその生きざまは一編の小説に値するが、これはまだプロローグだ。やがて桐生に支店を開設、後に独立して、東京・大阪で糸の大相場を張る。だが、そうした軌跡を振り返っても「すべて運」とさりげなく、座右の銘の「吾唯足知」を、得た財の社会還元で黙々と実践し続けたのである。

昭和43年に前原一治理事長が逝去し、社員総会は川村を推したが、これを固辞する川村の説得が難航したことを『桐生倶楽部五十年史』がつづっている。桐生市では6人目の名誉市民、同様の篤行を重ねていた岐阜の郷里では名誉町民にもなった。昭和63年に死去、葬儀は市民葬となり、会場の産文には千三百人が参列した。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎ 4 月

- 写真部会 (3日)
- 営繕委員会 (4日)
- 理事会 (11日)
- 歩く会 (14日)

「JRに乗って桜満開の大平山へ」

- 行事委員会 (15日)
- 21委員会 (16日)
- 月次会 (19日) 「市政よもやま話」
講師 桐生市秋山助役
- 将棋部会 (20日) 文化祭協賛将棋大会
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (26日)

- 囲碁部会 (27日) 文化祭協賛囲碁大会
- 歩く会世話人会 (30日)

◎ 5 月

- 麻雀部会 (8日) 文化祭協賛麻雀大会
- ゴルフ部会 (10日) 文化祭協賛ゴルフ大会
- 文化祭 (10日～12日)
- ガーデンパーティ (12日)
- 理事会 (14日)
- 21委員会 (16日)
- 歩く会 (19日)

「新緑の小中大滝から賽の河原」

- 桐生倶楽部はぐるま句会 (27日)

第22回桐俱社員文化祭

桐生倶楽部恒例の社員文化祭が、今年も新緑の5月10日(金)から12日(日)まで開催された。絵画、写真、陶器、俳句色紙などあわせて約70点が展示された。各種競技会は、これに先立って4月20日の将棋大会を皮切りに実施、12日のガーデンパーティーの席上、入賞者の発表、賞品の授与が行われた。

今年のガーデンパーティーのアトラクションは社員大川仁さんのご子息大川公一さん(プロの歌手)の出演で、大好評であった。

文化祭協賛行事及催物一覧

将棋大会	4月20日 PM 5:00~	於 6号室	
俳句会	4月26日 PM 7:00~	於 2号室	
囲碁大会	4月27日 AM10:00~	於 6号室	
麻雀大会	5月8日 PM 6:00~	於くすのき	仲町3-7-18
ゴルフ大会	5月10日 AM 8:30~	於桐生CC	
歩く会	5月19日 AM 6:00~	倶楽部集合	新緑の中小大規模な集まり
絵画展	5月10日~5月12日 AM10:00~PM 5:00	於 広間	
写真展	5月10日~5月12日 AM10:00~PM 5:00	於 広間	
陶器展	5月10日~5月12日 AM10:00~PM 5:00	於 広間	
俳句色紙展	5月10日~5月12日 AM10:00~PM 5:00	於 広間	
ガーデンパーティー	5月12日 PM 4:00~	於 庭園	

文化祭協賛各部大会入賞者

将棋大会 (4/20)

- A組優勝 出口孝二郎 参加賞 平野平四郎
 B組優勝 野田友治郎 〳 三田 章
 参加賞 木村 俊一 〳 岡田 光弘

囲碁大会 (4/27)

- 優勝 金谷 利男 2位 倉林 俊雄
 準優勝 吉成 敏郎 3位 野田友治郎
 1位 福永 儀一

麻雀大会 (5/8)

- 優勝 蓮 直孝 第6位 丸山 正一
 準優勝 岸 芳正 第7位 岩田 俊光
 第3位 蓮沼 源一 第8位 遠藤 俊一
 第4位 吉野雅比古 第9位 亀田 和夫
 第5位 川口 幸一

ゴルフ大会 (5/10)

- 優勝 片柳 康宏 8位 金谷好之助
 準優勝 吉田 博茂 9位 倉林 俊雄
 3位 福田 博重 10位 金子 薫
 4位 五十嵐健雄 BB 竹内 晴夫
 5位 朝倉 泰 12位 関口 全之
 6位 吉田 博次 ベストグロス賞 福田博重
 7位 福田 英雄 グロス80

写真展入賞者(人気投票)

- 1位「百武彗星」蛭間利雄 8位「鯉のぼり」須藤正夫
 2位「朝」 五十嵐健雄 9位「髪飾り」 尾沢弘一
 3位「年輪」 森口二郎 10位「三浦海岸」後藤久夫
 4位「落日」 武井正充 11位「鳴神山頂」川島忠昭
 5位「秋色」 江原 毅 12位「送り火」 藤井龍人
 6位「早朝の食卓」茂木 浩 13位「晩秋」 江原 満
 7位「炎に祈る」新井友次



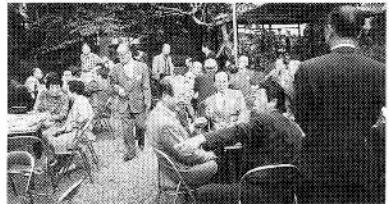
展示作品



展示作品



授賞式



ガーデンパーティー



アトラクション

〔歩く会〕 4月例会

春の叙勲

花の太平山と

蔵の街の人形山車

曾我 悟

おがひらさん

歩く会の4月例会は、桜満開の太平山から蔵の街栃木へ。予想より少い一行8人、7時12分JR電車で桐生を出発、和やかに話が弾む中、40分で葡萄畑広がる大平下駅に着く。春爛漫の野道を歩くこと15分、深い静かな林に入ると太平山への登りの小径だ。ひっそりと咲くすみれを賞でたり、新芽のあまりの美しさに難しい逆光の芸術写真に挑戦する人も。

一汗かく頃には、戦国の昔上杉謙信が関東平野を展望したという謙信平に着いた。雲海が広がるときは、眼下に点在する丘や林が浮ぶ小島のように映るところから、「陸の松島」といわれるそうだが、今日は雲一つない青空だ。慈覚大師創建の太平山神社に桐生の繁栄をお祈りした後、山の反対側栃木方面を眺望する見晴台の茶屋で小休止、名物の太平だんごを仲よく分け合って食べる。ここから麓まで連なる桜並木は丁度満開、山の西側の静けさとは対照的に人も最高、桜見物の車の渋滞が延々と続く。

栃木の街に入り、例幣使街道沿い岡田記念館近くの「あぶ伝」で田楽の中食を味わう。小池副理事長のご本家ということで、ご主人が工場から母屋まで親切にご案内下さった。広い敷地に連なる古い土蔵内で熟成されている大きな味噌樽、歴史の重みを感じさせるゆかしい茶室や多くの文化財を拝見して、名残りを惜しみつつ辞した。

中心街を歩いて昨年建設されたばかりの近代的な山車会館を訪れる。江戸・明治時代の職人達の技が結集された人形山車6台を、組み立てたまま格納保存すると共に、うち3台を常設展示している。山車が繰り出す「とちぎ秋まつり」は5年に一度しか開催されないのが、ジャンボスクリーンに光と音の演出でまつりを再現し、そこに見事な彫刻と金糸銀糸の刺繍をほどこした本物の華麗な人形山車を浮び上らせて、まつりの興奮を常時楽しめるようにする趣向のようだ。今展示されてい

勲四等瑞宝章 曾我 悟さん
(財務行政事務功勞)

平成8年春の叙勲の受章者が、4月29日付で発表になり、当倶楽部の関係では曾我悟社員が榮譽に輝いた。

曾我さんは昭和26年に大蔵省入省、財務行政その他に貢献、本省理財局資金管理課長を最後に退官、昭和57年、桐生中央信金理事長に、三金庫合併後は新生桐信の副理事長として体制強化につとめ、昨年4月、きりしん総合研究所長に就任。

るのは最も古い「静御前」と「神武天皇」、「桃太郎」で、4ヶ月ごとに入れ替えられる。今年は11月15日から3日間、5年ぶりのまつりが開催されるので、賑わいそうだ。

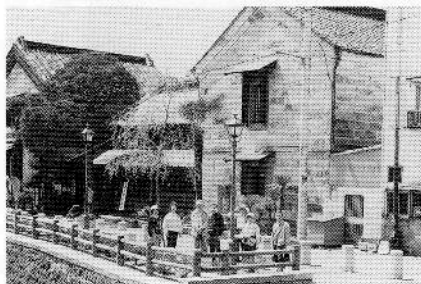
巴波川沿いの蔵の街を散策、新緑の柳の下、婦人を乗せて走る人力車など眺めながら帰途につき、再びJR電車で桐生帰着午後3時。本当に楽しい最高の日でした。



満開の桜



花より名物団子



横山郷土館

月次会報告

【4月】

丘陵地開発には 地域の理解必要

講師 桐生市 秋山 衛 助 役

4月の月次会は19日(金)開催、私山衛桐生市助役に「市政よもやま話」と題して、桐生市の現状や課題などについて話をしていただいた。

いま話題になっている丘陵地開発については「開発の可能性がある場所が5カ所ほどあるが、現在はこの可能性について突っ込んで研究をしているところ。一カ所一カ所、地域のみなさんと話をして理解が得られればやるし、得られなければやらないというスタンスです」と述べた。

また、今年度からスタートした行政改革については、「できれば市民サービスの低下をきたさない配慮をしながら出張所も廃止していこうと思っています」とのこと。

8年度予算編成時に一率10%カットした各種団体への補助金については、「補助金をカットできない団体もあるが、力のある人が集まった場合、そこに補助金が欲しいというのはおかしい。みなさんに怒られたが、新しい行政需要にこたえていなくてはならないという面もある」と、理解をもとめた。

来年オープン予定の市民文化会館についても、「完成したら一軒一軒に呼びかけて、来てもらうようにしていかなければならないと思う」と。市民を招待してお披露目の考えがあることも発表。このほか、地方分権、市財政、広域圏行政などについての考え方など率直に述べていただいた。



秋山 助 役

日野 貞夫 さん

名誉社員に

5月14日の理事会で、社員日野貞夫さんが名誉社員に推薦された。日野貞夫さんは、(株)三ツ葉電機製作所代表取締役会長、群馬県経営者協会会長、県生産性本部会長、その他財界関係の要職は数知れない。特に桐生商工会議所会頭を長くつとめられ、桐生の経済界の名実ともにリーダーである。明治41年生れの88才だが、かくしゃくとして衰えを見せない。

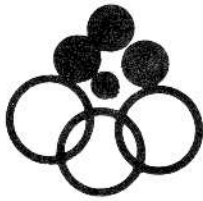
桐生倶楽部定款第13条に、「名誉社員は学識名望あるもの若しくは本倶楽部の為特に尽力せられたるものより、理事会に於てこれを推薦す」とある。

名誉社員には現在、前理事長平野元吉さんがおられるので、日野さんで名誉社員が2人になる。なお、日野貞夫さんは昭和26年2月の入社なので、当倶楽部の社員歴も45年の長きにわたる。



日刺焼く匂い残りし寡婦の家	風にのるとなりも同じ日刺焼く	パン屑を鳥の餌台へ青き踏み	春めきて素焼におどるうわぐすり	菜の花の土手にも零れ瀬戸の島	つれづれの花の蕾の社まで	春めきて予定の埋まる野良ごよみ	青き踏み遺跡のしるべ新らしく	一望の根本鳴神青き踏み	桐生倶楽部はぐるま句会(三月)
森	清水	大槻	下山	倉林	遠藤	本田	久保田	小池	
鞆に遠山蹴られ近く見ゆ	蝶浮いて沈んで浮いて垣越しぬ	肩書の取れし今年の花見かな	古館庭の花にも遅速かな	落花霏々無名戦士の碑の佇てる	ふらごこに合せ親の瞳揺るかな	齢古りて無為の春日をひとおしむ	ひとことも羅漢語らず花の雲	久保田	桐生倶楽部はぐるま句会(四月)
清水	倉林	尾沢	小池	本田	大槻	下山	久保田		

社団法人 桐生倶楽部会報 第93号
 1996年(平成8年) 6月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 小池久雄
 印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑧

金子竹太郎と桐生織物

桐生に電話が開通したのは明治40年のことである。これは一重に森宗作、書上文左衛門らが展開した架設運動の成果だが、スタート時の加入者は80人で、その番号をみていくと1番が森宗作、2番常見喜太郎、3番大沢福太郎、4番書上文左衛門、5番郵便局（新井安造）となっていて、6番に金子竹太郎、7番に前原悠一郎が名を連ねている。

いづれも土地の資産家、あるいは桐生倶楽部創設にかかわりの深い有力者たちだが、なかでも金子竹太郎と前原悠一郎については、次代の桐生を担う若き指導者として、当時の森宗作らが大きな期待を寄せていた人物だった。

桐生倶楽部の初代理事長をつとめた金子竹太郎は、明治7年6月、桐生新町四丁目の旧家金子吉右衛門の長男として生まれた。文学博士の黒川真頼は竹太郎の祖父にあたる。

東京工業学校当時から秀才として知られ、郷里に戻った29年には、設立されたばかりの桐生織物学校の首席訓導に迎えられた。その在職は12年間だが、事実上の校長として織都桐生の指導者育成に手腕をふるったことで知られている。さらには、

前原悠一郎、岩下竜太郎とともに『桐生之工業』を発刊。また、国の命を受けてヨーロッパやアジアの絹織物視察にも赴くなど、活躍の舞台は広く、その才能を求める声は教育界にとどまらなかった。

明治40年、尚毛整織株式会社が発立されると同時に専務代表社員におされ、教職を退いて実業界に入った。まもなく社長に就任すると、ジョーゼットなどの新しい整織を創始し、業務の拡大に功績をあげる。戦時中の統制経済、敗戦の打撃もたたかい、残る生涯を地元桐生の織物の復興に注いで、昭和31年3月28日、81歳で亡くなった。東京の病院で最期を迎えた竹太郎は、織物への思いをつのらせて、「郷里の機音聞かて旅路かな」という辞世の句をよんでいる。

その10日後、東久方の茂木米吉宅で「金子竹太郎を偲ぶ集い」が催された。当日の出席者は、前原悠一郎、斎藤長平、木村貞一、森山芳平、前原一治、書上文左衛門、長沢義雄、茂木米吉、森田精一、八木昌平、中曾根都太郎、牧島要一の12人であり、各界を代表するそうそうたる顔触れであったという。翌日の4月8日、浄蓮寺で告別式が行われた。春の雪が、足元を濡らした。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎6月

理事会 (10日)
21委員会 (10日)
月次会 (19日) ロビーコンサート
歩く会 (23日)「花苜蓿と水郷の古い街並佐原」
桐生倶楽部はぐるま句会 (26日)

◎7月

歩く会世話人会 (5日)
理事会 (8日)
21委員会 (15日)
月次会 (26日)「最新カナダ見聞録」
講師 矢野昭・塚越平人社員
歩く会 (28日)「梅雨明け夏の尾瀬ヶ原ハイク」
桐生倶楽部はぐるま句会 (29日)

月次会報告 【6月】

中村兼吉さん県表彰

社員中村兼吉さんは、さる5月3日に群馬県総合表彰を受賞しました。中村さんは群馬県職域防犯協力会連合会長としてのご功績が評価されたもの。社員一同心からお祝い申し上げます。

桐生倶楽部にピアノが入り、第1回桐生倶楽部ロビーコンサートが開かれる。

このたび、社員須永恒雄さん（音楽鑑賞部会）のご好意により、須永さん愛用のピアノが桐生倶楽部に寄贈されました。ピアノは前々から倶楽部として是非欲しいものと思っておりましたので、大変有難いことでした。早速ロビーに設置いたしました。

ついでには、6月の月次会は音楽鑑賞部会の設営で、ピアノのご披露を兼ねた記念演奏会と致しました。

6月19日(水)午後6時から、ロビーに多数の社員、家族が集まり、演奏に先立って、塚越理事長より須永恒雄さんに感謝状を贈呈。

コンサートは、ピアノの須永由紀子さん、フルートの向田寧子さん、テノールの小室圭吾さんの3人。ともに桐生広域圏を中心に巾広く音楽活動を続けている方々です。

フルートの独奏はノブローのメロデーなど3曲、ピアノはショパンのワルツなど3曲、休憩をはさんでテノールはイタリー民謡の数々、その間に共演もありバラエティー豊かな楽しい演奏会でした。

休憩時間には、ベランダでワインの接待、食事は一号室でミスティのサンドイッチ。

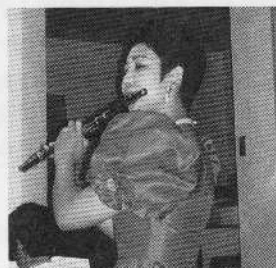
閉会に当り、当番理事から今後、この演奏会をロビーコンサートと名付け、四季に1回宛は開催するようにしたいと話があり、会場から賛同の拍手が湧きました。（当番理事 木島・岸）



理事長より須永さんに感謝状の贈呈



ピアノの
須永由紀子さん



フルートの
向田寧子さん



テノールの小室圭吾さん



3人揃って共演



休憩時間は
ベランダでワイン

【歩く会】

6月例会

花菖蒲と水郷の古い街並み佐原

6月といえばあやめ、そのあやめの里水郷へ。ほぼ満席の参加者31名を乗せたマイクロバスは、まだ明けきらない5時30分倶楽部を出発、約40分で佐野藤岡インターで高速道に乗る。万緑の関東平野が美しい。川口JCTから首都高速川口線に入る。朝靄の中をゆったりと流れる荒川を右手に見ながら東京湾岸に達し、湾岸線から東関東自動車道へと進む(途中通過、デイズニerland分岐7時18分、成田IC7時55分)。高速道の終点潮来ICに8時30分に着き、そのまま水郷の風情を楽しみながら、まず佐原水生植物園へ。梅雨の最中ではあったが、時に薄陽もさす絶好の日和に恵まれ、350種類、150万本といわれる花菖蒲、あやめの咲き乱れる水辺を、たっぷり時間をかけて楽しんだ。園内には水郷らしい水草に囲まれた池があり、岸辺の柳や、客を乗せ音もなく行くサッパ舟が風情を添えていた。売店で本場の花菖蒲の株を買った人もいた。

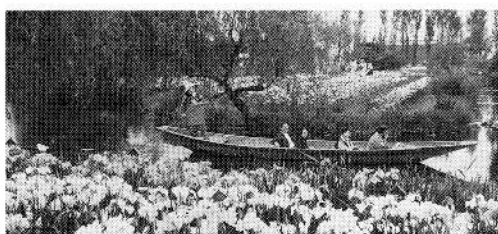
そこを出て30分程で、創祀が神武天皇18年といわれる香取神宮へ。祭神は経津主大神で、樓門、本殿は元禄時代、將軍綱吉の造営によるもので、共に国重文。御神木の杉は樹齢1000年といわれる大木で、社殿を囲む原生林もすばらしい。参拝をすませ、そこからほど近い八坂神社境内にある佐原山車会館に着いたのが11時30分。そろそろ昼時でもあったので、そこで一時解散し、各自自由に館内を見た後、佐原の古い街並を探訪、昼食をとって2時に集合ということになった。佐原には山車が24基あるが、会館にはそのうちの2基と古い神輿が展示されていた。祭のビデオも見られ、桐生の銚や屋台も、このように展示されると良いなと思った。街並探訪の途中で、筆者はかねてから噂にきいていた伊能忠敬記念館を訪れた。彼は江戸時代に詳細な日本地図を作成している。彼の作った地図と現代の地図の比較図があったが、その詳細さと精度に、ただただ驚嘆。能登半島先端と静岡県御前崎の間の誤差が、わずか16mとのこと。これは換算してみると100mで4.7mmに相当する。最後に昔の街並や農家を再現した県立房総のむらを見学し、4時に帰途についた。

帰りは国道356、354号と地方道をうまく選んで加須ICから高速に乗り、予定通り8時に無事倶楽部に帰着した。天候にも恵まれ、充実した楽しい旅でした。世話役の皆さん有難うございました。

(倉林俊雄)



水生植物園入口にて



園内の池を行くサッパ舟

【歩く会】

5月例会

新緑の寝釈迦から賽の河原へ

歩く会5月例会は文化祭協賛行事の一つとして、5月19日(日)足尾山地架婆丸山登山口の寝釈迦と賽の河原までのハイキングを実施した。参加者21名。



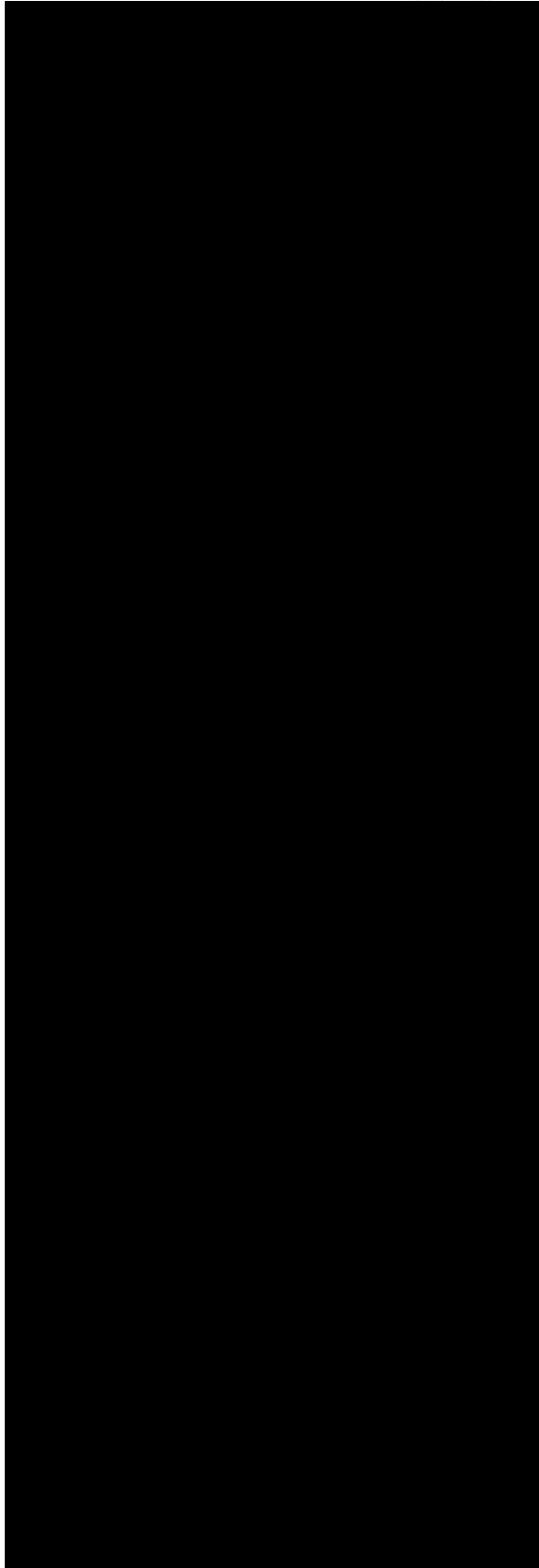
寝釈迦



賽ノ河原

◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆

(敬称略)



敬 啓
[Redacted text]

21 委員会 6 月例会
埼群軌道新線建設計画

講 師 曾 我 悟 氏

(きりしん総合研究所 所長)

6月10日(月) 6時半から、1号室で21委員会の例会を開いた。講師の曾我悟氏は、「首都に最も近い経済圏実現の方途を探る」と題して、桐生タイムス紙上に連載を続けておられる。その方法として「埼群軌道新線」計画を、綿密な調査を経て、実現可能なものとして提唱される。これは桐生の将来像に大きく関係することであり、当日の参会者15名は熱心にきき入り、質問も多く実のある例会となった。(委員長 赤石)

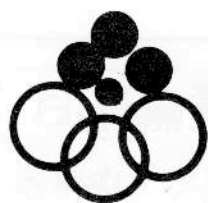
桐生倶楽部はぐるま旬会
丹精は棧敷に届く藤の花
草笛やわが青春の藤村詩
山藤やしずかに昏るる雲の彩(いろ)
城めぐる草笛の声道すれに
高空に光る音あり鯉幟
谷川をつらねてあわし藤の花
草笛に寄り道宿題幼き日
山藤のひっそりと咲く地藏堂

大 下 清 尾 久 本 小 倉
規 山 水 沢 保 田 池 林
五 月

桐生倶楽部はぐるま旬会
呼吸吸気万緑の中確かなる
青春を書棚に残し徽の本
神在す万緑の杜幣白く
万緑や觀光馬車の女客
万緑や大地に戻す葬の列
遠くても近くてもよし時鳥
牛鳴くを合図に暮るる植田かな
微臭き部屋の主が笑いたり

大 倉 清 尾 本 小
規 林 水 沢 田 池
六 月

社団法人 桐生倶楽部会報 第94号
1996年(平成8年) 8月発行
発行人 塚 越 平 人
編集責任者 小 池 久 雄
印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑩

青木専治の国際感覚

しゃれた北欧風の洋館として大正8年に完成した桐生倶楽部の会館だが、使い始めてからしばらくの間は、利用者は靴をぬいで、建物に入っていたという。食事も洋食、調度品も洋風にまとめたが、日本人の生活様式からみて、土足を禁じたのは仕方のないことだ。現在でも、初めてここを訪れる人は、はたして土足であがっていいものかどうかと、一瞬戸惑うはずである。

斎藤長平理事長時代（大正15年9月～昭和25年10月）を前後期の二つに分けると、前期の理事長の両腕となったのが、常務理事の大川英三と青木専治である。当時斎藤は三十代、大川と青木はさらに若かった。関東大震災の折、朝鮮人の虐殺事件があった。この惨劇の報に心痛めた三人が「われらはその罪を謝罪すべきである」と主張し、基金を設け、会員に呼びかけたという。迅速で情熱的な行動がいまに伝えられている。

「桐生の文化を指導するものは桐生倶楽部である」という気概にあふれ、一切の新しい試みは倶楽部からという意欲に燃えた。御大典記念行事として『桐生郷土史』を出版したほか、桐生高等工業学校にやってくるアジアの留学生を卒業前夜に倶楽部に招いて晩餐会を行ったのも、斎藤理事長時代の特徴ある国際親善である。そのときの理事

長のあいさつは「私たちは同色のアジア人だ。帰国されてからも、日本を忘れず桐生を忘れず大いに共に手を握ってやっていきたい」というものであったという。

こうした斎藤理事長の国際感覚を陰で支えていたのが、青木だった。洋館にはそれにふさわしい使い方があった。靴をぬいであがるテはないと最初に指摘したのは、彼が外遊から帰ってきたばかりのころである。「欧州視察で培われた豊富な知識が品性を高め、その当時の桐生においてインテリの標本のような人だった」という青木評が残っている。

織都桐生の近代に、異彩を放つ共同経営のマニファクチャーがある。キリスト教の博愛から「成愛社」と命名されたこの会社は、ギリシア正教の信奉者であった青木保蔵ら一族六人が明治13年に上久方村に設立した。社歴わずか12年で解散したが、社長の保蔵は羽二重生産を継続し、これを長男の喜一郎に引き継いだ。しかし喜一郎が早世したため、その後を継ぐ形で地元織物業界に転身したのが弟の専治である。彼は終生敬虔なキリスト教徒だった。桐生組合教会の最高幹部であり、実業家として両毛整織の重役も務めた。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎ 8 月

21委員会（7日）

理事会（12日）

桐生倶楽部はぐるま句会（28日）

◎ 9 月

月次会（8日）歩く会担当「北信濃の味覚と美術を尋ねる松代・小布施・須坂の旅」

理事会（10日）

会報委員会（17日）

桐生倶楽部はぐるま句会（27日）

月次会報告

【9月】

向田 進さん県表彰

北信濃の味覚と

美術をたずねる

松代・小布施・須坂の旅

9月の「歩く会」は、月次会を担当するという
ことで、北信濃の文化探訪を計画、大型バスを用
意していたが、参加者実数30名と、もったいない
程少く、お蔭で座席は楽々の旅ではあった。

5時50分、予定より10分早く全員揃ったので出
発、上信越道を利用し、途中、横川S.A.と千曲
川レストハウスの2ヶ所で小憩、松代に着いたの
は30分程早かった。松代では、バスを駐車したす
ぐ前の真田宝物館より拝観、真田家十代の甲冑・
武具や調度品・書画・古文書などやや足早やに見
る、次は裏手の真田別邸へ、城外のこのような建
物は珍しいとのこと、「心」の字を型どった池を
巡る廻遊式庭園は、京都の公郷の庭園を摸したと
のこと、薄が穂を出しすっかり秋である。真田邸
の白壁の塀に沿って隣の文武学校へ行く。柔剣道
・弓術の武道を始め蘭学などの学問にも力を入
れた教育施設の充実には、藩主の善政を見ることが出
来る。まだ時間が少しあるので象山神社まで足を
伸ばす。細い道のそこそこに古い町の面影を残し
ていた。

昼食は小布施で自由にとることになっているの
で、須坂の街を通過して小布施へ。街は相変わらず
込み合っており、1時間半とってあった時間も、
待たされた昼食でお土産を買うのも忙しかった。

最終目的の須坂へ引返し田中本家博物館へ。周
囲を土蔵に取囲まれた田中家は、二百年余前から
問屋として、この地方の穀物・煙草・繭などの産
物を取扱い財を成して今日に至っている。現在「
漆器展」が開催されており、膨大な量だけでなく
螺鈿や蒔絵を施した美術品もあり、この他の陶磁
器や民具・調度品に至るまで、貴重な民俗資料が
並び、江戸中期よりの上級の庶民の暮らしを知ること
が出来る。庭や旧住宅も立派であった。

時間も少しあり、天気も良いので、蔵の街を散
策する。笠鉾会館・須坂クラシック美術館の着物
やガラスなど丹念に見る余裕はなかったが、街お
こしに蔵を利用して文化施設にするなど整備が進
み大いに参考にする価値がある。

お天気に恵まれ、すべて予定の見学地を順調に
廻り、暗くなった7時40分桐生倶楽部に無事帰着。

藤井 龍人

社員向田進さんは、去る5月3日、税務功勞に
より群馬県総合表彰を受賞されました。向田さん
は関東信越税理士会群馬県支部連合会副会長を務
めるなど、永年税理士として巾広くご活躍され、
その功績が高く評価されたものです。

社員一同心からお祝い申し上げます。

(編集責任者の手落ちで、この記事が前号から洩
れたことお詫び申し上げます。)

北信濃探訪

【コース及時間】

桐生倶楽部 5.50'——高崎I.C. 6.40'——横川S.A.
7.15'～7.30'——千曲川レストハウス 8.45'～
8.55'——松代 9.30'～11.00'——小布施11.35'～
13.05'——須坂13.35'～15.05'——千曲川レスト
ハウス15.50'～16.00'——小諸I.C.17.05'——
横川S.A.17.40'～18.00'——桐生倶楽部19.40'



真田宝物館



田中家博物館



笠鉾会館

月次会報告 【7月】**最新カナダ見聞記**

講師 矢野 昭氏
講師 塚越平人氏

…カナダの空気は澄んでいた。空は真っ青。夜になると星が手の届くような位置に輝いているんです。降るような星とはこのような感じなんでしょうね——。

26日午後6時から二階ホールで開かれた7月月次会は、矢野さんからカナダ旅行の印象を拝聴しました。

連日の猛暑つづきで思考回路も狂いがちとあって、当月のテーマは難しいお話は遠慮して肩の凝らない例会に、ということで冷えた飲みものでノドを潤しながら標題拝聴となった次第です。

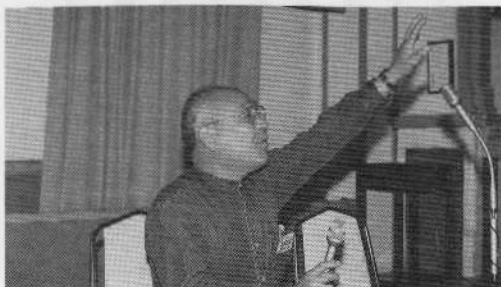
都市づくり、きびしい自然環境保護、福祉、文化から消費税まで各般に涉り、ふつうの観光旅行では体験できない、ひと味違った切り口でカナダの断面を紹介していただきました。

後半は、矢野さんと同道された「写真家、塚越平人理事長撮影の写真(全紙パネル)16枚が、臨場感を盛りあげ、座が和ごむにつれて「珍道中秘話」も披露されるなど、久しぶりに愉快的例会となりました。

参会50名。



矢野 講師



吉原さんからも話を聞く

【歩く会】 7月例会**高山植物の宝庫
尾瀬ヶ原ハイキング!!**

7月例会は尾瀬ヶ原。今までに第33回、106回は尾瀬沼。45回と147回は尾瀬ヶ原と行なはれましたが、尾瀬ヶ原はいづれも10月で花の季節ではありません。

今回は「ニッコウキスゲ満開の尾瀬ヶ原ハイキング」を計画しました。午前5時桐生倶楽部集合。

参加者9名、自家用車2台に分乗出発。戸倉着7時、今年より鳩待峠まで乗合タクシーがバス料金(1人750円)で乗れます。待たずに9人乗ワゴン車に乗り換え鳩待峠へ、身仕度をして、涼しいブナやミズナラの原生林を下ると山の鼻ビジターセンターに着く。8時30分には尾瀬ヶ原に歩き出しました。早朝なので人影も疎ら、大変爽やかで高山植物の観察や撮影に最適でした。

今年は残雪が多く夏の訪れが遅れていたのに、急に暑さが来たので6月と7月の花が一斉に咲き乱れ美しいお花畑が出現しました。

ワタスゲの白。ニッコウキスゲの黄。ヒオウギアヤメの紫、が混ざり合って咲き乱れ、新緑と紺碧の空、燧岳、至仏山の山々が素晴らしい光景を作り出しています。足元には可憐なヒメシヤクナゲ、タテヤマリンドウ、ツルコケモモ、トキソウ、アサヒラン、モウセンゴケ、キンコウカ、クロバナゲロウ、ミツガシワ、ヒツジグサ、等が見られます。尾瀬保護財団の山の鼻ビジターセンターが開設され、尾瀬の自然や動植物の展示や説明が行われています。隣りに立派な水洗トイレも出来ました。

今回は十分な時間と天候に恵まれ、尾瀬ヶ原と高山植物を存分に満喫する事が出来て嬉しい1日でした。予定通り4時30分帰桐。(森口記)



※写真裏面に続く

◆ 新 入 社 員 紹 介 ◆

(敬称略)



前ページより続く
尾瀬の写真



21委員会

市民文化会館について

矢村教育長に聞く

平成9年5月オープンを目指して、市民文化会館の建設が進められている。21委員会の7月例会は15日、市民文化会館館長の矢村晋一教育長をお招きして、開館後の運営や将来像について話をしていた。

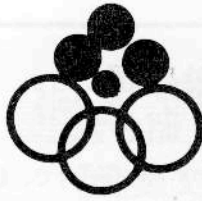
本年2月には市民文化会館の管理運営に関する基本構想を市教委が作成。この中で運営は事業団があたることとし、議会も承認、その事業団(正式には財団法人桐生市市民文化事業団)は7月に設立された。理事長日野茂市長、副理事長矢村教育長他役員13名で発足。桐生市の芸術文化の振興と市民の文化活動の奨励・援助を行って行く。

今年度(平成9年3月末まで)は事業団としての主催事業を3件予定しているほか、市民文化会館だよりの発行、会館オープン後の事業計画の予定を作っていく。

受話器持つ汗拭く片手暇なく	ベット吹く乙女の額白き汗	汗飛ばし火玉飛ばして綱打つ	雷に身を縮めたり背中の子	風の来て噴水の峯定まらず	嬌声を乗せらる車夫の紺の汗	雷好む教授ありけり工学部	一喝し涼置きて去る梅雨の雷	桐生倶楽部はぐるま旬会
清水	下山	久保田	大槻	尾沢	小池	本田	倉林	七月

発車するベル音高きけさの秋	茶を淹れて残暑漸く凌ぎけり	秋立ちぬ筆措きて聞く遠離し	立秋や笹の葉擦れの微かなり	盆灯笼亡き父母座す八畳間	天を掃く竹に風音秋立てり	百僧の囲みて灯笼焚き供養	喜雨の来て天地俄かに動き出す倉林	桐生倶楽部はぐるま旬会
清水	大槻	久保田	尾沢	下山	本田	小池	林	八月

社団法人 桐生倶楽部会報 第95号
 1996年(平成8年) 10月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 小池久雄
 印刷 ツポノ印刷株式会社



社団法人

桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑪

西田博太郎の影響力

森宗作が「桐生に染色に関する高等教育機関の設置」を神山閔治知事に陳情したのは明治41年のことである。それから8年後の大正5年、現在の群馬大学工学部の前身、桐生高等染色学校が開校した。実現までの道程は決して平坦ではなかったが、わずかな期間でこうした思いを形にしてしまうパワーの源が、桐生懇話会関係者の情熱にあったことはいまさら言うまでもないことだろう。

この計画を国が取り上げた段階で、異論を唱えたのは現場の教育者たちである。「国内に繊維関係の専門学校は数校設置されている。いまは新設よりも既設の学校の整備拡充こそ急務だ」。その先鋒となったのが、米沢高工の校長大竹多気と名古屋高工染色科長の西田博太郎の2人だった。そうした気骨ある教育者を、この学校にかけてみたいという気持ちにさせてしまった時点で、すでに工学部の後の発展は約束されていたことだったのかもしれない。開校時、大竹は校長として、西田は教授として新天地に赴任してくるのである。その巡りあわせについて西田は「並々ならぬ運命に誘われつつ」と、こう回想している。

やがて、志なかばで病に倒れた大竹の遺志を継ぎ、東京帝大の誘いも断って、西田は校長に赴任する。以降、終戦の年に退官するまで、体当たり

の教育で学生を感化、世に「西田塾」とまで言われた独特の校風を築き上げ、個性的な教授陣をまとめあげ、多くの人材を送り出した。

西田は東京に生まれ、父親の転任で移り住んだ松江では、ラフカディオ・ハーンに英語の薫陶を受けている。東京帝大を卒業し、豊富な海外経験をへて、染色を学問的に組織した功績は特筆されていい。さらに西田は、中央にも地元にもたいへん広い人脈をもち、その影響は、桐生の文化の底上げに大きく寄与したとも言えるだろう。

桐生倶楽部が発足して、大正8年12月に会館が完成すると、会の活動は一段と活発になった。翌年5月、第1回の学芸会が開かれると、西田は講師として倶楽部に招かれている。地元との交流を喜び、以前この欄で、斎藤長平理事長時代に倶楽部が高等工業の留学生を招いて晩餐会を開いた話に触れたが、この晩餐会の開催が遅れると、西田のほうから督促がきたそうである。

自分の思いを生のままぶつけてはばからない豪放さ、それでいて繊細な人柄が慕われた。数々のエピソードが残るこの名物校長は、いつしかこの地に骨を埋める覚悟を固めた。昭和28年1月26日死去、75歳の生涯だった。

= 倶楽部 だ よ り =

◎10月

- 将棋部会 (12日)
- 歩く会 (13日)「赤城荒山登山」
- 理事会 (14日)
- 月次会 (25日)「フォルテピアノリサイタル」
出演 田村聡子
- 囲碁部会 (26日) 秋季囲碁大会
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (28日)
- 歩く会世話人会 (31日)

◎11月

- 行事委員会 (8日)
- 歩く会 (10日)「どうだんつつじの紅葉に彩られた小俣石尊山」
- 理事会 (11日)
- 歩く会世話人会 (22日)
- 月次会 (25日)「ヨーロッパ・ファッションタウン視察談」講師 木島理事他
- 臨時社員総会 (26日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (26日)

月次会報告**【10月】****～フォルテピアノで甦る
19世紀音楽的瞬間～****田村聡子 フォルテピアノリサイタル**

10月の月次会は、大変珍しいフォルテピアノのリサイタルを企画した。フォルテピアノはチェンバロから現代のピアノへの過渡期の楽器とされ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の音楽家は皆、このフォルテピアノで作曲していたそうである。

演奏者の田村聡子さんは、一昨年ウィーンでフォルテピアノに出会い、その温もりのある響きと繊細な音、そしてダイナミックな表現力に魅了されてしまったという。

そして、今回はこの楽器と同時代、ウィーンに生きた作曲家フランツ・シューベルトの作品を中心に演奏をされた。

田村聡子さんは、相愛大学音楽学部ピアノ専攻卒業、同大学ピアノ研究生終了。1988年国際ロータリー財団奨学生としてオーストリアザルツブルグに留学。1992年国立モーツァルトウム音楽院コンサートコースピアノ専攻大学過程終了。1993年第10回国際芸術連盟新人オーディション合格、新人推薦コンサートに出演。1994年3月第1回目のフォルテピアノリサイタルを開いた。

桐生倶楽部では楽器が2階に運べずロビーで演奏したが、フォルテピアノのやわらかなデリケートな音を聴くには絶好の場。まことに楽しい秋の一夜を持つことができた。

(参会者 50名、当番理事 藤江・佐藤)

なお桐生倶楽部のリサイタルのあと、田村聡子さんは10月29日東京のルーテル市ヶ谷センターでフォルテピアノリサイタルを開いている。



演奏の前に解説をするご主人田村聡さんは
テナーとして活躍している、桐生川内の出身

**藍綬褒章の栄に輝く
矢野 昭さん**

平成8年秋の褒章の受賞者が11月3日付で、総理府から発令された。社員の中からは矢野昭さんが酒類業振興功績により藍綬褒章の栄に輝やいた。矢野さんは現在も県卸酒販組合理事長、全国卸酒販組合監事として活躍している。

**蛭間利雄さんが文部大臣表彰
遠藤勝久さんが法務大臣表彰**

社員蛭間利雄さんは、体育功労者として10月4日文部大臣表彰を受けた。蛭間さんは桐生市のみならず県の水泳競技の振興発展に大きな貢献をされている。

社員遠藤勝久さんは、10月11日第14回群馬県更生保護大会で、長年にわたり保護司として更生保護の仕事に従事し、大きな貢献をされたということで法務大臣表彰を受けた。

県功労者表彰に佐藤富三さん、星野幸一さん

平成8年度群馬県功労者が、10月28日県民の日に発表された。社員の中から佐藤富三さん、星野幸一さんのお2人が受賞された。

商工功労の佐藤さんは、長年県繊維連合会の理事、副会長、会長を務め、本県繊維産業の振興発展に多大の貢献をされている。

私立学校教育功労の星野幸一さんは、樹徳高等学校校長であり、県私立中学高等学校協会会長、日本私立中学高等学校連合会常任理事などの要職にあり、県私学振興に多大の貢献をされている。

以上のようにこの秋は社員の中から、5名の方が各種の賞を受けられた。社員一同心から祝意を表する次第です。



フォルテピアノを演奏する
田村聡子さん

桐生倶楽部会館

「登録文化財」第1号

文化財保護審議会(会長西川杏太郎前東京国立文化財研究所長)は、11月15日、文化財登録制度の適用第一号として、東大安田講堂、京都南座などととも、桐生倶楽部会館を小杉隆文相に答申した。(全国で119件)

文化財登録制度は今年6月に成立した改正文化財保護法で作られ、11月から施工された。従来の重要文化財(桐生では明治館・彦部屋敷)などの指定制度より緩やかな保護制度で、巾広い種類の建造物の保護が可能になる。年代も近代が中心である。

桐生倶楽部会館は大正8年(1919年)に建てられた木造2階建寄棟造瓦ぶきの建物で、建築面積は484.62平方メートル。清水巖氏の設計。赤瓦の屋根、上げ下げ窓。小さな切妻をのせた4本の煙突のほか、列柱の玄関ポーチ、上部を半円形の欄間とした出入り口など、スパニッシュコロニアル形式であり、同形式の建物としては全国で最古のものという、織物で栄えたモダンな桐生を代表する建物である。

社団法人桐生倶楽部の母体は明治33年(1900年)に結成された桐生懇話会で、大正7年に英国風社交クラブとして改組され、翌大正8年に会館が作られたわけである。

会館の設計者清水巖氏の「会館建築の思い出」という一文があるので紹介したい。(桐生倶楽部五十年史より抜粋)

大正5年の春先の或る日、畏友野間清治氏(講談社)から電話があった。早速同社へ行くと、野間氏は私の手をとらばかりに応接間に案内し次のような話をした。

私の故郷は桐生である。父祖は会津だが、自分は桐生で育ち山間の小学校で教鞭もとった。故に桐生に愛着を持ち思も感じている。ところで先日桐生の金子竹太郎氏(桐生倶楽部初代理事長)が訪れ、「実は今度、市に桐生倶楽部会館建設の計画があり、その設計を地元業者に依頼していたのだが、どうもこれはという様なものが出来ない。いっそ東京の設計者に頼んだなら、近代的な設計が生まれるものではないか、という意見になった。については貴下に誰か心当りはないだろうか」とい

うのだ。

そこで自分は「それならば清水巖を推薦したい。彼は清水組の技師で若い技術は確かである」と述べておいた。どうか清水君、引き受けて欲しい。

私は突然の話で驚きもし、また厚意に対し恐縮したが、野間氏の信頼に答えるべく懸命に案を練り二週間後完成した設計図を携えて桐生に金子氏を訪ねる。(以下省略)

桐生倶楽部会館建設には野間清治氏も大きな役割を果たされたわけである。また清水巖氏はそのころ日米共同住宅設計コンクールに応募、一等に入選され一躍有名な若手設計者となった。

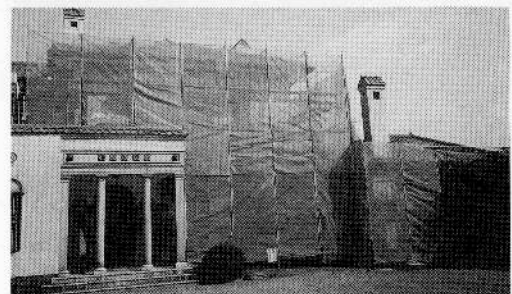
◇臨時社員総会◇

桐生倶楽部会館の屋根瓦が傷み、落下の危険が生じた為緊急に一部改修の必要に迫られ、下記の写真のように10月から安達建設に依頼して工事を進めております。当初は屋根瓦だけの予定でしたが、折角足場を組んだことでもあり、大変汚れてきた建物外部の塗装も手をつけることになりました。また別に駐車場の一部整備費も含め、今回の修繕費は600万円となり、その費用調達のため平成8年度当初予算の変更が必要となったので、臨時社員総会を開催した次第です。

屋根及駐車場修理	¥3,934,600
外部塗装修理	¥1,957,000
	計¥5,891,600
寄附金	¥2,000,000
桐生ガス(株)	
両毛ガス(協)	
当初予算の修繕費	¥1,300,000
80周年事業準備金	¥1,500,000
(会館の修理を80周年事業の一つとして)	
前倒しして支出	
当初予算の次期繰越金	¥1,091,600
	¥5,891,600

以上の原案は出席者全員の賛成が得られ、当初予算変更の議案は可決されました。

社員総数326名、出席18名、委任状166名。



【歩く会】

10月例会

紅葉の赤城荒山ハイキング

10月13日(日)、心配された昨夜来の雨もあがり、晴天にめぐまれ参加者9名午前7時、2台の車に分乗し、赤城森林公園駐車場に8時到着。直ちに身支度を整え出発、きれいに整備された登山道ですが最初から段々のある急登なので、ウォーミングアップ不足の身体には意外にこたえる。

しかし高度を増す毎に樹々の色も赤、朱、黄、緑と素晴らしい紅葉に疲れも忘れさせてくれます。前方を見上げれば秋の空はあくまでも青く澄み渡り全山錦をまとった荒山が聳え立ち、また振り返れば西上州の山々、秩父連山の山脈が雲海の上に、まるで墨絵の様なパノラマ画面を見ている様です。

約1時間で荒山高原に到着です。一休みの後「関東ふれあいのみち」を小沼・軽井沢峠方面へ静かな気持ちよい雑木林の中を約30分で荒山山頂へ、360度のすばらしい景色を堪能し休憩のあと、登りとは別の下山道を荒山高原十字路へ。青い空、白いススキ、真赤な紅葉の快適なコースです。十字路で小休止のあと約40分で鍋割山の広い山頂へ、笹の上に円陣を組み楽しい昼食時間を過す。12時40分下山開始、下りは足どりも軽く路端に咲く可憐な紫色の花々、リンドウ、松虫草、アザミ等々にも目を向ける余裕も出て、すばらしい紅葉を十二分に満喫出来た一日を送る事ができました。

駐車場到着14時10分、桐生着15時10分。

尚、このコースは桐生からも近く紅葉は勿論、新緑、ツツジの季節もまた素晴らしいおすすめのコースかと思えます。歩く会では毎回この様なすばらしい所を選んで、無理のない誰でも参加できる計画を立てておりますので、多数のご参加をお待ちしております。(後藤 記)



秋季囲碁大会

囲碁部会の恒例行事、秋季囲碁大会は10月26日(土)午前10時から倶楽部6号室で開催され、下記のような成績であった。

- | | |
|-----|-------|
| 優勝 | 福永 儀一 |
| 準優勝 | 倉林 俊雄 |
| 1 位 | 岡田 光弘 |
| 2 位 | 吉成 敏郎 |
| 3 位 | 野田友治郎 |

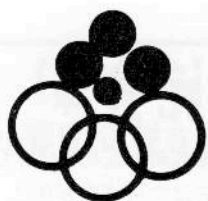
桐生倶楽部はぐるま句会 (九月)

一人居にとび来るとんぼ友となり	木道のしおからとんぼ踏みそうな	花壇には入れぬ鶏頭赤く燃ゆ	高原の風にとんぼの逆らはず	土壁の藁をのがさず赤蜻蛉	長き夜や明日の祝辞を二度三度
清水	大槻	小池	久保田	倉林	本田

桐生倶楽部はぐるま句会 (十月)

案山子立ちて風に逆らう帽子かな	蜜柑照り小さき鳥のここにあり	編みかけのチョッキと蜜柑縁側に	爽やかさ交り始めし今朝の街	照り降りに姿変らぬ案山子かな	業成して職退く友の筆爽やか	鳥渡る越後の海の大落暉	さわやかに祝詞張り上ぐ地鎮祭	みちのくの訛さわやか賢治の詩
塚越	倉林	北川	森	清水	大槻	尾沢	小池	久保田
本	田	本	田	久	保	田	本	田

社団法人 桐生倶楽部会報 第96号
 1996年(平成8年) 12月発行
 発行人 塚越平人
 編集責任者 小池久雄
 印刷 ツボノ印刷株式会社



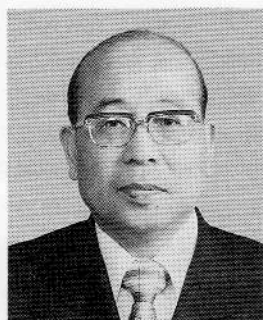
社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

◆ 年頭の挨拶 ◆

元気を出して頑張りましょう!

理事長 塚越平人



明けましておめでとうございます。

今年のお正月は天候に恵まれ、良い日が続きましたが、景気の方は未だしの感じで、政府が緩慢ながらいい方向に向いていると言っても実感が沸いてこない。一部の大企業では円安のせいで輸出が伸びているようですが、中小企業には未だまわってこないようです。

我国では大部分を占める中小企業が潤ってこないと景気が回復してきたという実感がありません。規制緩和、構造改革、小さな政府等々口ばかりでなく、本腰を入れて実行してもらいたいものです。株価の低落も日本国の政府並びに国民がどういう方向を取るかを懸念している面が感じられます。アメリカは二期目に入ったクリントン大統領が来世紀への架け橋になろうと国民に呼びかけ、国民もその自覚に立って頑張りようとしています。ドイツも東独という重荷を背負いながらも一生懸命頑張っています。

我が日本も東南アジアの指導者としての実力を持っているのですから、今こそ奮起一番渾身の努力を払う時だろうと思います。それには各人が元気を出して苦難を乗り越える気概を持たなくてはならないと思います。

さあ皆さん、元気を出して頑張りましょう。

= 倶楽部 だより =

◎12月

- クリスマス会 (7日)
- 歩く会 (8日)「名残の紅葉と歴史を尋ねる古
都鎌倉ハイキング」
- 理事会 (10日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (20日)
- 写真部会 (26日)

平成9年

◎1月

- 新年互例会 (4日)
- 理事会 (14日)
- 監査会 (20日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (27日)
- 臨時理事会 (30日)
- 定時社員総会 (30日)

定時社員総会

平成 9 年定時社員総会は、1 月 30 日 6 時から開催。出席者、

出席 30 名

委任状 155 名

塚越理事長が議長となり下記の議案を審議し、第 1 号から第 4 号までは満場一致で原案通り可決。第 5 号議案の役員改選は選考委員 5 名（委員長佐藤富三氏）により協議した結果、全役員（理事 18 名、監事 2 名）が再選（任期 2 年）された。

第 1 号議案 平成 8 年度事業概況報告 関口理事

第 2 号議案 平成 8 年度決算諸表報告 関口理事

第 3 号議案 会計監査報告 北川監事

第 4 号議案 平成 9 年度事業計画及収支予算書 関口理事

第 5 号議案 役員改選



平成 9 年収支予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1. 会費	12,102,000	1. 給料及手当	6,350,000
		2. 特退共済金	72,000
		3. 福利厚生費	60,000
		4. 租税公課	1,800,000
		5. 火災保険料	350,000
		6. 通信費	820,000
		7. 修繕費	400,000
小計	12,102,000	8. 光熱費	1,200,000
2. 月次会々費	135,000	9. 事業費	3,000,000
3. 会館使用料	2,350,000	10. 会議費	300,000
4. 設備使用料	410,000	11. 消耗品費	380,000
5. 電話使用料	12,000	12. 雑費	700,000
6. 収入利息	7,000	13. 支払利息	50,000
7. 入会金	270,000	14. 予備費	700,000
8. 雑収入	150,000	15. 借入金返済	500,000
9. 寄付金	0	次期繰越金	364,217
10. 借入金	0		
前期繰越金	1,610,217	合計	17,046,217
合計	17,046,217	合計	17,046,217
注 法人	4,000 × 26 × 12		
個人	3,000 × 297 × 12		
	3,000 × 9 × 6		

* 新年互礼会 *

平成 9 年社団法人桐生倶楽部新年互礼会は 4 日 12 時 30 分から開催。

塚越理事長挨拶のあと、規定により倶楽部よりの祝意を表するものとして下記の社員に銀杯を贈呈。

曾我 悟氏（勲四等瑞宝章）

矢野 昭氏（藍綬褒章）

蛭間利雄氏（文部大臣表彰）

遠藤勝久氏（法務大臣表彰）

また恒例の社員代表として下記の四氏が新年の挨拶をされた。

(1) 日野 茂氏（桐生市長）

(2) 笹川 堯氏（衆議院議員）

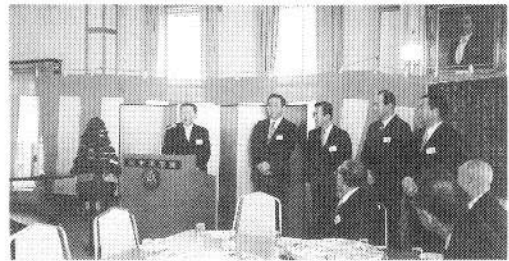
(3) 増山作次郎氏（桐生商工会議所会頭）

(4) 近藤英一郎氏（全国商工会連合会長）

そのあと、吉野監事の乾杯でなごやかな祝宴にうつった。(出席 70 名)



理 事 長 挨 拶



新 入 社 員 紹 介

再選された役員名簿

理事 (18 名)

塚越 平人、小池 久雄、飯山 清治

関口 全之、矢野 昭、藤江 敏雄

金谷 善介、清水 信次、野田友治郎

五十嵐健雄、佐藤 富三、岸田 英作

木島 清、岸 芳正、木村 隆夫

森 寿作、山口 正夫、赤石 清安

監事 (2 名)

吉野 一郎、北川 洋

【歩く会】

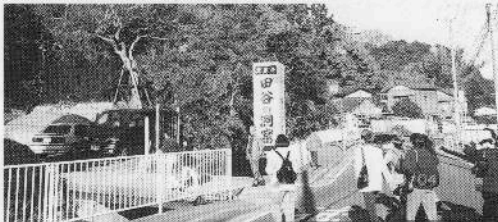
12月例会

小春日和 鎌倉・裏大仏尾根ハキング

12月8日(日)定刻5分遅れの6:05総勢42名で桐生倶楽部を出発、東北自動車道・首都高を経て一路鎌倉へ向いました。倶楽部で鎌倉を訪ねるのは六年ぶりのこと、今回は北東部の天園ハイキングコースを歩きましたが今回は街の西側裏大仏の尾根づたいを歩きます。快晴の青空を背景に富士を眺めながら9:30には最初の訪問地田谷の洞窟(定泉寺)に到着、鶴岡二十五坊の修禅道場であった場所です。銘々ローソクを手にも上下三層全長1kmに及ぶ洞窟巡りを楽しみました。ハイキングの起点は北鎌倉・浄智寺、五山四位の寺格を持つ名刹、名残りの紅葉が美しい境内でした。民家がちらほら点在する尾根を進むと雑木林の木々の間に遊ぶリスの姿を見つけました。日野俊基ゆかりの葛原ヶ岡神社を過ぎると左手に陽光にキラキラ輝く相模湾を望み、高德院(大仏)へ至る約2時間のハイキングでした。大仏では童心にかえっての記念写真。その後はフリータイム、由比ヶ浜通りや小町通りでの昼食やショッピング・鶴ヶ丘八幡宮参詣など、中には江の電に乗って稲村ヶ崎や極泉寺迄足を延ばした人も居ました。若宮大路では思いもかけず頼朝祭武者行列に出合い眼を楽しませてくれました。

定刻の4:00に八幡宮裏駐車場を出発、途中ライトアップされたベイブリッジ・つかさ橋・レインボーブリッジを経て予定通り7:30に桐生倶楽部へ帰着、穏やかな小春日和の休日でした。

(村田 記)



田谷の洞窟 (宝泉寺)



浄智寺

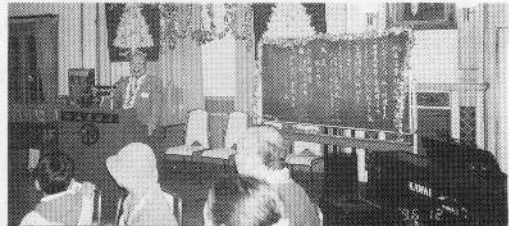
**小さいお客さんの多い
桐生倶楽部クリスマス祭**

桐生倶楽部のクリスマス祭は、いつも子供さんに大変人気があります。今年も小さいお客さんが多数参加、家族ぐるみのなごやかなクリスマス祭でした。森委員長さんはじめ行事委員の皆さんに大変お世話になりました。

余興は金谷佐江子さんのソプラノ、ピアノ伴奏は西村みさをさん。

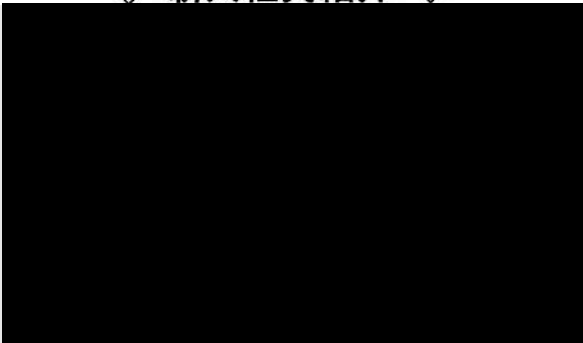
サンタクロースは五十嵐理事さん、司会は行事委員の岡部さん、皆さん大変ご苦労さまでした。

(出席 51名)



高德院の大仏

◆ 新入社員紹介 ◆



桐生倶楽部はぐるま旬会
(十二月)

枯木立大正ロマンの煉瓦館
山暮れて煙一とすじ枯木宿
老の手も足も動かず冬籠り
街の灯を見せて山路の枯木かな
苔むしし唐門守る枯木かな
枯木道先行く人の見え隠れ

森 大 倉 清 久 本
森 槻 林 水 保 田
田

「歩く会」平成 9 年度事業計画

平成 9 年度「歩く会」は、日頃激戦に追われる皆様の月に一度心身共にリフレッシュできるようなノ一人でも多く参加出来るようなノ体力、脚力、年齢を充分考慮に入れて世話人一同、多角的に検討計画致しました。自然の素晴らしさ、その土地の文化、史跡、博物館、美術館も豊富にとり入れ「いい日曜日だったなあ……、と、心に残る例会を心掛けました。奮ってご参加下さい。

理事 歩く会世話人代表 木島 清

月 日	行 先
3月9日 第2日曜日	早春の秩父路、宝登山梅林と長瀬ハイキング
4月13日 第2日曜日	桜の花とカタクリの花の早朝ハイキング(運動公園・笠懸鹿ノ川沼)
5月18日 第3日曜日	須賀川のボタンと三春の詩画家(渡辺俊明氏アトリエ)を訪ねて
6月8日 第2日曜日	赤城覚満淵から長七郎山を小沼へ レンゲつつじ、グミの花が見事

桐生倶楽部はぐるま旬会 (十一月)

引き売りに傘集い来る初時雨
木の葉散る風のある日も無き日にも
明日は散る木の葉なるらし色づきて
晩鐘に木の葉はらはら落ちるなり
末枯れし空地に杭の打たれけり
葬送の列濡らしけり初時雨
峡揺れて木の葉一群陽に泳ぐ

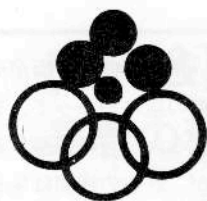
清 水
久 保 田
本 田
森
尾 沢
大 槻
倉 林

7月27日 第4日曜日	梅雨明けの夏山、百花繚乱の美ヶ原 高原歩きと美術館
9月7日 第1日曜日	歩く会が月次会を担当します。従って全社員に案内が出ます。 越後の風物をバスで探訪
10月12日 第2日曜日	仲秋の栃木県北、那珂川畔探訪 (昼食は那珂川の築場で鮎料理)
11月9日 第2日曜日	晩秋の鳴神山、桐生人の山、年に一度は登りましょう。
12月14日 第2日曜日	師走の東京、ゆりかもめ、に乗って未来都市へ。

◎歩く会の通常の例会の案内は、全社員には出しておりません。案内の欲しい社員の方だけに出しています。しかしご希望があれば社員ならどなたにもご案内を差し上げます。事務局へお申込み下さい。なお、歩く会の例会が月次会を兼ねる場合(9月例会)は、全社員に案内が出ます。

◎5月、7月、9月、10月、12月は、バスを利用致します。バス利用ハイキングの場合に限り、申込みから一週間前までのキャンセルは無料。出発日の6日前以降のキャンセルは申込金を納入していただくことになります。

社団法人 桐生倶楽部会報 第97号
1997年(平成9年) 2月発行
発行人 塚 越 平 人
編集責任者 小 池 久 雄
印 刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

— 3月月次会 —

山田かまち美術館長にきく

3月月次会は17日夜、山田かまち水彩デッサン美術館（高崎市）の館長、広瀬毅郎さん(55)を招いて「かまち現象にみる若者の心象風景」と題して講演をいただいた。高崎には同美術館を訪れるために全国からたくさんの若者がやって来る。「若者に魅力あるまちづくり」としてファッションタウンを目指している桐生にとって「今後のまちづくり」の参考になるのでは、と依頼した。当日は社員、一般参加者ら約25人が聴講。会場には10点ほどのかまち作品を並べていただいた。

以下は講演の要旨。

かまちは昭和52年夏、17歳（高崎高校1年）という短い生涯を閉じた。平成元年、井上房一郎・井上工業会長が、彼の残した水彩画やデッサンに感動。「県収蔵品にしたい。県職員に見せるために会場を」と作品展の開催を私の画廊に持ち込んだ。当初は乗る気はなかったが、井上氏が当画廊を借りる形で開いた。

作品には瑞々しさや色合いの新鮮さを感じたが、何よりもかまちの作品を見る若者の反応に驚いた。作品展が新聞で紹介されたこともあるが、高校生の間で口コミで話題が広がり、今まで当画廊に来たことのないような若者たちが連日押し寄せた。「コレって一体何なんだろう」と思った。

が、県は「収蔵に適さない」と冷たく却下。井上氏もがっかり。私は「これほど若者が感動するには何かある」と思い、「私が展示したい」と両親にお願いし、作品を譲り受けた。当初はプレハブ美術館か、画廊の一部を使って、と考えたが私の周囲のだれもが反対した。「無名の少年の作品



では人は来ない」と私は脱サラしてこの道に入って15年ほど経ったころ。いくらかの自信もついたし、自分の目を信じたい、と思い切って美術館建設を決め、平成4年2月に開設した。

初年度は4万人が訪れ、今年も4・5万人。若者はかまちの生き方に共鳴しているよう。だから作品だけでなく、彼の詩や机、望遠鏡、ステレオなども展示している。「人が一番興味を持つのは人」と言われるが、まさにそれだ。今の若者は、やりたいことがみつからない、進む方向が分からない、相談相手もいない。来館者は「かまち」にそれを求めているようだ。

公立美術館の運営は赤字で当たり前という風潮があるが、それは間違い。当美術館は私と妻と受付の女性の3人だけで運営し、補助金は一切もらっていないが黒字経営だ。もちろん、儲けようとは考えていない。また、まちおこしのための美術館として建てつつもりでもなかった。

— 写真部会 —

冬の撮影会

狙いは朝焼けの浅間

去る2月8日～9日1泊2日の冬の撮影会を催した。今回の参加者は5名と少なかったが、天候にも恵まれて楽しく、また、収穫多い撮影会であった。

撮影目的は北軽井沢の炎のまつりと朝焼けの浅間山をテーマとして、目的地北軽井沢に向かった。8日午後1時半に桐生を発って前橋、倉淵村を経て二度上峠から目的地北軽井沢に着いた。立春を過ぎた日差しは暖かく、浅間の姿は幾分霞んで写真にはならなかったが、明日の撮影意欲をはやくも誘ってくれる。道路の雪も少なく、四駆のグリップも快適で、早々に今宵の宿山楽荘に着いた。小休止後、炎のまつりの会場となる浅間園に向かった。今年は例年と会場が変わり、北軽井沢から鬼押出しに隣接する浅間園に会場が移った。会場に着くと、すでに和太鼓演奏がはじまり、松明炎の会場は一面に松明が備えられ、その周りを百人を優に超すカメラマンが三脚の間を立てて点火を待っていた。すでに三脚の間は立錐の余地もなく、祭りの人気と写真ブームに圧倒される。やがて日は落ち、辺りの白樺林が雪明かりにうっすらと姿を映しだしたころ、雪の斜面の上部から火が灯され、3千本の松明が雪面を照らし、幻想的な炎の祭りがクライマックスとなった。斜面上部から蛇行する形で炎は広がり、下部は大きく円形に火が灯され、全体で渦まく火の玉を形作って映しだされ、カメラマンは各々シャッターをきり、子供づれや若いカップルは灯された松明の輪に入ってまぼろしの炎につつまれた。寒さは標高千米の雪のなか、さすがに寒い。カメラを持つ手は痛くなり、足裏も冷えての撮影で、頭の回転もにぶり、ただ、カメラのオート機能を頼みにシャッターを切った。やがて、火の玉の中央に位置する大きな焚火に火がつけられ祭りは終盤のハイライトとなった。

7時15分会場を後にし、宿に着いたのは8時を回ってしまった。翌朝は5時に出発、峰の茶屋から鬼の押出し寄りの駐車場で朝焼けの浅間を待った。さすが未明の山麓は寒い。素手でカメラ準備ではたちまち手が痛くなる。多分、気温はマイ

ナス10度ちかいのであろう。東の鼻曲山方面が赤くなってきた。ただ、雲が東の空にかかって、まともに浅間山に日がさしてこない。北に鎮座する本白根は赤く染まってきたが、肝心の浅間は染まらずに終わってしまった。それでも次第に日がさして雪と砂礫の襲が美しい。夢中でシャッターを切った。それぞれ散らばっていたメンバーも満足そうにもどってきた。帰りがけ背後の浅間山が斜光に映え、ふたたびシャッターを切った。時間の経過もはやく、宿に帰って遅い朝食を摂ったが、さすがに空腹を感じ3杯のお変わりをした人もいたほどである。

帰りはハイロン湖と浅間園に立ち寄り、2時30分帰桐した。モチーフの条件といい、宿の接遇といい、満足いく楽しい撮影会であった。

(江原満記)



【歩く会】

3月例会

早春の秩父路を歩く

理事長 塚越平人

当日(3月9日)は日本晴、無風の春日和。

午前7時出発とのことで、家内を急がせながら15分前に倶楽部へ到着したが、参加者の殆ど全員がロビーに集合していた。当初思っていたより多勢の参加者で、総勢23名。木島委員長挨拶ののち、藤井さんから往路復路の図面を渡され説明があった。

定刻7台の車に分乗。(車と乗組員は後記)大原を經由して銅街道を南下。途中、世良田東照宮の前で一度点検のため、停車。更に直進して寄居町を経て秩父路へ……。長瀨へ入ってコンビニでトイレ休憩したが、日曜日と早朝出発のため、道が空いていて思いの外早く、約1時間40分で長瀨に到着。宝登山の駐車場に車を止め、山頂の奥の院を目指した。

山頂に行く道他にロープウェイがあり、数名はロープウェイを利用した。それは約260米の標高差で約5分で到着。定員61名。人数がまとまると臨時も出る。ケーブルの終点は、一段と平らになり、見晴らし台の後方、山側に梅林があり、三千本、六百種類の梅(紅梅、白梅、しだれ等)が今を盛りと咲き誇る。その香りが全山に満ち、勝れた眺望と共に聞きしに勝るものであった。一同歓喜の声と共に梅林の中を散策をした。梅林の初めの小径を利用して野点が行われており、参拝客(観光客?)をもてなして居り、我々もその仲間に入れてもらってお茶を頂戴したが、甚だ美味であった。

約1時間、梅の香りを楽しんだ後、再びロープウェイで長瀨まで降り、それより昼食・石畳の上で弁当を食する者、そばやに入る者と自由行動は実に楽しく、しばし時を忘れて楽しむ。

昼食後、帰路についたが、途中、野上下郷万塔姿(杖状石碑)高さ5.35m、中1.2m、厚さ0.15mの日本一大きな石碑を藤井さんの先導で拝見。

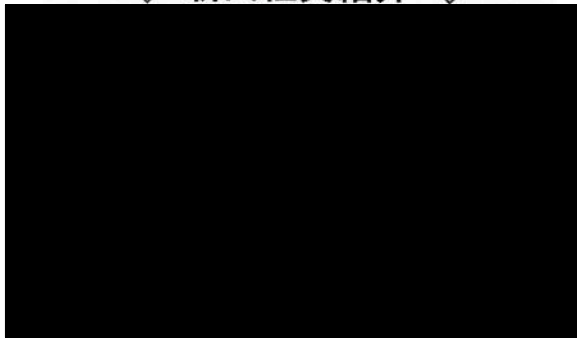
続いて寄居町少林寺の500羅漢を見学し、山路に沿った石の地藏さんとその数の多さに驚嘆しながら下山し、その後駐車場にて自由解散。再び往路を復路として、午後3時40分、帰桐。楽しい、楽しい、歩く会を完成した。



後記

- | | |
|-----|----------------------------|
| 1号車 | 木島夫妻、金谷夫妻 |
| 2号車 | 中里夫妻 |
| 3号車 | 森口さん、肥後さん、海野夫人、大塚さん(海野さん娘) |
| 4号車 | 暮田、塚越夫妻、斎藤夫人 |
| 5号車 | 青木夫妻、上林さん、今西さん |
| 6号車 | 村田夫妻 |
| 7号車 | 藤井さん、森山夫人、矢島さん |

◆ 新入社員紹介 ◆



文化活動委員会全体会議

ガーデンパーティーは5月10日(土)

文化活動委員会(委員長金谷善介、副委員長藤江敏雄)は、2月28日6時から全体会議を開催、各々の部会に対して予算の配分がされ、各々の部会の代表から新年度の事業予定の発表があった。

また恒例の文化祭の日程も協議の結果、5月8日(木)、9日(金)、10日(土)と決定、従って社員が家族ともども参加していただく楽しみのガーデンパーティーは10(土)の午後となる。

文化活動委員会の中の部会は下記の通り12部会があるので、社員の方はできるだけ多く部会に入って活動していただくことを各部長が期待をしている。社員ならどの部会にでも入ることができる。

文化活動委員会内趣味の部会

部会名	部長	副部長	担当理事
美術部会	保倉	須賀	佐藤(富)・岸(芳)
懇話会	藤井(龍)	山鹿	木島・赤石
俳句部会	久保田(裕)	本田	清水(信)・森(寿)
麻雀部会	運	養田	藤江(敏)・岸田・岸(芳)
囲碁部会	野田	吉成	小池・野田
ゴルフ部会	森田	石関	五十嵐(健)・関口
将棋部会	平野(平)	野田	飯山(清)・野田
歩く会	木島	藤井(龍)	小池・木島
ピアノ部会	金井(利)	五十嵐(健)	金谷(善)・五十嵐(健)
写真部会	森口	武井	木村(隆)・塚越(平)
音楽鑑賞部会	小堀	藤井(龍)	矢野・山口(正)・木島
21委員会	赤石	塚越(紀)	山口(正)



桐生倶楽部はぐるま句会 (一月)

風花の日矢にしばしの生命舞ひ
ポイントを護り寒燈夜もすがら
風花のふわりと着きし牛の鼻
寮の娘の薄き化粧や機始
足萎えて受けるばかりの年賀かな
風花を纏いて赫き顔帰る
寒灯や小声で歌う一人旅
風花の止みて餌台へ二羽三羽

久保田 本田 尾沢 小池 清水 倉林 大槻 森

桐生倶楽部はぐるま句会 (二月)

降り足らぬ雨をかこつや春隣
抱き上げし赤子の匂ひ春隣
農鳥となり残雪の野良厩
残雪の富士に相模は波立たず
梅一枝鶴首にさし香り聞く
新調の靴にぬかるみ春隣
春雷の遠くなりゆき病み臥せる
枯れ果てし幹と思へど梅の枝

小池 尾澤 本田 久保田 下山 大槻 清水

= 倶楽部だより =

◎ 2月

- 写真部会 (8日)
- 歩く会 (9日)「整備新たな八王子丘陵、茶白山」
- 理事会 (17日)
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (24日)
- 歩く会世話人会 (24日)
- 文化活動委員会 (28日)

◎ 3月

- 写真部会 (4日)
- 懇話会 (7日)「安吾忌」
- 歩く会 (9日)「早春の秩父路宝登山梅林と少林寺五百羅漢」
- 理事会 (10日)
- 月次会 (17日)「山田かまち水彩アッサン美術館」
- 囲碁部会 (22日) 春季囲碁大会
- 桐生倶楽部はぐるま句会 (27日)

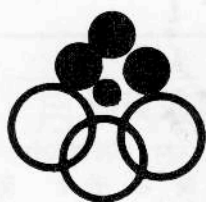
社団法人 桐生倶楽部会報 第98号

1997年(平成9年) 4月発行

発行人 塚越平人

編集責任者 小池久雄

印刷 ツボノ印刷株式会社



社団法人 相生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 相生倶楽部 TEL 45-2755

傘寿の館 ⑫

志なかばにて

「相生倶楽部という気の利いた社交場ができたそうだ。見に行こう」。夏の帰省で久しぶりの市内散策を楽しんでいた学生3人、だれが言い出すともなく、そんな話がまとまった。みな、完成間もない洋風建物の瀟洒な姿にすっかり魅了されてしまったと、その一人、岩下オー一郎が『相生倶楽部懐古』につづっている。やがて、この建物が50歳を迎えるにあたって、さらなる飛躍を期待されてひとりの理事長が倶楽部に誕生した。前原一治である。彼もまた、あのときの学生であった。

細長い顔はすこぶる温和で、ひょろりとした風貌に人品を漂わせていた前原は、桐生の名門の出である。早稲田大学を卒業したのち、父前原悠一郎を継いで実業界に入り、戦後、初の公選市長となった。4期16年の任期はまさに波乱続きだったが、度重なる台風の被害、また貧乏財政にもめげず、つねに将来を見すえた政策を掲げて市政のカジをとったことは、いまだ多くの市民のこころに強烈な印象として残っている。

ひざを交えて語らい、意見を聞き、いざ動き出せばだれにも止めることができない強引き、その市長像を語る言葉はさまざまだが、共通するのは

だれもが親しみを込めていることだ。とりわけ教育、文化面で異彩を放った。新川球場の復旧、産業文化会館の建設、生活改善委員会の整備、また外遊で見聞を広め、花いっぱい運動や老人福祉センターの建設など、当時としてはきわめて先進的な政策にも力をそそいできた。しかも、井戸堀という言葉に象徴される清廉な政治家であり、「桐生に前原市長あり」と、その名声はひろく鳴り響いていた。おそらくこの人なしには、戦後桐生のめざましい復興はあり得なかつただろう。

相生倶楽部にあつては、昭和29年から理事をつとめてきた前原だが、市長を退いてのち、41年の改選で理事長となった。新理事長を迎えた総会は活気づき、新しい時代に対応するためのいくつかの特徴的な運営方針を打ち出している。

なかでも「婦人社員の入会賛成」「文化活動を活発にして、県や市から認識されるようにしてほしい」などは、前原時代の柱であり、今後の発展に大きな期待が寄せられた。しかし、43年の1月15日、前原理事長は急逝した。相生倶楽部50周年に向けて大きな抱負を抱きながら、まだころざし半ばだった。68歳。

＝ 倶 楽 部 だ よ り ＝

◎4月

行事委員会(8日)
理事会(11日)
囲碁部会(12日)文化祭協賛囲碁大会
歩く会(13日)「相生運動公園から岡登遊歩道」
将棋部会(19日)文化祭協賛将棋大会
歩く会世話人会(21日)
月次回(23日)「私の考えるファッションタウン」
講師 山口理事他
麻雀部会(24日)文化祭協賛麻雀大会
於くすのき

写真部会(24日)

ゴルフ部会(25日)文化祭協賛ゴルフ大会
於桐生CC

相生倶楽部はぐるま句会(25日)

◎5月

理事会(6日)
文化祭(8日~10日)
ガーデンパーティー(10日)
歩く会「晩春のみちのく牡丹と民俗の旅」
相生倶楽部はぐるま句会(29日)

第23回 桐倶社員文化祭

桐生倶楽部恒例の社員文化祭が、新緑の美しい5月8日から10日までの3日間、盛大に開催された。展示作品は写真・絵画・陶芸・俳句短冊色紙など多数。特に写真部門は多士済で、同じ時期に開催された桐生市文化祭写真展の市長賞は、昨年に続いて今年も桐倶写真部会員（本年は武井正充さん）が受賞したほどである。

10日の4時からガーデンパーティーの席上、各種競技の入賞者の発表、賞品授与が行われた。アトラクションは新進の大城杏花さんのピアノ独奏。ショパンやリストの曲を楽しく聴かせてくれた。

文化祭協賛行事及催物一覧

囲碁大会	4月12日 AM10:00～	於 6号室	
将棋大会	4月19日 PM 5:00～	於 6号室	
麻雀大会	4月24日 PM 6:00～	於くすのき 仲町3-7-18	
ゴルフ大会	4月25日 AM 9:06～	於 赤城CC	
俳句会	4月25日 PM 7:00～	於 2号室	
歩く会	5月18日 AM 6:00出発	倶楽部集合	須賀川のボタンと三春の詩画家を訪ねて
絵画展	5月8日～5月10日 AM10:00～PM 5:00	於 広間	
写真展	5月8日～5月10日 AM10:00～PM 5:00	於 広間	
陶器展	5月8日～5月10日 AM10:00～PM 5:00	於 広間	
俳句色紙展	5月8日～5月10日 AM10:00～PM 5:00	於 広間	
ガーデンパーティー	5月10日 PM 4:00～	於 庭園	

各部門の出品者

- (写真) 塚越平人・森口二郎・五十嵐健雄
 須藤正夫・後藤久夫・茂木 浩・江原 毅
 江原 満・蛭間利雄・藤井龍人・金井利雄
 新井友次・武井正充
 (絵画) 金谷善介・保倉一郎・海老沼利八
 (陶芸) 須賀武次
 (俳句短冊・色紙)
 久保田裕一・本田孝太郎・森 寿作・尾澤弘一
 大槻圓次・小池久雄

各競技会の入賞者

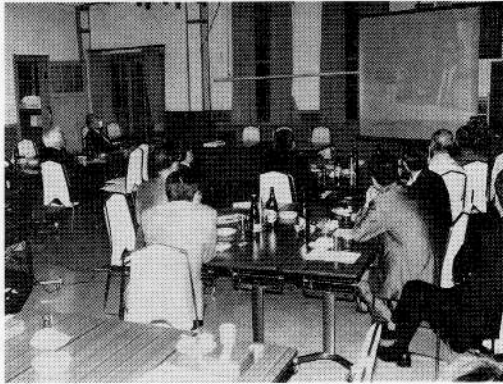
- | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 4/12囲碁大会 | 優勝 吉成敏郎 | 4/19将棋大会 | 優勝 若鍋 健 |
| 準優勝 岡田光弘 | 準優勝 平野平四郎 | 参加賞 野田友治郎 | 〃 岡田光弘 |
| 1位 倉林俊雄 | 〃 木村俊一 | 〃 出口孝二郎 | |
| 2位 山上喜一 | | | |
| 3位 野田友治郎 | | | |
| 4/24麻雀大会 | 優勝 蓮 直孝 | 4/25ゴルフ大会 | 優勝 川島康雄 |
| 準優勝 石井省三 | 準優勝 上野武男 | 3位 福田博重 | 4位 石関二六 |
| 3位 養田 隆 | 5位 阿部高久 | 6位 森田良徳 | 7位 関口全之 |
| 4位 遠藤俊一 | 8位 川島長子 | 9位 坪野恵治 | 7-ピー 山本作幸 |
| 5位 飯山清治 | メーカー 森田寿子 | | |
| 6位 笹川勝正 | | | |
| 7位 岩田俊光 | | | |
| 8位 米田 籌穂 | | | |
- ニアピン1 N12 上野武男
1 N16 川島長子



月次会報告

【4月】

シンポジウム

『私の考える
ファッションタウン』

熟考4年。桐生商工会議所を中心に構想が練られてきたファッションタウン桐生推進協議会がいよいよ正式にスタートします。魅力ある桐生をつくるための産、官、学、民総参加での息の長い壮大なプロジェクトです。

4月月次会は同運動への理解と周知を目的にシンポジウム「私の考えるファッションタウン」を開きました。パネリストの3氏は、いずれも準備段階から計画の中核としてかかわってこられた方たちです。

木島 清氏	ファッションタウン桐生推進 協情部長 桐生RC会長
佐藤 富三氏	桐生商工会議所副会頭、桐生 織物協同組合理事長
山口 正夫氏	ファッションタウン桐生推進 協議会運営委員長、トヨタブ ロダクツ社長

シンポジウムは2部構成で第1部は「ファッションタウンなんでもQ&A」。スライドを使っの経過説明と質疑応答のあと討論に入りました。テーマに沿って各パネラーが「F・Tの意義」「方向づけ」「桐生の潜在的な魅力」等々、こもこもに

持論を展開、運動の成否はいつにかかって市民がどのように理解し、運動するか意識改革の如何にこそある、と結びました。

会場からも熱心な意見、質問が飛び出すなど約2時間、終始熱のこもった月次会となりました。

岸 芳正社員が
県総合表彰を受賞

平成9年度群馬県総合表彰が5月14日前橋市民会館で行われました。桐生倶楽部関係者では岸芳正社員（医療法人岸会岸病院長・65歳）が長年にわたっての保健功勞が受賞対象となりました。おめでとうございます。

建物は使って残す
文化財登録制度講演会

3月29日1時半から、織物会館旧館二階の講堂において文化財登録制度「これからの文化財の保存と活用のあり方」という演題で文化庁文化財保護部建造物課、後藤治文化財調査官による講演会が開催された。主催は桐生市教育委員会で、桐生倶楽部と織物会館が共催。助言者として元文化庁建造物課長で長岡造形大学の宮沢智士教授。

桐生では昨年12月に桐生倶楽部会館が登録文化財第一号に指定され、本年2月には織物会館旧館が登録文化財の対象として文化財保護審議会から答申をされている。

後藤調査官は「文化財は宝物というイメージが強いが、ただ保存するだけでは駄目。建造物は現役施設として活用し、市民に親んでもらいながら、残していくことが大事。使うことによって保存する仕組みを市民ぐるみで確立していこう」と話していた。

【歩く会】

4 月例会

相生運動公園から
岡登遊歩道



【歩く会】

5 月例会

晩春のみちのく
牡丹と民俗の旅



5 月例会はマイクロバスでみちのくへ。先ず須賀川の牡丹園、ついで三春の歴史民族資料館、土人形館を見て、船引町の画家渡辺俊明氏のアトリエに寄らせていただく。帰途は三春（高柴）デコ屋敷を見るという充実した一日であった。

社団法人 桐生倶楽部会報 第99号
1997年（平成9年） 6月発行
発行人 塚越平人
編集責任者 小池久雄
印刷 ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部はぐるま句会

(三月)

僧坊の女ばかりの木の芽和え
嫁ぐ娘の酌に酔いけり雛の宴
雛の顔画く一瞬の人形師
林道に木の芽それぞれ色違い
初雛のほんぼり明し農の家
蒼穹に輪廻転生樹々芽吹く
煤けたる箱より白き雛の顔

久保田 本 田 大 槻 清 水 尾 澤 小 池 森

桐生倶楽部はぐるま句会

(四月)

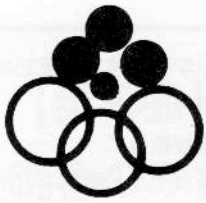
方丈の今宵は作務衣桜守
うつ向きて大船観音花の上
八重桜虚空に満ちて骨納め
病室の窓の分だけ花見かな
夜桜の天に見つけし簪星
夜桜となりて妖しき川堤
春眠や知る人もなき旅の宿
甲高く春眠破る孫の声

本 田 久 保 田 小 池 大 槻 森 尾 澤 清 水 塚 越

◇ 退社社員 ◇

(敬称略)

田 島 英 二 樽 川 潤
松 島 貫 一 関 崎 仁
森 隆 生



社団法人 桐生倶楽部会報

〒376 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

会報100号発行に寄せて

社団法人 桐生倶楽部
理事長 塚越平人

桐生倶楽部会報が100号を迎えることになりました。これまで長い間、数々の困難を克服して、会報の発行を続けて下さった、歴代の会報委員会の方々に感謝を申し上げ深甚なる敬意を表する次第です。

会報第1号(昭和40年12月1日発行)に、長沢義雄理事長、前原勝樹副理事長の巻頭言が載っております。

長沢理事長の言を要訳しますと。「今まで長い間、会報の発行を心掛けたが仲々実現に至らず、残念に思っていた。ここに第1号を発行することが出来、誠に喜ばしく思っている。開館以来50年になり、修理にも金がかかるようになったが、200名の社員と力を合わせて頑張りたい」

更に前原副理事長は、「倶楽部へお出かけ下さい」という呼びかけをされ、「倶楽部は宴会場ではない。職場や家庭からの息抜きの場所であると同時に、この立派な会館に出来るだけ来館して、広く社交的な教養を高めるよう期待する。それには、現在も続いている有意義な月次会を適宜企画をして、出来るだけ沢山の社員に楽しみながら出席してもらうよう、理事は心掛けなければならない」と述べられています。

現在の理事は、これらの趣旨を充分理解し、その実現に当たっております。ただ長沢元理事長が「当会館は誠に立派であるが、何分にも木造であるので、維持管理には今後仲々の費用がかかる。この点は今から充分留意していく必要がある。」と言っておられました。木造建築なので耐久度も心配されていたようです。

そこで先般、専門家によって検査をして頂いた結果、適当な手入れをしていけば、まだまだ当分

は使用にたえ得るとのこと。今後、できるだけ機能と原形を損なわないよう管理をし、使用をしていくつもりです。会館は昨年12月26日付けの官報に告示されましたが、文化財登録制度による第一号の適用を受けた文化財です。先人から受け継いだ建物を大事に保存しながら、使用して行くという考え方は文化財登録制度の趣旨に合うものです。文化財に登録されたことにより、我々の建物管理の責任は一層重くなったと思っています。

社団法人桐生倶楽部は大正7年発足、社員は折りある毎に会館に参集し、談論風発、時局を論じこれを桐生市政に反映させて来ました。現在社員数350名に達し、18名の理事を中心に先人の意向を体し、その理想を具現すべく努力して居りますことはご高承の通りであります。

会報100号発行を機に、先人が残された社団法人桐生倶楽部と、その附属する会館の意義を再確認しましょう。

今、この原稿を書いている机上に、「文芸春秋」第1巻第1号(大正12年1月発行)があります。何回読んでも新しい発見をするのですが、その記事の中に菊地寛氏が「仲々定期発行するのは色々な面でむずかしいので、続巻を直ぐ出せるかどうか分からない」と言っております。事実その後しばらく発刊されなかったようです。

しかし、我が桐生倶楽部会報は順調に発行されて、この度、100号記念発行ということになりました。まことに喜ばしい限りです。更に、今後200号、300号と、桐生倶楽部の隆盛とともに発行されますよう、願ってやみません。その為には社員皆様のご理解とご協力あってのものと思います。

どうぞ今後ともよろしく御願ひ申し上げます。

月次会報告

【6月】

教師の見た
野間清治

講師 大里仁一先生



元 桐生西小学校校長
現在 桐生市教育資料室勤務

1、生いたち

野間清治は明治11年12月17日、好雄、婦ゆ夫妻の次男として、山田郡新宿村（桐生市）の新宿小学校（現在の桐生市立南小学校）の教員宿舎に生れた。

野間氏は代々上総国君津郡の保科氏二万石の小藩、飯野藩の藩士であった。明治維新の動乱期、清治の父、好雄は数々の苦勞を経て桐生新宿に落ち着く。はじめは近隣の若者に剣術を教えて生計を立てた。明治11年、世話する人があって新宿小学校の教員に採用された。その関係で清治は新宿小学校の教員宿舎で呱呱の声を上げたのである。

清治が新宿小学校に入学したのは明治17年3月31日、清治はここで小学校初等科、中等科の課程を履修し、さらには山田第一高等小学校に進んだ。勉強好きではあったが、机にかじりつくような優等生タイプの少年でなく、あそびやいたずらでもリーダー格であった。

2、東京遊学

明治25年3月高等小学校を卒業した清治は、両親と妹保の支えがあって、東京の伯父の家に起居し、郵便電信学校の予備校であった芝の静観学院に通学した。しかしスケールの大きい彼の性格は郵便電信事務に就くことを目的とする学びに耐えられず一年で帰郷した。

3、教育者として

明治28年4月、清治は父の旧知田口廣吉の紹介で新田郡木崎尋常小学校の臨時雇として教壇に立つ。時に16才。一年後、向学心に燃える清治は教職を辞し、群馬師範学校に入学した。四年後師範学校を卒業し、本科正教員として母校の桐生町立高等小学校（山田第一高等小学校）訓導に任命さ

れた。一年後、桐生北尋常小学校に移り、翌35年3月、新設の川内村尋常小学校に栄転。

4、沖縄県立中学校、師範学校教員に

明治35年5月、中等学校教員不足の解消を目的として東京帝国大学に設置された第一臨時教員養成所に入学を許された。修業期間2年、37年3月卒業した清治は沖縄県立中学校兼、沖縄県師範学校訓導に任ぜられる。巾広いものの見方、明朗闊達で万事飾り気のない清治は、校長の信頼はもとより、同僚にも好意をもって迎えられ、生徒達からは厚い信頼を寄せられた。40年3月、沖縄県視学に抜擢され、その後間もなく生涯の良き伴侶、服部左衛子と結ばれた。

5、再び東京へ

結婚後間もなく、東京帝国大学法科大学首席書記の職を友人から世話をされ、上京する。天下の碩学、秀才の集まる所。進取の気性に富む清治は、ここでの5年余の在任期間にその後の雄飛の基盤を十分に築いたのである。

6、雑誌「雄弁」の創刊と講談社の創設

清治は演説弁論というものに大きな価値を見出し、弁論とは口で語るものだが、それを雑誌という媒体を通して表現しようと考えた。大学書記の職にありながら清治は、明治42年11月本郷駒込坂下町に居を構え「大日本雄弁会」を設立して、演説弁論の専門雑誌「雄弁」の刊行を企画、明治43年2月、大日本図書株式会社より創刊号が発行された。創刊号は版を重ね、たちまち1万4千部を売り切るという大成功を納めた。翌44年「講談社」を設立し、大衆雑誌「講談倶楽部」を発刊、後に社名を「大日本雄弁会講談社」とし、「雄弁」も発行する。大正2年大学書記を辞し、出版事業に専念。少年倶楽部、少女倶楽部、幼年倶楽部、婦人倶楽部等々を次々に発刊。大正14年には74万部という驚異的な発行部数を誇った「キング」を発刊。日本の雑誌王となった。雑誌出版を軸として各種の全集、単行本も刊行する。

7、少年部の存在

大実業家野間清治の体内には常に教育者の血が流れていた。講談社が積極的に少年社員を採用し「少年部」を組織していたのもその現れの一つではなかろうか。彼等の多くが清治の郷閩と同じ群馬県出身である。少年部員は起居を共にしながら先輩社員の指導を受け、教養を高めつつ社業にも携わる。産学一体となった私学の観すらあった。

【歩く会】

5月例会

晩春のみちのく
牡丹と民俗の旅

5月の爽やかな風に誘われるように、早朝6時に桐生倶楽部を出発したバスは一路須賀川の牡丹園を訪れた。今から230年前、薬種商が牡丹を栽培したのが始まりで、昭和7年には国の名勝に指定されており、10haの園内に290種類、7,000株もの牡丹が栽培される様は、毎年約25万人の観光客を誘致するにふさわしい日本一の規模を誇る牡丹の名所である。本来であると、この季節は牡丹の大輪の花が一斉に咲き、我々歩く会のメンバーを迎える筈であるが、今年は例年より暖かさが早く訪れたせいか、その満開の様子を想像しながら、咲き遅れの牡丹の美しさを堪能した。次に高柴デコ屋敷を訪ねた。ここでは日本最初の年賀切手に使用された三春駒や天狗面、十二支のデコ人形等に出会い、鄙びた山里に伝承される庶民文化に触れる事ができた。次に盤城街道の「五人形様」の一本尾形のお人形様を訪ねた。今から凡そ160年前「天由布都々神」を祭神として建立され、高さ4m、両手を広げた幅は6m、赤・黒・白に塗り分けられた巨大な面に杉葉の頭髪がいかにも強そうな神様である。それは農村公園の小高い所に位置し、船引町民俗文化財指定であり、その前で記念写真を撮ったが、誰かがこの面の前に立つと女性が美人に写るといったので皆の笑いをさそった。次に滝桜を見たいと希望があったので幹事の木島さんの計いで歴史民俗資料館をカットし、三春滝桜を見学した。幹周り9.5m、南北17mの紅枝垂桜の巨大な雄姿が青空の中に突っ立っていた…大溜め息…

最後の見学場所は渡辺俊明先生のアトリエ。春風に揺れる青苗の植えられたばかりのあぜ道の先に、道祖神がワラぶき屋根の山門の下で我々を迎えた。二層の瓦屋根に竹装飾の風情のある渡り廊下から山に登ると、木道の奥にそのアトリエはある。渡辺俊明先生の仕事ぶりを見学すると、絵画が暮しの中に溶け込むように各々の部屋を飾る。先生の自然と語らい、人と物との出会いを分かちあい、仏教心を抱いて歩む人生観に触れ、心なごむ一時を過ごした。少々疲れた体を癒し、中庭を

拝見しながらいただいた美味しいスイカ。庭のあちこちに点在する野仏。それは若葉の輝く蓮笑庵。「無心に咲く 自分らしくさく 野の花がいいね」。私の求めた絵が微笑んでいる。

(飯山順一郎 記)



須賀川の牡丹園



画家 渡辺俊明氏のアトリエ

【歩く会】

6月例会

レンゲツツジ咲く赤城山
ハイキング(6月18日)

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)

株式会社ミツバ

桐生市広沢町1-2681

TEL52-5470 FAX52-5471

※ 7月の理事会で入会を承認された新入社員が20名居りますが、紙面の都合でこの方々のご紹介は次回(10月10日号)の会報になりますので、ご了承願います。

＝ 倶楽部だより ＝

◎ 6 月

理事会 (18日)

月次会 (24日) 「教師の見た野間清治」

講師 大里仁一先生

桐生倶楽部はぐるま句会 (27日)

◎ 7 月

歩く会世話人会 (3日)

理事会 (9日)

歩く会 (27日) 「梅雨明けの夏山、百花繚乱の美ヶ原高原歩きと美術館」

桐生倶楽部はぐるま句会 (28日)

月次会 (30日) 「(第2回)インターネット」

桐生倶楽部はぐるま句会 (五月)

朝の茶に立夏の空の映りけり

大 槻

露揺らし雀一匹隠れたり

森

夏めきて琴平歌舞伎幟立ち

本 田

沢水をかくすに足らず背戸の露

久 保 田

独り酌む辛口の酒遠蛙

小 池

往來の夏めく理容大鏡

尾 澤

せせらぎに蛙鳴く声懐かしく

清 水

白き肩紐の細さに夏めきし

吉 成

桐生倶楽部はぐるま句会 (六月)

緑蔭に己が影ごと入りけり

尾 澤

弾痕のある洞窟の曇さかな

本 田

蟻道をたどれど見えず列の先

久 保 田

雨意知るか蟻の行列あわただし

小 池

緑蔭に染まる少女の長き髪

森

土鳩鳴いて動くものなき暑さかな

大 槻

蟻の列はなれて蟻が迷いおり

清 水